

事項一三 東支鉄道問題

三六五 一月十六日 在ハルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

護路軍ノ東支鉄道運賃支払方法ヲ纏ル運行停

止ニ関シ報告ノ件

第一三三号

十六日長春發哈爾濱向及哈爾濱發長春行東支汽車運轉停止セラレタリ右ニ付張煥相ハ秘書ヲ本官ノモトニ派シ奉天出征ヨリ歸來セル護路軍ノ一部寛城子ニテ乗車セントシタルニ「イワノフ」ハ運賃現金ニアラサレハ輸送セストテ発車セシメス同様馬賊討伐ノ為ハ爾濱ヨリ密門ニ派遣セントスル軍隊ノ輸送ヲモ拒絶シ(客年往電第二一八号及公信第五五一号参照)是カ為長哈間ノ交通杜絶セルモノニテ其ノ責任ハ東支鉄道管理局ノ負フ可キモノナリト声明セシメタリ在支公使、奉天、長春ニ電シ、滿州里、齊齊哈爾ニ暗送セリ

三六六 一月十七日 在長春栗原領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

シ勞農側ハ軍隊下車スルカ貨銀ヲ支払フニ非サレハ断シテ旅客列車ヲ運轉セスト稱シ全線従業員ノ「ストライキ」ヲ以テ之ニ応酬セント息巻キ居ル趣ニテ事態容易ナラサルモノアル模様ナリ尚「イワノフ」ハ前記運賃問題會議ニ列席スルヲ不得策トシ態トハ爾濱ヲ離レ十五日不意ニ來長十七日朝貨物列車ニテ同地ニ帰着シタル由ナルカ同人ニテハ支那側トノ交渉ニ便ナラサルタメ結局当地滿鉄側ノ觀察通り過般北京ニ出張シ十七日後当地着ノ予定ナルハ爾濱發農總領事ノ帰哈ヲ待タサル限り本件解決困難ナルカ如ク当分旅客列車ノ運轉中止セラレルモノト見ル外ナキヤニ思考セラレ在支公使、哈爾濱、奉天ニ電シ吉林、安東、牛莊、關東長官ニ暗送セリ

三六七 一月十七日 在ハルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

長春ハルビン間ノ貨物旅客列車ノ運行停止及

ビ領事團ノ抗議ニツキ報告ノ件

第一四号 (一月十八日接受)

往電第一三三号ニ関シ

一三 東支鉄道問題 三六七 三六八

奉天出征吉黑軍ノ歸還部隊引揚ノ際、輸送運賃ノ未払ヲ纏リ奉ソ間紛擾ノ件

第四号

支那側ハ去ル十四日より集奉中ノ吉黑軍引揚ケヲ開始シ連日二列車ヲ以テ奉天ヨリ当地ニ輸送セラレツツアリタルカハ爾濱方面ヘノ歸還軍隊ハ東支線運賃後払問題未解決ノ為メ寛城子駅ヨリ徒歩北上シ居レリ然ルニ昨十六日約八十名ノ歸還兵ハ密門駅付近ニ馬賊出現シタルニ付之カ討伐ニ赴クト稱シ旅客列車ニ乗込ミ動カサルカ為メ鉄道側ハ哈爾濱管理局ニ指令ヲ仰キ運賃現払ヲナササル以上輸送セスト稱シ下車ヲ要求シタルニ軍隊側ハ張煥相ヨリ下車スヘカラストノ命令アリタル由ニテ頑トシテ之ニ応セサルハ勿論兵力ヲ以テ列車ヲ占領シ双方睨合ノ姿トナレリ他面哈爾濱ニ於テハ同日偶々東支鐵道理事會ヲ開キ軍隊輸送運賃問題協議中ナリシカ双方ノ主張強硬ニテ議纏ラサルノミナラス支那側ハ兵力ヲ以テシテモ之カ貫徹ヲ図ラントスルノ態度ヲ示シ「イワノフ」ノ非行ヲ指摘シ主權回復ヲ絶叫シ居ルニ對

十七日ニ至リ長哈間貨物旅客各列車ハ一切運轉ヲ停止セリ同日張煥相ハ本官ヲ來訪往電第一三三号同様ノ事情ヲ述ヘ領事團ニ伝達方ヲ依頼シ今後ノ態度ニ付テモ内話スル処アリタルカ他方「イワノフ」ハ米國丁抹領事及郡司ニ對シテ列車運轉停止ノ原因ハ寛城子ニ於ケル支那兵ノ暴行ニ基カシモノナリト述ヘタル趣ナリ其ノ後領事團會議ノ結果露支間ノ紛争ニ立チ入りヲ避ケ直ニ張護路軍司令蔡道尹劉東支督弁「イワノフ」管理局長ニ對シ速カニ交通状態ヲ回復シ特ニ郵便物ノ遞送ノ方法ヲ講スヘキコトヲ要求シ同時ニ各外國人ノ受クル損害ニ對シテハ後日賠償ヲ請求スヘキ權利ヲ保留スル旨ヲ通報スルコトニ決定セリ然ルニ同日午後十時当地發南行列車ハ支那側武力的威嚇ニ依リ運轉サルルモノノ如シ

在支公使、奉天、長春、齊齊哈爾、滿州里ヘ電シ

三六八 一月十八日 在長春栗原領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

グラントソ連邦總領事ト中国側トノ交渉決裂

シ東支鉄道全線ノ運行停止シタル旨ノ情報報告ノ件

第七号

滿鉄側へノ情報ニ依レハ本十八日朝「グラント」総領事ト支那側トノ交渉決裂シ支那側ハ東支鉄道西部東部兩線ニ亘リ南部線同様武力干渉ニ出テタルカ為メ東支全線ニ運轉停止セラルルニ至リ露国側ハ自国ノ軍隊ヲ以テ鉄道ノ守備及之カ整理ヲナス外ナキ旨声明シタル趣ナルカ目下寛城子ニ滯在中ナル奉天ヨリノ帰還兵歩兵二六旅ノ一部約一千二百ノ軍隊ハ之カ為メ哈爾濱ニ急行スルコトナリ昨日來姿ヲ暗マシ居ル露国従業員ヲ狩立テ武力ヲ以テ特別列車ヲ仕立テシメ本夕七時發車セシムルコトナレリ

在支公使、奉天、哈爾濱へ転電シ吉林、安東、牛莊へ暗送セリ

三六九 一月十九日

在ハルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東支鉄道南線運行停止問題ヲ繞ル張煥相護路

軍司令、イワノフ管理局長双方ノ思惑ニツイ

テ観測報告ノ件

第一五号

往電第一四号ニ関シ

軍ノ兵力ニテハ国境ニアル赤露軍隊ト對抗シ得サルカ故ニ強硬手段ニ出スル事ナク飽迄平和的方法ニテ解決セントスルモノノ如シ停車ノ原因ニ付テハ張煥相ト「イワノフ」ノ主張ニ非常ナル相違アルモ「イワノフ」カ先ツ支那兵ノ輸送ニ対シ運賃現金払ヲ主張シテ發車ヲ止メタルハ事實ナルト同時ニ支那兵ノ寛城子ニ於テ「ポイント」ヲ閉鎖シ其他乱暴ヲ働キタル事モ事實ナルモノノ如シ只其先決問題タル護路軍ノ輸送ハ無賃ナリヤ否ヤニ付テモ支那側ニ於テハ無賃ナリトシ露西面側ニ於テハ斯ル規約ナシト主張シ意見ノ相違アリ殊ニ寛城子迄來リシ軍隊カ果シテ護路軍ノ一部ナリヤ否ヤ又甞門ノ馬賊出現ハ事實ナリヤ否ヤモ疑ノ余地アリ大体ニ於テ支那側ハ苦シキ立場ニアルノミナラス張煥相自身ニ於テモ飽ク迄抗争セントノ腹モ定マリ居ラサルモノナルカ故ニ結局支那側ハ自ラ列車運轉ノ計画ナラサル限り軍隊輸送問題ハ別問題トシテ至急本問題ヲ解決シ交通回復方ニ努力スルヲ得策ト見ルニ非サルカト思考セラル

在支公使、吉林、長春へ転電シ滿州里、齊齊哈爾へ暗送セリ

張護路軍司令ハ十七日午後十時哈爾濱發長春行旅客車ノ発車ヲ命シ當ニ發車セントシタル際數十名ノ支那兵乗込マントシタル為又紛争起リ駅内一場ノ混乱ヲ演出シ遂ニ發車見合トナリタリ

十八日朝勞農「グラント」総領事特別列車ニテ來哈セル以外長哈間ノ汽車依然停止セリ十八日「イワノフ」ハ郡司ニ對シ支那側ニ於テ軍隊ヲ乗車セサル旨ヲ誓約セハ何時ニテモ列車ヲ運轉スヘキ旨ヲ語り十九日朝ヨリ貨物自動車ヲ以テ郵便物ヲ運送スル事ニ手筈ナレリ東部及西部線ハ何等故障ナク運轉ス

世上一部ニハ今回ノ東支南線列車ノ停止ハ「イワノフ」カ軍隊輸送問題ニ託ケテ例ノ強硬政策ヲ行ハン為ナリト見做ス者アルモ本件發生ノ原因ニ付見レハ此觀察ハ余リニ穿チ居ル感アリ但シ「イワノフ」トシテハ南行交通回復ニ焦慮セサルハ当然ナルヘク結局列車運轉ノ回復ニハ支那側若クハ最モ利害關係アル滿鉄等ヨリ發動スルノ必要アルヘシ十七日張煥相ノ談話ヨリ察スレハ張自身ハ京奉、四洮、吉長諸鐵道ヨリ支那現業員ヲ徵發シテ南行線ヲ自ラ運轉セントスル意向アリ目下奉天ニ打合中ナルモノノ如キモ現在護路

三七〇 一月十九日

在長春張煥相ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張煥相ノ旅客列車運轉再開指令ニモ拘ラズイ

ワノフ局長ノ嚴命ニ依リ寛城子駅長發車ヲ見

合ワセタル旨報告ノ件

第九号

(一月二十日接受)

本十九日午後六時張煥相ヨリ寛城子駅長ニ對シ本夕九時半發列車ヨリ平常通旅客列車ノ運轉ヲ再開スヘク之ニ服從セサルニ於テハ護路軍ニ命シ逮捕セシムヘキ旨ノ電報アリ同駅長ハ之ヲ滿鉄側ニ通報スルト共ニ發車準備ヲ為シ居タル処他面「イワノフ」ハ右張ノ命令ヲ探知シタルモノノ如ク同駅長ニ對シ護路軍司令ヨリ運轉再開ノ電命アリタル模様ナルモ絶対ニ發車ヲ許ササル旨嚴命シ來タレル趣ニテ駅長モ「イワノフ」ノ命ヲ奉シ兎ニ角發車ヲ見合ハスコトトシタリ

北京ニ転電シ奉天、哈爾濱、吉林ニ暗送セリ

三七一 一月十九日

在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東支鉄道運轉中止問題ニ関スル楊宇霆ノ談話

報告ノ件

第二九号

(一月二十日接受)

東支鉄道運輸中止問題ニ関シ本十九日楊宇霆ノ内山ニ語ル所ニ依レハ

本件ハ僅カニ百五十名余ノ護路軍輸送拒絶ニ出発シテ運賃問題現金払カ問題ノ中心ナルヤノ如キモ実ハ表面口実ニ過キス予テ東支鉄道ニ関スル協定ヲ全然無視シ来レルニ対スル不満カ問題ノ根底ナリ奉天側ハ何処迄モ強硬對抗ノ決心ニテ差シ当リ吉林黒龍江軍ノ帰還ヲ早メ新民府付近駐屯兩軍先発隊ハ昨日ヨリ当地来着吉林軍ハ騎兵一旅一混成旅ノ外歩兵一師ヲ合セテ約二万ヲ長春ヨリ徒歩ニテ哈爾濱方面ニ向ハシムヘク又黒龍江軍ハ騎兵一師ト二混成旅ヲ合セテ約一万ヲ洮齊線ニ依リ齊齊哈爾方面ニ向ハシムヘシ右北滿ニ於ケル兵力ノ充実ヲ待チ京奉、四洮、吉長等ノ従業員ヲシテ東支鉄道ヲ運轉セシムル方針ナリ

露國ハ其ノ日頃標榜セル手前モアリ軍隊ヲ以テ北滿ニ侵入スルカ如キハ國際關係上容易ニ為シ得サル所ナルヘク多分其レ迄ハ讓歩スルナラント思考スルモ奉天側ハ今回ハ内乱ニ非ス国内ノ同情モアルヘキヲ以テ敗戦ヲモ辞セサル覚悟

三七二 一月十九日

在中国公使館付本庄陸軍武官ヨリ
金谷參謀次長宛(電報)

ソ連邦ノ北滿駐兵權保持ニ対スル在中國ソ連

邦大使館付エゴロフ武官及ピカラハン大使ノ

意向ニ関シ報告ノ件

支第二九号

(一月二十三日外務省接受)

寬城子哈市間鉄道不通問題ニ関シ当地露國大使館付武官

「エゴロフ」ハ其原因ヲ在哈日本領事カ張煥相ヲ援助シアルニ基クモノト確信シアリテ本事件ヲ機トシ兵力ヲ北滿ニ出タサントスルノ希望ヲ再三繰リ返シタル後露國カ駐兵ヲ断行シタル場合ニ於ケル小官並ニ日本政府ノ意見ヲ質問シタルモ尚其日本ニ対スル従来ノ言動ニ依レハ駐兵ノ意向極メテ濃厚ナルモノト觀察セラル尚露國ハ支那政府ニ対シ一時之ヲ単ニ地方的問題トシテ真面目ナル交渉ニ応セサルニ於テハ露國政府ハ露支條約ヲ全部改訂シテ右駐兵ノ解決ニ努ムルナラント「カラハン」ハ本問題ヲ重視シ莫斯科ニ意見具申シ目下之カ研究ニ没頭シツツアリト尚彼カ意向左ノ如シ

東支沿線各地ニ駐兵シテ日本ノ南滿沿線駐兵ト相對シ日露

ニテ拮抗スル積リナリ又于沖漢ノ談ニ依レハ露國側カ早晚斯ル手段ニ出ツヘキハ久シキ以前ヨリ洞察シ居タルコトニモアリ昨年九月頃自分ハ奉天側トシテ助手五十名及滿州里、哈爾濱「ボグラニチナヤ」ノ三地ニ優秀ナル奉天軍二万ヲ配置スル様建議シタルコトアリ露國側ハ南滿州(脱)シ運賃ノ如キハ單ニ其ノ口実ニ過キス又奉天側モ事件ヲ平和ニ解決セント欲セハ運賃ヲ支払ヘハ足り極メテ簡單ナルモ東三省カ有スル十一億留紙幣ノ債權ニ比スレハ滞リ運賃ノ如キハ問題トナラス從來勞農側ノ遣リ口ニ鑑ミレハ奉天側カ強硬ノ態度ヲ示セハ多分屈服スヘキモノト思考スルモ只タ俱ルルハ時節柄内部的ノ混乱ヲ醸スコトナキヤニアリ此ノ点カ露國側ノ付ケ目ニモアリ又当方ノ憂慮スル所ナリ云々

尚ホ当地露國總領事館員ノ独逸領事ニ洩ス所ニ依レハ本件ハ主義上ノ争ニシテ何等政治的ノ意図ヲ有スルニ非サルヲ以テ支那側ニ於テ聞キ入レサルニ於テハ讓歩スルノ外ナカルヘシト語レリト言フ

北京、哈爾濱、長春ニ電シ吉林、齊齊哈爾ヘ暗送セリ

ノ接近ヲ図ル事カ滿州ノ治安維持上有効ナリ

之ニ対シ小官ハ日本ノ南滿ノ駐兵ハ「ポーツマス」條約ニ基クモノニシテ爾來我政府ハ駐兵問題ニ就キ何等支那側ニ提議シタルコトナキニ反シ貴國ハ歐洲戰後東支沿線ヨリ撤兵シタルノミナラス最近ノ露支交渉ニ於テ自ラ不平等條約ノ撤廢ナリトテ是等ノ權利ヲ悉ク放棄シタルカ故ニ今日ニ於テハ日露其立場ヲ異ニシアリ且吉・黒兩省支那當局ハ貴國カ更ニ鐵道守備兵ヲ派遣スルコトニ就キテハ恐ラク反對スルハ明ナリ然ラハ秩序維持ノ目的ニ反對ノ結果ヲ招来セスマヤト答ヘタリ

之ニ対シ「カラハン」ハ最近ノ露支交渉ハ支那中央政府ヲ相手トシタルモノナルカ故ニ若シ東三省ニシテ中央ト離脱シ露國ノ權利ヲ無視スルカ如キ行為アリトセハ前記露支協定ノ条件ノ如キハ之ヲ取り消シテ自國ノ權利ヲ保持スルノ措置ヲ取ル可シト述ヘタリ

三七三 一月十九日

在長春栗原領事ヨリ
幣原外務大臣宛

寬城子駅ニ於ケル停車事件ノ真相報告ノ件

機密公第二二号

(一月二十七日接受)

大正十五年一月十九日

在長春

領事 栗原 正(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

寬城子駅ニ於ケル停車事件ノ真相報告ノ件

本件ニ関シ露支双方勝手ノ主張ヲ為シ互ニ責任転嫁ヲナサ
ムトシツアル様見受ケラルルニ付拙電第四号ヲ以テ概要
報告済ナルモ為念當館ニ於テ得タル情報ヲ綜合シ詳述スレ
ハ左記ノ通り

記

支那側ハ本月十四日ヨリ出征中ノ吉黒軍隊ノ引揚ヲ開始シ
一日二列車宛奉天ヨリ当地ニ輸送シツアルモ右ノ内哈爾
濱方面へ帰還スヘキ軍隊ハ昨秋以來東支鐵道運賃後払問題
未解決ノ為汽車輸送不可能ナルヲ以テ已ムヲ得ス寬城子ヨ
リ徒歩北上スルコトナリ本月十五日以來奉天ヨリ帰還シ
タル吉林第十五師第二十六旅中元一面坡駐屯第十二團及元
東支東部線鉄嶺河駐屯第十六團(何レモ奉天ニ出征シタル
護路軍ナリ)ハ徒歩ニテ当地ヲ出発スルコトナリタル処
帰還兵ノ一部ハ本隊ノ帰營準備ト留守中暫駐シタル他部隊

機關車ヲ車庫ニ入レ又ハ火ヲ下シテ列車運轉ヲ困難ナラシ
ムルヲ怖レ警戒シタルニ過キスト称シ居レリ)シツツ夜ヲ
徹セリ鐵道側ハ支那側ノ武力圧迫ニ對抗シテ「ストライ
キ」ヲ為シ東支南部線全部ノ運行ヲ停止スルニ至レリ
尤モ右將卒八十名ハ露國機関士ヲ強要操縦セシメ翌十七日
午後四時寬城子ヲ発車無事目的地タル窰門ニ輸送シ終リタ
ルモ同日管理局ハ貨物列車ノ運轉ヲモ中止シ長哈間ノ交通
全ク杜絶スルニ至レル次第ナリ

尚窰門附近ノ馬賊ニ関シ当地羽田鐵道事務所長ノ談ニ依レ
ハ客贓同地ニ約八十名ノ有力ナル馬賊出沒シ馬車等ノ被害
尠ナカラサリシ為支那軍隊ノ討伐ニ向ヒタルモ却テ馬賊
ニ撃退セラレ引続キ交通事故頻発スル状況ナリシニ顧ミ本
月十四日同事務所長ヨリ張護路軍司令宛之カ討伐方要請シ
タル事實アル趣ナリ從テ支那軍隊カ前記ノ通り馬賊討伐云
々ト称シ乗車セムトシタル事モ穴勝ち一片ノ口実トノミハ
称シ難ク支那側ニ於テ之ヲ利用セントシタルヤ否ヤ兎モ角
相当根拠アルモノト云ハサルヲ得サルヤニ思料セラル
本信写送付先、在支公使、奉天、吉林、哈爾濱各總領事、
安東、牛莊各領事

ノ引揚ニ伴フ事務引継等ノ為ニ普通列車ニ分乗先発セシム
ルコトニ内定シ居リタル様子ナルカ偶々過般來ヨリ窰門付
近ニ有力ナル馬賊出沒シ居リテ之カ討伐ノ必要起リタル趣
ニテ兩団中將校下士卒八十余名ヲ汽車輸送スヘク同十六日
午前十一時五十四分長春發ノ第四列車ニ寬城子ニ於テ乗車
方東支側ニ(支那側ハ護路軍トシテノ無賃乗車券ヲ所持シ
タリト申立ツルモ真偽不明)交渉シタルニ東支側ハ運賃現
払ニ非ラサレハ乗車セシメ難キ旨ヲ以テ拒絶シタルモ軍隊
側ハ強力ヲ以テ列車ニ乗込ミタリ然ルニ寬城子駅長ハ一面
列車ノ発車ヲ止ムルト共ニ他面之カ措置方ヲ管理局ニ請訓
シタル処管理局ハ折返シ支那兵下車スルニ非ラサレハ断シ
テ発車セシムヘカラサル旨命シ來リ軍隊側ニ於テハ又護路
軍總司令部ヨリ断シテ兵ヲ下車セシムヘカラス食料其他必
要ノ給与ハ車内ニテ之ヲ為スヘキコトノ敕命ヲ受ケ互ニ相
譲ラス更ニ管理局側ヨリハ支那兵下車ヲ肯セサルニ於テハ
機關車ノ連結ヲ解キ列車ヲ放置スヘキ旨命シ來レル為鐵道
側ハ其ノ連結ヲ解カントスルニ支那側ハ機關車ノ周圍ニ寬
城子ノ守備兵ヲ配置シ武力ヲ以テ之ヲ妨ケ同時ニ同地ニ於
ケル一切ノ輪轉設備ヲ武力ヲ以テ警戒(支那側ハ鐵道側カ

三七四 一月十九日 木村亜細亜局長 會談
米國大使館員

東支鐵道輸送問題ニ関スル中ソ衝突ニツイテノ

會談要領

東支鐵道輸送問題ニ関スル露支衝突ニ就テノ木村
亜細亜局長米國大使館員會談要領

大正十五年一月十九日午後米國大使館員「ドウマン」木村
局長ヲ來訪東支鐵道運輸問題ニ関シテ情報ヲ求メタルニ付
木村局長ハ今日迄當省ノ接受セル報告ニ拠レハ今日迄新聞
紙上ニ掲載セラレシ報道ハ大体正確ナリ本件ノ第一ノ原因
ハ東支鐵道管理局側ニ於テ支那軍隊ノ北方輸送ヲ拒絶シ先
ツ昨年來ノ軍隊輸送ノ未払運賃ノ支払ヲ要求シ又今回ノ輸
送ニ関シテモ先ツ運賃ノ支払ヲ求メタル処支那側ハ之ニ對
シ運賃支払ノ延滞問題ト護路軍輸送問題トハ別個ノ問題ナ
リトシ哈爾濱ニ於テ遂ニ露支當局間ノ談判破裂シ更ニ又在
哈爾濱露國總領事「グラント」ト奉天軍憲トノ間ニ交渉ヲ
重ネタルカ「グラント」ハ右交渉中支那ニ於テ鐵道ノ運轉
ヲ暴力ヲ以テ強制スルニ於テハ露國側モ亦武力ヲ以テ之ニ
對抗セサルヲ得サル事態ニ立至ルヘシト述ヘタル結果該交

渉モ決裂シ形勢ハ悪化シテ露支武力衝突等ノ風説サヘ伝ヘラレ居ル次第ナリ此間哈爾濱領事団ニ於テハ何等カ円満ナル解決方法ニ依リ切メテ国際鉄道ニ於ケル列車ノ運轉開始タクニテモ調停セムトノ意向モアリシカ今日ノ如ク露支双方ノ論争錯綜セル渦中ニ混入スルハ不得策ナリトシ単ニ列国在留民ノ商業上ノ利益保護ノ見地ヨリ取敢ヘス(一)列車ノ即時運轉(二)郵便物新聞紙ノ特別輸送方法及(三)列国民ノ損害賠償權ノ留保ノ三決議ヲ露支双方ニ提示シテ其注意ヲ喚起スルニ止メ事件ノ發展ヲ慎重ニ注視セル現状ナリ一方支那側ハ自ラ鉄道員ヲ召集シテ運轉ヲ開始セムトシ露国側ハ鐵道全線ニ亘リ一切ノ運轉ヲ中止シテ之ニ対抗スル状態トナレリ予ノ見ル処ニ拠レハ元來軍隊輸送運賃ノ延滞債務ノ問題トスル国際通路ノ交通杜絶ノ問題トハ自ラ別個ノ問題ニ屬スルモノニシテ露支兩國側ノ態度今少シク冷静トナレハ双方ノ間ニ何等カ妥協方法ヲ講シ得ル訳ナリ目下ノ処騎虎ノ勢ヒ双方ノ面目ノ問題ヨリ形勢悪化セルモノニテ或意味ニ於テハ一種ノ兇戯ニ類スルモノトモ見ラレル処今直ニ之ニ依リ兩國間ニ武力衝突即戦争ノ如キハ今日ノ処アリ得サルコトト思考ス然シスル辺鄙ノ地方ニ於ケル感情ノ衝突ハ

第四〇号

東支鉄道問題ニ関シ「カラハン」ハ二十日外交部ニ対シ長文ノ抗議(大要東方電ニテ御承知アリタシ)ヲ提出シタルカ其末段ハ別電第四一号通在露大使、奉天、哈爾濱、長春、齊齊哈爾、滿州里ハ転電セリ

(別電)

一月二十一日在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛電報第四一

号
カラハンノ外交部ニ対スル抗議文末段

第四一号 別電

I am likewise constrained to declare that if the Military Headquarters and the Chinese authorities, whose duty is to protect the Chinese Eastern Railway and to maintain order on the same, were not willing or able to secure necessary protection and order, I should be ready to discuss jointly with you, the measures, which in such circumstances would be indispensable for both Governments to take.

I invite your attention, Monsieur le Ministre, to

屢々悪化シテ意外ノ局面ヲ展開スルコトモアレハ露支衝突絶対ニナシトノ断言ハ出来ス少クトモ日本ハ哈爾濱領事団ト共ニ本件ノ變化ヲ慎重ニ注意セル次第ナリ成ルヘクハ適当ノ機会ニ利害關係各國ノ領事団ニ於テ何等カ解決方法ヲ見出シ双方ヲ妥協セシムルヲ得ハ最モ可ナルモ目下ノ処未タ其ノ時期ニ非スト思考スト述ヘタルニ「ドウマン」ハ何分目下支那ニ於ケル交通通信ハ不規則ナル状態ニ在ルヲ以テ北京ヨリ当方ニモ又本国ニモ真相ノ報道ナルヘキニ付外務省ノ有セラルル報道ヲ聴取シテ本國政府ニ真相ヲ電報シ度キ希望ニテ参上セル次第ナリト述ヘ謝意ヲ表シテ引取レリ

(大正十五年一月十九日木村局長口授田中官補記)

三七五 一月二十一日(着)

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

カラハンヨリ外交部ニ対シ抗議文ヲ提出シタ

ル旨報告ノ件

別電

一月二十一日在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛電報第四一号
カラハンノ外交部ニ対スル抗議文末段

the seriousness of the situation, to the necessity of taking extraordinary measures and to all the grave consequences that may arise, if such situation would be allowed to continue.

I must add, at the same time, that my Government will hold the Chinese Government responsible for all damage inflicted through the actions of the Chinese Authorities, as well as resulting from the outrages committed by Chinese Military.

哈爾濱、長春、齊齊哈爾、滿州里ハ転電セリ

三七六 一月二十一日(着)

在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

在ハルビン天羽総領事宛中国側ニ同意セシム

ヘキ調停条件回示アリタキ件

第三三号(極秘)

本官発哈爾濱総領事宛電報第七号

東支鉄道問題ニ関シ支那側ハ表面甚タ強硬ナルカ内実張作霖ハ確タル考モナク又準備モナク単ニ郭松齡事変中黒龍江軍輸送ヲ突然中止シタル恨ヨリ感情上強硬ヲ装ヒ万一ノ場

合東支鉄道破壊ヲ以テ露ニ對抗スル位ノ決心ニテ對抗シ居ルモノナレハ当地有識者中ニ於テハ郭松齡ニ依リテ生セル創痍未タ癒ヘサル今日無用ノ争ヲ為シテ再ヒ内ニ混乱ノ衝動ヲ生シ東支ヲシテ遂ニハ其ノ乗セシムル所トナラサルヤヲ惧レ程好キ所ニテ妥協ノ希望ナキニ非ス東支側強硬ヲ装フモ又同様ノ弱点アルヤニ想像セラルルニ付本官ハ王省長ニ対シ支那側ノ立場ニ同情スルト共ニ哈爾濱帝國総領事ニ本件調停依頼ヲ懇願シツツアリ王モ頗ル同意ナルカ張作霖下野ヲ口ニシ居ル今日依頼実現ニハ多少時日ヲ要ストノ意見ナリ本官ハ露支對抗ノ今日其ノ間ニ斡旋スルハ貴地ニ於ケル我立場上有利ナラサルカト思考スルカ御同見ナレハ支那側ヲシテ同意セシムヘキ調停条件御回示ヲ請フ
外務大臣及長春へ転電セリ

三七七 一月二十一日(着) 在ハルビン天羽総領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

東支鉄道運行ニ関シ張作霖ノ訓令ニ基ツキ積極的政策ニ出デントスル張煥相ノ談話報告ノ件

第一六号

当地ニ着ス可ク追テ東西兩部沿線ニ配置セラル可シ他ノ(脱)南部線ニ駐屯シ殘部ノ千名ハ寬城子附近ニ留メ置ク心算ナリ其ノ外哈爾濱附近ヨリ騎兵一營歩兵一營ヲ哈爾濱ニ集合シツツアリ吳俊陞ニ対シテハ「フルヤルジ」「ジャラントン」ノ間ニ騎兵二營派遣方依頼シ置ケリ云々ト内話シタリ

東支南線列車運行停止ノ原因如何ニアレ是ニ依リテ最モ影響ヲ蒙ルモノハ滿鉄及日本ナルカ故ニ我方ノ先ツ努力セサル可ラサルハ急速ナル交通ノ回復ニアリ只軍隊輸送問題ニ就テハ露支間ニ既ニ議論尽サレタルカ故ニ今其ノ主張ヲ繰返スモ解決ヲ進ムル所以ニアラス從テ往電第一五号末段ノ如ク支那側ニ於テ自ラ列車運行ノ計画ナラサル場合ハ軍隊輸送問題ヲ別問題トシテ交通回復ニ努力セン事ヲ希望シ張煥相トモ談合ヲ遂ケタル事アリシカ張煥相ハ右ノ如ク張作霖ノ訓令ニ勢ヲ得テ積極的政策ニ出テントスルモノノ如シ滿鉄本社ハ当地滞在中ノ大蔵理事ニ対シ支那側ニ於テ京奉、四鄭、吉長諸鉄道現業員ヲ徵発スル場合ハ是等諸鉄道ノ欠員ハ滿鉄ヨリ補充スル事ヲ得ルモ今後ノ輸送問題ニ関シテハ表裏トモ何等関与ス可カラサル旨電訓シ來レリ國際

往電第一五号ニ関シ

其後長哈間汽車依然不通十九日張煥相來訪十九日張作霖ヨリ東支側ニ於テ護路軍ヲ輸送セサルハ全線ノ運行ヲ停止ス可シ奉天ノ許可ヲ得ルニアラスハ東支ハ再ヒ運行ヲ回復スルヲ得ストノ電訓ニ接シタルカ故ニ直ニ先ツ自ラ長哈間ノ交通ノ回復ヲ計リ若シ障害起ラハ全線ノ運行ヲ停止ス可シ国境進出ノ憂無シトノ転電ヲ発シ置タリ既ニ「イワノフ」ニ対シ直ニ列車ノ運行ヲ命シ之ニ応セサル時ハ自ラ運行ス可キ旨ヲ通告シ置ケルカ只今ノ計画ハ先ツ当地ニ在ル鉄道経験者(主ニ旧東支鉄道員タリシ白系露国人)ヲ使用シテ長哈間ノ列車運行ニ当ラシメントスルモノニシテ本日長官公署ハ之カ準備ノ為三萬元ヲ支出シ中国銀行ニ切符発行ノ用意ヲ為サシメ二十日以後ハ何時ニテモ運行ヲ開始シ得可シ「イワノフ」若シ之ニ對抗スル「ストライキ」ヲ為スニ於テハ東支全線ノ運行ヲ停止ス可シ場合ニ依リテハ「イワノフ」ヲ捕縛スル覚悟ナリ寬城子ニテ問題トナリタル軍隊ハ護路軍第二十六旅四千余名ナルカ其内千五百ハ十九日午前十時寬城子發当地ニ向ヘリ右ハ露国機関士ヲ強制シタルモノニシテ途中ノ危険モ有レハ極メテ徐行二十一日

運送ハ滿鉄ノ後援ニ依リ二十日ヨリ長哈間馬車輸送ヲ開始スル事ニ手配セリ
在支公使、奉天、長春ニ転電シ、齊齊哈爾、滿州里ニ暗送セリ

三七八 一月二十一日(着) 在ハルビン天羽総領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

領事団會議ニ於ケル張煥相ノ中国側ノ立場說明ニツキ報告ノ件

第一八号

往電第一六号ニ関シ

十九日張煥相來訪ノ際領事団ノ通告ニ対スル回答書ヲ持参シ列車停止ノ責任ハ全然「イワノフ」ニアルコトヲ縷々釈明スル処アリ更ニ張作霖ヨリ本問題ニ対スル全權ヲ委ネラレタリト積極的の方策ヲ建テタリトテ自身領事団ト会合ヲ希望シタルカ故ニ二十日当館ニ開カレタル領事団會議ニハ張司令ヲ招待セリ

「イワノフ」ハ領事団ニ出席説明ヲ欲セサルハ明ラカナルモ公平ヲ期スル為之ヲモ招待シ置ケリ張煥相ハ會議ニ於テ客年十一月護路兵無賃乗車券ヲ許サストノ命令ヲ出シタル

ハ理事會ノ決議ヲ經スシテ勝手ニ七年間ノ慣行ヲ破リタルモノニシテ違法ナリ「イワノフ」カ二十六旅ノ寛城子着ヲ見越シテ特ニ同地ニ至リ事件ヲ構ヘタリ汽車ヲ保護スルハ護路兵當然ノ任務ナルニ之ニ賃金ヲ要求スルハ不当ナリ尚東西兩部線ニハ護路軍力無賃乗車券ヲ使用スルニ南部線ニノミ之ヲ禁スルハ公平ヲ欠クモノナリト約三時間ニ亘リテ詳細支那側ノ立場ヲ説明シ「イワノフ」若シ列車運轉セサル時ハ自ラ之ヲ運行スヘシト言明シ同日一時発旅客便乗十四名ノ護路兵ニハ無賃乗車券ヲ使用スト付言セリ張司令ノ言ヨリ察スレハ軍隊輸送問題ハ依然解決セサルモ南部線カ不規則ナカラ兎ニ角開通ヲ見ルモノト思ハル

右領事団會議ニ於テ往電第一四号關係当局ニ対スル損害賠償要求ニ関シテハ各自本國政府ニ請訓ノ上方針ヲ決定スルコトニ申合セタリ

在支公使、奉天、長春、滿州里、齊齊哈爾ニ電報セリ

三七九 一月二十一日 在ハルビン天羽總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報) 東支鐵道南部線運行問題解決方法ニ関スル私見ヲ領事団會議ニ於テ提議シタル旨報告ノ件

負ハシメタルカ故ニ東支管理局ハ列車ノ運行ヲナササル場合ハ先ツ支那ヲシテ運行ニ当ラシムヘク支那若シ運行ヲナシ得サル場合ハ列國直接運行問題ヲ考究スル必要アリ右ハ本官ノ私見トシテ領事団會議ニモ述ヘタル処ナルカ各國領事ハ別ニ異存ナシ而シテ張司令ハ領事団ニ対シ責任ヲ以テ交通ノ迅速回復ヲ保障セル以上外國トシテハ暫ク其言明ニ信賴スルノ外ナカルヘシ只張司令カ果シテ現在従業員ノ力ヲ藉ラスシテ自ラ運行ヲナスノ用意アリヤ否ヤハ結局管理局ヲ強制シテ運行ニ当ラシムルノ他ナカルヘキカト思考ス往電第一三号乃至第一八号要領在露大使、浦潮、吉林、奉天ニ電報セリ 在露大使、在支公使、奉天ニ電報シ吉林、浦潮、長春、齊齊哈爾、滿州里ニ暗送セリ

(欄外記入)

露支協定ニ対シ既得權留保ノ申入ヲ為シタル際支那政府ニ於テ當時既ニ露支協定成立ノ今日華府會議決議ニ基ク事態變更シ居ルコトヲ主張シ居レリ

三八〇 一月二十一日 在ハルビン天羽總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

一三 東支鐵道問題 三八〇 三八一

第一九号 (一月二十二日接受)

列車停止問題ノ直接原因タル護路軍輸送問題ハ客年六月第九四号命令若ハ最近露國側ヨリ提議セラレタル東支督弁廢止問題ノ如ク東支ニ対スル露支抗争ノ一端ヲ現ハスモノニシテ尚幾多ノ曲折ヲ經サレハ根本的解決ヲ期シ得サルモ差当リノ方便トシテハ護路軍輸送問題ハ護路軍司令ト東支管理局トノ間ニ交渉ヲ繼續スルコトトシ其間普通列車ニ依リテハ護路軍ノ輸送ヲ行ハス普通列車ニハ唯列車保護ニ必要ナル最少限度ノ護路兵ヲ乗車セシメ至急運行ノ回復ヲ計ラシムルモ一方法ナルヘク二十日領事団會議ニ於テ之ヲ張司令ニ提議シタルニ同司令ハ大体ニ異議ナキモ「イワノフ」ハ目下寛城子ニアル護路軍ノ輸送ニ対シテモ列車ノ配給ヲナササルカ故ニ管理局ニ於テ軍用車ノ供給ヲナササル限リ実行困難ナリト付言シタリ 按スルニ露支兩國ノ東支鐵道運行ハ露支協約及奉露協定ニ基クモノナルカ列國ハ露支協約ニ対シテハ既得權留保ノ聲明ヲナシ奉露協定ニ至リテハ何レモ之ヲ正式ニ承認シタルコトナシ而シテ他方列國ハ華府會議ノ決議ニ依リテ支那ヲシテ同鐵道ノ占有及管理ニ対スル「トラスチー」ノ責任ヲ

東支鐵道運行停止ニ伴ウ損害賠償請求ノ方針

ニツキ請訓ノ件

第二〇号 (一月二十二日接受)

往電第一八号末段損害賠償ニ関シテハ各個人ハ各自領事ヲ通シテ損害ヲ要求スヘキカ又損害ハ支那官憲或ハ管理局何レニ要求スヘキヤニ付領事ノ間意見ノ相違アリタル為各自本國政府ニ請訓スル事ニ決定シタルカ本官ハ損害ノ性質ニ依リ一概ニハ行カサルモ(一)損害ハ当事者直接東支鐵道庁ニ要求スルカ又ハ東支ヲ相手取り支那裁判所ニ提訴スヘシ(二)東支ハ列車ノ運行停止ハ支那軍憲トノ結果ナリト抗弁スヘカラシモ右ハ東支ト支那軍憲トノ問題ニシテ東支ノ被害者ニ対スル責任ヲ免除スルモノニ非ストノ見解ヲ有ス右ニ依リ措置シ然ルヘキヤ請訓ス

三八一 一月二十一日 在長春葉原領事ヨリ 幣原外務大臣宛

東支鐵道ニ於ケル中ソ紛争ニ関シ報告ノ件 機密公第二四号 (一月二十九日接受)

大正十五年一月二十一日 在長春

領事 栗原 正(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東支鉄道ニ於ケル露支紛争ニ関スル件

一、支那官憲ノ列車運行命令

東支護路軍總司令張煥相ハ東省特別区戒嚴司令ノ資格ヲ以テ昨十九日午後五時戒嚴司令部布告第一号ヲ以テ左ノ如キ布告ヲ發シ直ニ之ヲ南部線各駅ニ通牒セリ

東支鉄道從業員護路軍及各警察職員ニ今ヨリ直ニ南部線列車ノ運行ヲ開始スヘシ若シ之ニ違反スルモノアルトキハ戒嚴司令部ハ直ニ之ヲ逮捕ノ上軍事裁判ニ付ス

右通牒寬城子駅ニ到着スルヤ露人職員ハ鈔ナカラス狼狽シ姿ヲ晦マシタル駅長其他ノ重要職員モ各事務所ニ歸リ合議ノ結果支那側ノ命ニ從ヒ同夜ヨリ列車ノ運転ヲ開始スヘク準備シタルモ其後更ニ管理局ヨリ運転停止ノ通牒アリシ為之ヲ中止セリ是ニ付鐵道側並ニ護路軍側ハ各駅頭ニ左ノ如キ揭示ヲ為シ互ニ責任ヲ転嫁シ居レリ

鐵道側ノ告示

鐵道管理局ハ支那兵ノ無賃乗車ヲ為サシメサル条件下ニ昨夜ヨリ列車ノ運転ヲ再開セムトシタルニ依然支那兵

尾行ヲ付スル等甚タ峻嚴ナル為何レモ戦々恟々タル状態ナリ

四、支那軍隊ノ車兩蒐集

護路軍司令部ハ昨十九日寬城子滞在中ノ歩兵第二十六旅長李桂林ニ對シ同日中ニ兵三千ヲ哈爾濱ニ輸送スヘシト命シタル由ニテ支那軍隊ニテハ之ニ要スル機關車客貨車ノ蒐集ニ努メツアルモ多クハ露人從業員カ「ポイント」ヲ閉鎖シテ鎖鑰ヲ施シ其合鍵ヲ携ヘタル儘所在ヲ晦マシタルヲ以テ蒐集意ノ如クナラス場合ニ依ツテハ鎖鑰ヲ破壞シテ車輛ヲ引出サントスル議モアル由ニテ滿鉄長春駅構内ニハ現在百五車(内空車四〇輛)ノ東鉄車輛アリ或ハ之ヲモ暴力ヲ以テ奪ハレンモ計難キヲ以テ相當警戒シツツアリ尚機關車ハ寬城子ニ現ニ五輛アルモ内四輛ハ火ヲ落シアリ之ヲ使用セムトスルモ鈔クモ二日間後ニ非サレハ使用シ得サルヲ以テ密門ヨリ機關車ヲ廻送セムトノ說モアリ密門ニハ機關車十一輛アリテ支那兵之ヲ監視シツツアリト云フ

本信写送付先 在支公使、奉天、哈爾濱各總領事

三八二 一月二十一日

在長春栗原領事ヨリ 幣原外務大臣宛

ハ暴力ヲ以テ無賃乗車ヲ為セリ依リテ止ムヲ得ス列車ノ運行ヲ停止ス

護路軍側ノ告示

東支鐵道露國側幹部ハ理由無ク護路軍ノ乗車ヲ拒ミ本月十六日以来長哈間列車ノ運転ヲ中止シ人民ヲ苦シメツツアリ斯如キ不法ノ行為ハ斷シテ許スヘカラサル処ナリ

二、管理局側ノ罷業中從業職員調査

「イワノフ」管理局長ハ昨日管下各駅ニ對シ所屬職員中罷業中擅ニ就業シタルモノハ其職氏名国籍等調査ノ上至急報告スヘキ旨通牒セリト之カ為支那側ノ命ニ依リ就業シタルモノハ甚タ憂慮シ且ツ彼等ハ殆ト凡テ支那在籍者ナルヲ以テ今回ノ事件後依然露國側カ鐵道ノ実權ヲ掌握スルトキハ必ス報復ノ二讎首セラルルニ至ルヘキコトヲ予想シ支那側ニ地位ノ保証ヲ求メ居ル趣ナリ

三、赤系露人取締

支那官憲ノ赤系露人ニ對スル取締ハ今回ノ事件後一層嚴重トナリ寬城子ニ於テモ午後六時以後ノ通行者ニ對シテハ一々不審訊問ヲ為シ演劇其他衆人ノ会合ヲ禁シ容疑人物ニハ

中国側ノ武力的態度ニ對抗シ赤軍ニ依ル東支

沿線武力占領等寬城子共產黨員ノ言動報告ノ

件

機密公第二五号

(一月二十九日接受)

大正十五年一月二十一日

在長春

領事 栗原 正(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東支鐵道運輸停止事件ニ関スル寬城子共產黨員

ノ言動報告ノ件

一月十九日午後五時ヨリ寬城子「メストコム」委員長「メホジー・ハルチョク」ハ「メストコム」幹部會議ヲ開キ其席上ニ於テ左ノ如ク語レル趣ナリ

「イワノフ」局長カ支那軍隊輸送賃金問題ヨリ汽車運行ヲ中止セルニ付支那軍隊ハ之ニ反感ヲ抱キ武力的態度ヲ取り強硬ニ軍隊無賃乗車ヲ「イワノフ」局長ニ迫リタルニ「グランド」總領事ハ支那側ノ武力的態度ニ對抗シ若シ本件ヲ余ノ意ノ如ク解決セサル時ハ赤軍ノ力ニ依リ解決スヘシト語レルニ付茲ニ於テ我共產黨員ハ同盟罷業ヲ起シ飽迄「イ

ワノフ」局長ノ意ヲ貫徹セシメ一日モ早く勞農赤軍ノ力ニ依ツテ東支線ヲ占領セムコトヲ望ム同時ニ我々共產黨員ハ此際共產主義ヲ支那人間ニ宣傳シ東支沿線ヲ勞農國ノ權力配下ニ置カシメサルヘカラス云々

右何等御參考迄報告ス

本信写送付先 在支公使、奉天、哈爾濱各總領事
三八三 一月二十二日 在中国芳次公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東支鐵道ノ中国軍隊輸送問題ニ関スルカラハ

ントノ会谈内容報告ノ件

第四五号

(二月二十三日接受)

往電第四〇号ニ関シ

一月二十日付ヲ以テ「カラハン」ヨリ日露協約成立一周年ノ祝辞ヲ申越シタルニ依リ之ニ対スル返礼券々二十一日「カラハン」ヲ訪問シタル際「カラハン」ヨリ東支鐵道問題ニ言及シ「ハルピン」日本總領事及滿鉄側ハ本問題ニ関シテ支那側ヲ援助シツツアルカ如シト述ヘタルニ依リ(支那新聞中ニハ此ノ意味ノ記事及論說ヲ為スモノ多シ)其ノ確ナル事実ヲ求メタルニ「カラハン」ハ日本總領事ハ本

件ニ関シ領事會議ヲ開キ「イワノフ」ト張煥相トノ列席ヲ求メタルモ「イ」ハ本件ハ露支間ノ出来事ニテ領事團ニ関係ナシト出席ヲ拒絶シタリ又日本領事ハ領事團ニ対シ東支鐵道側ニ抗議セン事ヲ提議シタルモ他ノ同僚ハ賛成セサリシ趣ナリ他方滿鉄大蔵理事ハ現在「ハルピン」市ニアリテ或ハ支那側ヲ救ケ居ルニアラスヤト認メラルル旨ヲ答ヘタリ依テ本使ハ日本ハ總領事ハ首席領事ナルカ故ニ支那ノ各地ニ於ケル場合ト同シク領事會議ヲ開ク責務アリ今回ノ如ク汽車運輸中止セラレ為ニ一般外人ノ利益阻害セラルルカ如キ場合其ノ責ヲ尽スハ当然ナリ而シテ其會議ニ露支双方ノ關係者ヲ招キ事情ヲ質シ意見ヲ聞ク事ハ一般外人ノ利益ニ一致スル所以ナリ尚東支鐵道側ニ対スル抗議方ヲ提議セルニ就テハ本使トシテハ何等報告ニ接シ居ラサルモ首席領事ハ議長トシテ領事會議ニ種々ノ提案ヲ試ミル事ハ当然ノ事ニテ之ニ対シ露國側ヨリ文句アルヘキ筋合ヒニアラス又滿鉄大蔵理事ノ支那側援助云々ニ付テハ本使ノ有スル的確ナル報告ニ依レハ滿鉄本社ヨリハ同理事ニ対シテ今回ノ事件ニ絶對ニ干与ス可カラサル旨訓令アリタル趣ニテ同理事ハ右訓令通りニ措置シ居ルハ疑フ可キ余地ナシ從テ前記貴

方ノ疑惑ハ何等根拠ナキ「ナイトメーア」ニ過キスト説示シタル上更ニ抑モ事件ノ発端タル軍隊輸送ニ関シ今回ノ如キ強硬ナル態度ヲ取リタルハ何故ナリヤヲ訊ネタルニ「カラハン」ハ東支鐵道ハ一昨年ノ露支協約ノ規定ニ基キ運行セラレ居ル処同協約ト抵触セサル範圍内ニテハ千八百九十六年ノ東支鐵道條約ハ依然トシテ有効ナルモ其第十一條ニ於テ支那軍隊輸送ニ当リテハ運賃半額ヲ徴ス可キ旨ノ規定アリ然ルニ革命以來支那側ニ於テ(日本及「チェック」側モ同様)運賃ヲ支払ハス依テ從來懸案トナリ居リタルカ昨年自分ノ莫斯科滞在中嚴重ナル訓令ヲ發シテ規定通り運賃ヲ徴ス可キ旨ヲ命シタリ「イワノフ」ハ右訓令ヲ奉シタルニ過キスト然モ今回ハ直ニ其支払ヲ要求シタルニ非ス追テ支払フヘキコトヲ承認セハ可ナル旨ヲ通達シタルノミ然ルニ支那側ハ之ヲ認メサルノミナラス武力ヲ以テ軍隊輸送ヲ決行セル処斯ル條約無視ノ行動ハ斷シテ之ヲ認ムル能ハス自分トシテハ成ル可ク平和的ニ解決シ度キモ若シ不能ナリトセハ兵力ヲ用フルニ至ルヤモ計ラレサル旨ヲ答ヘタリ依テ本使ハ之ニ対シ幾何ノ兵ヲ以テ又如何ナル法ニ依リ之ヲ強行スルヤヲ問ヒタルニ「カラハン」ハ其ノ辺ハ斷言シ

得サルモ二個師団位ノ兵ヲ出シテ鐵道ノ利益ヲ擁護スル心算ナル旨ヲ答ヘタリ之ニ対シ本使ハ貴方ニ於テハ露支條約ニ依リ從前ノ特權及權利ヲ拋棄シタルニ不拘今ニ至リ出兵スルカ如キハ支那側ニ対シテモ好マシカラス國際上ニモ重大ナル結果ヲ及ホス可キ旨本使一個トシテハ成ルヘク斯ル手段ヲ避ケ穩便ナル解決ヲ遂ケラレン事ヲ希望スト述ヘ尚本月十九日付ヲ以テ「カラハン」カ外交部ニ送りタル「ノート」(往電第四一號) 中本件解決ノ為北京政府ト共同措置ヲ商議ス可キヲ述ヘ居ルハ如何ナル意味ナルヤヲ尋ネタルニ「カラハン」ハ自分モ未タ具体案ヲ有セスタタ北京政府ト確定的協定ヲ作り之ヲ滿州官憲ニ押付クル事必要ト思考シ居ル旨ヲ述ヘ北京政府ハ事實滿州ニ權力ヲ実行シ得サルニアラスヤトノ問ニ対シテハ正ニ然ルモ北京カ中央政府タル以上此ノ措置ヲ執ルノ外ナカリシ旨ヲ答ヘタリ
奉天、長春、哈爾濱、吉林、滿州里、齊齊哈爾、在露大使ニ転電セリ

三八四 一月二十二日

在長春栗原領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

イワノフノ作業停止命令ノ結果中国側ガ強行

運転及ビ切符ノ発売ヲ手配中ナル旨報告ノ件

第一四号

往電第一三号ニ関シ

「イワノフ」ハ二十一日寛城子ヲ発セル支那側軍用列車ノ強行運転ヲ理由トシ同日午後六時各駅長ニ対シ再ヒ一切ノ作業ヲ停止スヘキ旨命令セリ其結果同時刻ニ哈爾濱発ノ予定ニアリタル混合列車モ発車中止トナリタル模様ニテ支那側ハ自ラ運転スル事ニ決心セルモノノ如ク白系露人ヲ急募シ軍隊警備ノ下ニ二十時頃右混合列車ヲ発車セシメ本二十一日午前十時長春ニ到着シタリ然ルニ東支従業員ハ右ヲ以テ違法列車ナリト看破シ何等取合ハス傍觀シ居レルカ為目下護路軍側ニ於テ哈爾濱行切符ノ発売ヲ為サントシ種々手配中ナルカ結局如何ニ収マルヘキヤ不明ニテ東支従業員モ途方ニ暮レ居レリ

在支公使、奉天、哈爾濱へ転電セリ

三八五 一月二十二日

在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

イワノフヲ捕縛スルコトニ決定シタル旨ノ張
煥相ノ内話報告ノ件

テハ張司令及東支理事會宛ニ照会セラレタシト通告シ来レリ二十一日夜「カラハン」抗議ノ情報伝ハリ人心動揺セルカ故ニ「イワノフ」逮捕事變ニ依リ事態ハ更ニ紛糾スヘシト観測サル
在支公使、在露大使、奉天、吉林、浦潮、長春、滿州里、齊齊哈爾へ転電セリ

三八七 一月二十二日

在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東支鉄道問題ニ関スル在奉天吉田総領事ト張
作霖トノ談合ハ事態ノ推移ヲ見届ケタル後ニ
セラレタキ旨意見具申ノ件

第二四号

吉田総領事発閣下宛電報第三六号ニ関シ長春滿鉄情報中支那側東支全線ノ運轉停止又ハ露国側ノ鉄道守備聲明ハ累次ノ拙電ニ依リテ御承知ノ如ク事実ニ非サルモ往電第二三三三号ノ事情ニ依リ当地方ハ流言蜚語行ハレ例ニ依リ赤軍ノ国境進入説流布セラルルニ至レリ此ノ際勞農側カ軍隊ヲ用フルカ如キコトハ予想セラレサルモ東支鉄道労働者組合ヲ中心トシテ勞農側カ何等カ不穩ノ行動ニ出ツルコトハ有リ得ヘ

一三 東支鉄道問題 三八七 三八八

第二二号(極秘) (一月二十三日接受)

張煥相ハ「イワノフ」ニ対シ至急列車運轉方ヲ命シ若シ之ニ応セサレハ制裁スヘキ旨命令セルモ之ヲ聞カス「イワノフ」ヲ自由ニ放任セハ問題ハ解決セサルカ故ニ遂ニ之ヲ捕縛スルコトニ決定シタル旨極秘トシテ二十二日朝本官ニ内話セリ二十二日朝張煥相公署ニ於テ支那官憲ノ重要會議開始セラレタリト内聞セリ

北京、莫斯科、奉天へ転電セリ

三八六 一月二十二日

在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

イワノフ逮捕ニ依リ事態益々紛糾スルト観測
サレル件

第二三号

(一月二十三日接受)

二十二日午前「イワノフ」ハ東支沿線ニ対シ支那軍憲ノ命令ニ服従セサル様訓令ヲ發セリ午後三時「イワノフ」自宅ヨリ戒嚴司令本部ニ引致セラレタリ右ニ付張司令ハ林參謀長ヲ以テ「イワノフ」ハ三回戒嚴司令本部ノ命令ニ違反シタルヲ以テ逮捕シ其職權ヲ免シタリ爾今副局長「エイスマンド」(不明)之ニ代レリ東支南部線交通復旧問題ニ関シ

ク事態益々紛糾局外者ノ干渉ヲ便利トセサル状態トナルヘク殊ニ支那側ニ於テ右ノ如キ態度ニ出テタル以上今遽ニ軍隊輸送問題ニ付穩便ニ話合ヲ為スコト困難ナル事情アルニ付テハ奉天總領事ト張作霖トノ談合ハ今ノ処數日間事態ノ推移ヲ見届ケタル上ニテノ事ニ致サル方然ルヘシカト思考ス
北京、奉天へ転電セリ

三八八 一月二十三日

在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

新聞紙上ニ發表セラレタルチチェリンノ段執
政宛イワノフノ逮捕等ニ対スル嚴重抗議電報
報告ノ件

第三六号

(一月二十四日接受)

「チチェリン」ハ東支鉄道事件ニ付「カラハン」ニ左記電報シ段執政ニ手交方訓令セル趣本二十三日ノ夕刊ニ發表セラル

左記

東支鉄道長官「イワノフ」ハ二十二日哈爾濱ニ於テ支那軍憲ノ為メ逮捕セラレタリ而モ地方官憲ハ毫モ「ソビエツ

ト」政府ト交渉シテ事件ノ解決ニ努ムル事ナカリキ

哈爾濱官憲ハ前記ノ如キ未曾有ノ行為ヲスルニ先立チ五日
間東支鐵道ニ関スル「ソビエツト」連邦、支那間ノ協定ヲ
冒シ東支鐵道庁ノ職務執行ヲ排斥セリ軍憲ハ同鐵道ニ於ケ
ル秩序ヲ紊乱シ軍隊ハ列車ヲ横奪セリ

吾人ハ支那政府カ東支鐵道ニ関スル條約違反ノ調査ヲ回避
スル事ナク問題ノ平和的解決ノ為メ必要ナル措置ヲ執ラレ
ン事ヲ期スルト共ニ三日ノ期間以内ニ東支鐵道ニ於ケル秩
序ヲ完全ニ回復シ條約ヲ實施シ「イワノフ」ヲ釈放セン事
ヲ要求ス

万一支那政府ニ於テ何等カノ理由ニ依リ右期間内ニ平和的
方法ヲ以テ之等問題ノ解決ヲ保障スル事能ハサル場合「ソ
ビエツト」政府ハ支那政府ニ連邦ノ自力ヲ以テ條約ノ實施
ヲ保障シ東支鐵道ニ於ケル支那及「ソビエツト」連邦相互
ノ利益ヲ擁護スル事ヲ許サレン事ヲ請フ

尚同電報ハ「ソビエツト」在奉天總領事ニ電報シ張作霖ニ
手交セシムル事トナリ居ル由

本電哈爾濱、巴里ニ電報シ奉天へハ哈爾濱ヨリ在歐各大使
ニハ巴里ヨリ電報セシム

ル日本政府ノ処置如何ト問ヘルニ付東支鐵道問題ノ吾ニ関
係鮮カラサルハ勿論ナリ從テ本件成行キニ付テハ深甚ノ注
意ヲ払ヒ居レリ在支公使ヨリ特ニ訓令ノ次第モ有リ元來露
支ノ問題ニシテ俄ニ帝國政府ノ干渉スヘキモノニ非ス先當
事國タル支那側ニ於テ最善ノ解決方法ヲ講スヘク帝國政府
ハ支那ニ代リテ取り上ケ処理スヘキ筋合ニ非ス兎角支那側
カ自ラ処理スヘキ自國ノ問題ニ日本ヲ利用セントスルノ風
有リ之從來ノ態度ニシテ彼我ノ為メ重大ナル誤解ノ因タル
ヘシ露西亜側ノ真意ニ付テハ何レ天羽總領事ヨリ何等カノ
報告モ有ルヘク張煥相ヨリノ報告モ合セ速ニ本件ノ處理ヲ
望ムト告ケテ別レタリ

在支公使、哈爾濱、長春ニ電報セリ

三九〇 一月二十三日 在ハルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

華府會議關係國領事ノ非公式會議中モタラサ

レタルソ連邦軍侵入ノ情報ニ関シ報告ノ件

第二五号

(一月二十四日接受)

二十三日華府會議關係國領事當館ニ於テ非公式ニ意見交換
中露亜銀行支配人「ブイヤノフスキー」ハ行員ヲ派シテ最

三八九 一月二十三日 在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東支鐵道問題ニ関スル張作霖トノ會談内容報

告ノ件

第三九号

(一月二十四日接受)

昨二十二日張作霖會談ヲ申込ミ來レルヲ以テ往訪ノ処彼勞
農側ノ暴狀ヲ説キ從來軍事輸送ハ互ニ記憶後払ノ取極メニ
テ実行シ來リコノ際ニ至リテ兎角ノ紛擾ヲ起セル彼ノ真意
諒解シ難ク張煥相ヨリ委細ノ報告ヲ徵シツツ在リ「カラハ
ン」往訪ノ初自分ニ洮斉線敷設ニ由リテ徒ニ日本ノ利益ノ
為メニ赤露ニ挑戦スルノ愚ヲ指摘シ東支鐵道ハ露支共同ノ
鐵道ニシテ之ヲ改良充實セハ北滿ノ發達以テ期スヘシト言
ヘルニ付キ自分ハ洮斉線ハ日本ノ為ニ非ス洮斉一帶ノ治界
ヲ置キ民治ヲ計ル茲ニ二十有余年ナルモ交通不便ノ為メニ事
績揚ラサルニ付キノ敷設ヲ計畫スルニ至レリト答ヘタル
事有リシカ同線敷設以來兎角露支ノ間事端ヲ繁クスルニ至
レリ又東支鐵道ノ東西線ハ現ニ運行シテ南行線ノミ中止シ
居ルハ滿鉄ノ利益保護上日本ニ關係鮮カラスコノ点ニ処ス

信賴シ得可キ支那側筋ヨリ勞農側ハ最後ノ通牒ヲ發セスシ
テ二十四時間以内ニ東支沿線ニ大兵ヲ侵入セシム可シトノ
情報ヲ得タリト通報シ來リ又「イワノフ」英文秘書「スカ
ーレスト」(問題トナリタル「イワノフ」「ヘック」會談ヲ
通訳シタル男客年往電第二一号及客年十二月二十七日機
密第二〇二号拙信参照)ヨリ電話ヲ以テ米國領事ニ「エイ
スモンド」ハ「イワノフ」ノ政策ヲ踏襲シテ執務シツツア
ルカ勞農側ハ「イワノフ」ノ釈放ヲ要求シ支那側之ニ応セ
サル時ハ二十四時間内ニ兵力ヲ用フヘシト通知シ越セリ右
「スカーレスト」ノ通知ハ領事團ヲシテ「イワノフ」ノ釈放
ニ對シ何等發動セシメントノ底意ニ出テタルカト思ハルル
モ右領事ノ會合ハ英米領事ノ希望ニ基キタルモノニシテ單
ニ意見ノ交換ヲ為スニ止マレリ御含迄

莫斯科、北京、奉天、長春、浦潮、吉林、齊齊哈爾、滿州
里へ電報セリ

三九一 一月二十三日 在ハルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

護路軍輸送問題ノ解決妥協策等ノ斡旋ニ関ス

ル在奉天吉田總領事宛回答電ノ件

第二七号

(一月二十六日接受)

本官発奉天総領事宛電報第二一号
貴電第七号ニ関シ

一、護路軍輸送問題ニ関スル当面ノ問題ハ(イ)列車警備ニ必要ナル護路兵ノ乗車、護路兵ノ公用乗車及護路軍部隊ノ輸送、目下寛城子ニ在ル護路軍輸送ノ三個ナルカ現在ノ実情ハ東西両部線ニハ少数ノ警備兵乗車ス南部線ニハ「イワノフ」ハ今回ノ事件発生以来一兵ヲモ乗車セシメスト言明セルニ二十日当地発南行列車ニハ警備兵乗車セリ(ロ)東西両部線ニハ少数ノ護路兵無賃乗車券ヲ使用スルモノ南部線ニハ事件発生以来絶対ニ禁止サル(ハ)寛城子ニ在ル護路軍ハ支那ノ手ニテ輸送サレツツアリ

二、輸送問題ニ関シテハ張煥相ハ客年十一月「イワノフ」ノ発シタル命令ノ取消及護路軍ノ無賃輸送ヲ主張スルニ反シ「イワノフ」ハ命令ノ取消ニ反対スルモ警備ニ必要ナル最少限度ノ護路兵ノ乗車ヲ承認ス但シ警備兵人数ニ付テハ鉄道側ハ十四、五名ニ限定セントスルニ反シ支那側ハ必要限度ヲ超エサルモ其ノ人数ハ護路軍ノ決定ニ委ヌヘキコトヲ主張ス輸送問題解決案ニ付テハ既報ノ如ク

ハ支那人ヲ任用スヘシトノ説アリトノコトナリ)將又永久管理ノ目的モナク一時目前ノ必要ニ出テタルモノカ若シ支那側ニ於テ將來南部線ニ対スル一定ノ計画ヲ懷ク場合ハ解決(脱)若シ已ムヲ得サル一時ノ干渉ナリトセハ程好キ加減ニ解決ヲ計ルコト得策ナルヘシ寛城子事件ノ曲否何レニアリトスルモ露国側ハ目下極力支那軍隊ノ暴行及支那側ノ武力干渉ヲ宣伝シ外間ニハ相当「アツピール」シ居ルカ如キ模様ナルカ今後ハ更ニ張作霖排斥ヲ宣伝シ次テ日本ノ態度等ヲ中傷スルニ至ルヘキコトモ予期スルヲ要ス

四、輸送問題ノ当面ノ解決策トシテハ(イ)「イワノフ」命令及護路軍ノ部隊輸送問題ハ後日ノ商議ニ委ヌルコトトシ(ロ)警備ニ必要ナル護路兵ハ無賃乗車セシメ其ノ人数ハ護路軍ト鉄道局トノ間ニ決定スルコトトシ(ハ)絶対公用ノ為メニ旅行スル一定数以内ノ護路兵ノ無賃乗車ヲ許スコトトシテ先ツ「イワノフ」ヲ釈放シ鉄道ノ管理及運行ヲ管理局ノ手ニ返シ此ノ際至急交通ノ恢復ヲ計ルニ在リ只タ「イワノフ」ノ逮捕カ果シテ支那側ニ取り賢策ナリシヤ疑アリトスルモ事茲ニ至リタル以上問題ハ軍隊輸送問題

張煥相ト談合ヲ遂ケ又二十二日郡司ヲシテ「グラント」総領事(「イワノフ」ハ数日來居所定マラス且ツ接客ヲ断リ居レル由)ト非公式ニ會談セシメタルコトアルカ警備兵ノ乗車及護路軍兵ノ公用乗車ニ付テハ妥決シ得ヘキモ護路軍ノ部隊輸送問題ハ妥協困難ナリ殊ニ「イワノフ」ノ命令ハ客年往電第二一八号ノ通り「カラハン」ノ訓令ニ依リタルモノノ如ク又「カラハン」ハ今回ノ事件ニ対スル「イワノフ」ノ措置ヲ是認スル電報ヲ遣セリト聞ケルカ故ニ命令ノ撤回問題ハ解決最モ困難ナルヘシ而シテ他方露国側ハ護路兵ノ変更及責任者ノ更迭ヲ主張シ居ルトノコトナレハ問題ハ複雑トナリタルカ「イワノフ」ノ逮捕ハ更ニ事態ヲ紛糾セシムヘシ

三、張煥相ハ目下其ノ手ニテ列車運行ヲ企図シ居ルモ奉天ヨリ技師、資金其他必要ナル援助ヲ得ルニ非スンハ急速ニ交通ノ恢復ヲ見ルコト困難ナルヘシ支那側ニ於テ列車運行ヲ始メタルハ將來南部線ノ管理ヲ為サントスル目的ノ下ニ企画セラレタルモノナリヤ(日支人中ノ一部ニハ東支現在ノ組織ニテハ満足ナル運行ヲ期シ得サルカ故ニ東支ヲ東部、西部、南部ノ三管理区ニ分チ南部管理局長

ヲ放レテ露骨ニ張作霖對勞農側ノ政治問題タラントスル惧アルカ故ニ仮令妥協ヲ斡旋スルニセヨ暫ク勞農側ノ態度ヲ見タル上ノコトニスルノ外ナキカト思考ス
外務大臣、莫斯科、北京、長春へ転電セリ

三九二 一月二十三日

長春商業會議所島奈会頭ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

在滿邦商ノ損失甚大ニツキ東支鉄道問題ヲ速
ヤカニ解決セシメ賠償措置ヲ講ゼラレタキ旨
請願ノ件

(一月二十四日接受)

特産物出回りノ最盛期ニ當リ東支鉄道ノ暴挙ハ在滿邦商ノ現ニ蒙ル損失甚大ナリ然モ形勢愈々不穩ニシテ今後ノ損害真ニ計リ知レサルモノ有リ曩ニ哈爾濱領事團ニヨリ共同警告ヲ発セラレ機宜ノ手段ノ講セラレタリト雖モ吾国ハ他国ニ比シ政治的ニ経済的ニ最モ重大ナル關係ヲ有ス此ノ際政府ハ露支兩國ヲシテ速ニ平和ノ解決ヲナサシムルニ適當ノ措置ヲ講ゼラルルト共ニ秩序旧ニ復シタル後コノ大ナル損害ニ対シ東支鉄道ヲシテ速ニ賠償セシムル事ニ善処セラレム事ヲ本會議所委員會ノ決議ヲ以テ懇請ス

長春商業會議所

会頭 島奈 福重郎

三九三 一月二十三日

幣原外務大臣ヨリ
在ハルビン天羽総領事宛(電報)

損害賠償請求ノ方針ニツキ回訓ノ件

第九号

貴電第二〇号ニ関シ

貴見ノ通り措置セラレ度シ

本電貴電ト共ニ北京、奉天及長春へ転電アレ

三九四 一月二十三日

幣原外務大臣ヨリ
在ハルビン天羽総領事宛(電報)

東支鉄道運行停止問題ニ対スル各国領事ノ意

見回電方指示ノ件

第十一号

東支問題ニ就キ貴地領事団會議ニ於ケル各国領事ノ意見主
張詳細折返シ電報相成度シ

三九五 一月二十三日

幣原外務大臣ヨリ
在奉天吉田総領事宛(電報)

東支鉄道問題ニ関シ中ソ兩國間ニ介在シテ行

(付記一)

東支鉄道ニ関スル露支紛争ニ対スル帝国ノ態度並方針ニ就テ

(一月作成、亜細亜局私見其ノ一)

一、露支兵力衝突ノ場合ニ対スル政府ノ措置

今回ノ露支紛争ノ直接原因ハ支那軍隊殊ニ東支鉄道護路
軍ノ輸送賃金支払問題並東支鉄道列車運轉停止ニ対スル
強行運轉ノ問題ナリ性質上無関係ナル二問題ヲ同時的且
条件的ニ解決セムトスルノ主張ノ衝突ニ在リト雖モ其ノ
遠因寧ロ主タル動機ハ東支鉄道ニ於ケル露支ノ勢力争即
張作霖ノ威嚇回復及「イワノフ」ノ権力伸長ノ衝突ニ在
リ今後事態ノ推移如何ニ依テハ露国側ニ於テ東支沿線ニ
於ケル露国人ノ生命保護、東支鉄道ニ関スル權利利益擁
護ノ名ノ下ニ露国自ラ東支鉄道警備スヘシトノ口実ノ下
ニ或ハ赤軍ノ北滿侵入問題ヲ惹起スルヤモ計ラレサルカ
如キ重大ナル形勢ヲ醸セリ現ニ一月二十一日在北京「ソ
ヴェット」代表「カラハン」ハ芳沢公使ニ「自分トシテハ
成ル可ク平和的解決シ度キモ若シ不可能ナリトセハ兵力
ヲ用フルニ至ルヤモ計ラレサル」旨並ニ「二個師団位ノ兵
ヲ出シテ鉄道ノ利益ヲ擁護スル心算ナル」旨ヲ明言セル

動ノ必要アル場合ハルビン領事団ニ於テ措置
スルコト適當ト認メラレル旨指示ノ件

付記一

東支鉄道ニ関スル中ソ紛争ニ対スル帝国ノ態
度並ビニ方針ニ就テ(一月作成、亜細亜局私
見其ノ一)

二 東支鉄道ニ関スル中ソ紛争ニ対スル帝国ノ態
度方針ニ就テ(一月二十三日作成、亜細亜局
私見其ノ二)

三 一月二十五日亜細亜局長室ニ於ケル陸、海、
外ノ四局長會議要録

第一五号

貴電第三三号及第三五号ニ関シ

東支南線運轉中止問題ノ速ニ円満ナル解決ヲ見ルコトハ帝
国政府ノ最モ希望スル所ナルモ元來東支鉄道問題ハ国际上
ニモ相当複雑ナル關係ヲ有スルモノナレハ今回ノ紛争ニ就
テモ帝国領事ニ於テ単独ニ之ニ関与スルコトハ篤ト考慮ヲ
要スル次第ナルニ付若シ露支兩國間ニ介在シ第三者トシテ
何等行動ノ必要アル場合ニハ差当リ従来通り哈爾濱領事団
ニ於テ臨機ノ措置ヲ採ルコト最モ適當ト認メラルルニ付右
様承知相成度シ

本電北京、哈爾濱及長春へ転電アレ

ニ徴セハ如上ノ危機ノ發生ハ二十二日支那側ノ「イワノ
フ」長官逮捕ト相俟ツテ益切迫セリト観測セサルヲ得ス
而シテ露国軍隊滿州侵入ノ名義如何ニ拘ラス必然露支兵
力ノ對抗引テハ其ノ衝突ヲ予想セサルヲ得ス日本トシテ
ハ名義ノ何タルヲ問ハス右侵入カ原因トナリテ滿州全般
ニ亘ル國際的兵乱引テハ東亞局面ノ危急状態ヲ齎スヘキ
コト明白ナルニ鑑ミ露軍ノ滿州侵入ハ帝国ノ康寧並東亞
ノ平和ニ重大ナル危局ヲ發生スヘシトノ理由ノ下ニ露支
兩國ニ対シテ兵力ノ衝突ヲ避クヘキコトヲ警告シ且事件
ノ平和的解決ニ付勧告スルノ要アリ若シ露支兩國ニ於テ
此警告及勧告ヲ聞キ入レサル場合ニ於テハ日本ハ東亞ノ
安寧保持並帝国ノ重大ナル利害擁護ノ見地ヨリ其ノ適當
ト認ムル措置ヲ採ルノ自由ヲ有スルコトヲ言明セサルヘ
カラス

以上ハ北滿ニ於ケル露支衝突ノ場合ニ於ケル帝国最後ノ
態度及方針ニシテ予メ此機会ニ於テ牢固タル決心ヲ以テ
確立セラルヘキ重大政策ナリ

二、当面ノ問題解決ニ関スル政府ノ措置

前項ノ態度及方針ハ目下ノ露支紛争ノ最悪ノ發展ノ場合

ニ対スル帝國政府最後ノ決意ヲ述ヘタルニ過キス惟フニ露國ニ於テモ張作霖ニ於テモ現下ノ紛糾ニ對シスル最後ノ衝突ヲ覚悟シ居ルモノトハ思考セラレス唯双方共々々々面目、威嚴ノ失墜ヲ恐ルルト共ニ本問題ヲ東支鐵道管理機關組織内ニ於ケル勢力伸長ニ利用セムトスル下心ナルヘク今ヤ双方虚勢ヲ張り騎虎ノ勢單ナル鐵道運賃支払、列車運轉開始ノ問題ヨリ一転シテ東支鐵道ニ對スル双方ノ勢力争トナリ各々威力ヲ誇示スル結果意外ナル重大局面ヲ開展スルニ至リ双方引クニ引カレヌ窮境ニ陥リツツアルモノト観測セラル故ニ日本トシテハ前項ノ如キ東亞ノ重大危局ノ發生ヲ予防スル見地ヨリ速ニ当面ノ露支紛争問題ノ平和的解決ヲ促進スルノ行動ニ出テサルヲ得ス之カ為ニハ

(イ)列國トシテハ紛争ノ原因ニ遡ルコトナク露支各々兵力又ハ暴力使用ノ中止ヲ勸告スルト同時ニ双方ニ對シテ公平ナル第三者トシテ嚴正ナル中立ノ態度ヲ確守スルコト

(ロ)成ルヘク問題ヲ「ロカライズ」シテ東支鐵道管理局對支那護路軍ノ意見ノ衝突ニ局限セシメ運賃問題、列車

ル情勢急速ニ開展スルヤモ計ラレサルニ付予メ前記二項ノ帝國政府ノ態度方針ヲ北京、哈爾濱、奉天等ノ關係在外公館ニ内告シテ機宜ノ処置ニ對スル指針ヲ与ヘ置キ先ツ哈爾濱ニ於テ日英米仏領事官ノ内協議ヲ為サシメ時局ノ收拾ニ連算ナカラシムルコト目下ノ急務ナリト信ス

(付記二)

東支鐵道ニ關スル露支紛争ニ對スル帝國ノ態度方針ニ就テ(二月二十三日作成、亞細亞局私見其ノ二)

一、東支鐵道ニ關スル露支ノ紛争ハ「イワノフ」長官監察ノ報ト共ニ今ヤ騎虎ノ勢遂ニ重大ナル局面ヲ開展セムトスルノ虞アリ就テハ本紛争ノ平和的解決ヲ促進スルノ要愈々急ヲ告クルニ至レル処此ノ際右平和的解決促進ノ任ニ當ルヘキ領事團ノ態度ヲ定ムルニ至リ天羽總領事來電第十九号中段ノ如ク華府決議ノ行懸ヲ追ヒ支那ノ東支鐵道占有及管理ニ對スル「トラスチー」ノ責任ヲ唱ヘ東支管理局ニ於テ列車ノ運行ヲ為ササル場合ニハ先ツ支那ヲシテ該運行ニ當ラシメ支那若シ運行ヲ為シ得サル場合ハ列國直接運行問題ヲ考慮スルコトトスヘシト云フカ如ク法理論ヲ基礎トスルトキハ自然列國自ラ露支紛争ノ渦中ニ

運轉問題ニ付露支当局ノ間ニ冷靜ニ協議スルコトヲ列國ニ於テ勸告スルコト

(イ)右調停斡旋ノ任ハ本國政府又ハ中央ノ問題トセス哈爾濱領事團ニ於テ之ニ當リ其ノ適當ト認ムル時期及方法ニ依リ措置スヘキコトヲ利害關係國政府ヨリ各々訓令委任スルコト

(ロ)右措置ニ關シテハ日米英各領事ノ間ニ於テ華府會議決議第十一及第十二ニ拠リ列國ノ享有スル東支鐵道ニ對スル權利利益ヲ有スルノ基礎ニ於テ熟議ヲ遂ケ共同勸告トシテ露支兩当局ニ對シ深甚ナル注意ヲ喚起スルコト

三、不取敢採ルヘキ措置

今日迄ノ情報ヨリ判断スレハ以上ノ最後ノ決心及臨機方法共ニ未タ之ヲ実行スヘキ時期ニ非ス日本トシテハ尚時局ノ發展ヲ慎重ニ注視スヘキコト言フ俟タサル処在支公使ハ既ニ奉天側ニ對シテ一方の牽制ヲ為スヘキ旨ノ意見ヲ上申シ居リ哈爾濱ニ於テハ未タ何等臨機方法ニ關シテ關係國領事トノ間ニ意見ノ交換ヲモ行ヒ居ラサル実情ナルカ少ク共前記第二項ノ臨機措置ヲ採ルコトヲ必要トス

投スルニ至リ事件ヲ「ローカライズ」スル代リニ却テ拡大紛糾セシムルノ虞ナシトセス

二、故ニ領事團トシテハ専ラ實際的の見地ニ基キ露支間ノ運賃問題又ハ條約上ノ論争ハ別ニ当事者間ニ於テ之ヲ解決スヘシトノ見地ヨリ(イ)國際通路ノ杜絶ヲ防キ(ロ)各國居留民ノ蒙ル不当ノ損害ヲ防止スル趣旨ヲ以テ列車運行ノ義務及鐵道ニ於ケル治安維持ノ責任ヲ事實上ノ鐵道管理經營者(支那側タルト露國側タルトヲ問ハス即チ露支當事者双方ニ)ニ迫ルコトニ差當リ其ノ立場ヲ限局シ間接ニ露支當事者間問題解決ノ氣運ヲ促進スルコト

三、但シ露支双方ニ於テ希望スルニ於テハ論争解決ノ為領事團ニ於テ本國政府ト離レテ地方的ニ斡旋(Bons offices)ノ勞ヲ辭セサルコト

四、尤モ右二及三実行ノ前提トシテハ支那側ニ於テ武力使用ヲ抑制シ露國側ニ於テモ「ストライキ」又ハ怠業ニ依ル「パシブレジスタンス」ヲ為ササルコト絶対ニ必要ナルヲ以テ之カ為領事團ニ於テ必要且適當ナル勸告ヲ發スルヲ急務トスルコト

五、滿鉄其他張作霖周圍ニ於テ此ノ上共慎重ノ態度ヲ持シ

(満鉄幹部ヨリハ今回ノ露支紛争ニ表裏共干与セサル様
其ノ出先ニ訓令済ノ由)張作霖ノ地位ニ新ナル動揺ヲ来
シ若ハ帝國ノ對露支政策ノ大局ニ累ヲ及ホスコトナキ様
出先領事ニ注意セシムルコト

六、以上ノ方針ヲ体シ可然措置方奉天、哈爾濱及長春領事
ニ訓令シ事件ノ拡大及露支間ノ兵力衝突ヲ抑止スルニ努
力セシムルコト

(付記三)

一月二十五日亞細亞局長室ニ於ケル四局長會議要録

出席者

陸軍側 畑軍務局長 佐藤大佐

海軍側 中村軍令部參謀

外務省 木村亞細亞局長 広田欧米局長

木村局長

「イワノフ」長官逮捕事件ニ関シ露西亞側ハ支那カ暴力ヲ
以テ鉄道ノ管理ヲ行ヒ従業員ヲ強迫シ其非ハ全ク支那ニ在
リト論シツアルニ對シテ支那側ハ露西亞側ニテハ護路軍
運賃不払ノ問題ヲ云々スルモ從來モ之ヲ支払ヒタルコトナ
ク又支払フヘキ性質ノモノニモアラス然ルニ之ヲ理由トシ

公使ト「カラハン」会見ノ際「カラハン」ハ日本ノ干涉的
態度ニ抗議シ其理由トシテ三ヲ挙ケタリ

(一)天羽總領事カ領事會議ニ「イワノフ」張煥相ノ出席ヲ求
メタル際「イワノフ」ハ該事件ヲ以テ露支ノ問題ナリトノ
理由ノ下ニ出席ヲ拒メリ然ルニ張煥相ノ出席ヲ乞ヒテ其謂
フ所ヲ聞ケリ之支那ニノミ厚クシテ余リニ一方的ナラスヤ
(二)天羽總領事ハ列國領事ノ意思ヲ顧ス東支鉄道側ニ抗議セ
リ

(三)滿鉄大蔵理事ハ奉天ニ在リテ支那側ノ背後ニ活動シツツ
アリ

之ニ對シテ芳沢公使ハ天羽總領事ハ主席領事ナルヲ以テ領
事會議ニ於テ主宰提議スルハ自由ナリ又当事者タル「イワ
ノフ」張煥相ノ出席ヲ求メテ意見ヲ聞クコトハ何等差支ナ
ク干涉ニアラス交通ノ不備ハ外國民ニ大ナル影響アルヲ以
テ之ヲ防止スルニ努ムヘキハ領事團当然ノ義務ナリ最後ニ
大蔵理事ノ行動ニ関シテハ会社ヨリ何等干涉セサルヘキ旨
ヲ命令シアル旨ヲ答ヘタリ其ノ際「カラハン」ハ曰ク「支
那ヲシテ條約ヲ履行セシムル為兵力ヲ用イルモ辞セス二個
師団位ハ出動セシムル積ナリ」ト

テ列車運轉ヲ拒ムカ如キハ非ナリ故ニ強行ニ依リテモ交通
ノ安全ニ努ムツアルナリト主張ス斯クシテ双方共譲ラス
今日ノ事態トナレルカ新聞紙ニ伝ヘラルル所多クハ宣伝ノ
為ニセラレ真相ヲ穿タサルモノ多シ

右事件ニ對スル張作霖ノ態度ヲ見ルニ何等ノ自信ナキモノ
ノ如シ思フニ張ハ「イワノフ」ノ態度強硬ナレト露國ハ
北滿侵入ノ備ヘモナク腰モナシ一侵入ノ事アラハ國際問
題トナリ從ツテ日本ノ出動ヲ見ルヘシ」トノ腹ヲ有スルナ
ルヘシ

張カ日本ノ態度如何ヲ吉田總領事ニ問ヘルニ對シテ同總領
事ハ「右事件ハ露支間ノ問題ニシテ日本ノ干涉スヘキ性質
ノモノニアラス日本カ支那ニ代リテ問題トナスカ如キ事ハ
重大ナル誤解ヲ招ク因ナレハ日本ハ斯ル策ニ出テサルヘ
シ」ト突キ放セリ

又事實上張煥相ハ郭松齡事件ニ関スル名譽恢復ニ利センカ
為張作霖ノ指図以上ノ行動ヲ取り居レリ「イワノフ」逮捕
ノ理由トシテ三度戒嚴令違反ヲ挙ケタルカ理由薄弱ニシテ
逃ケ腰ナリ

翻テ露西亞ヲ見ルニ確トシタル政策ナシ去ル二十一日芳沢

次ニ二十三日「コップ」大使ハ次官ニ会見ヲ求メ前頭「カ
ラハン」カ芳沢公使ニ為セルト同趣意ノ抗議ヲ為シタルニ
依リ次官ハ貴使ノ謂フ所ハ想像ニ過キス想像ヲ基礎トシテ
抗議スルハ何ソトキメツケ又天羽總領事カ列國領事ノ意思
ヲ顧スシテ東支鉄道側ニ抗議セリトハ不可解ニシテ同總領
事ニ於テハ右ニ付無論列國領事ノ同意ヲ求メタルモノト解
セラルル旨答ヘタル處「コップ」大使ハ抗議ナル語ハ之ヲ
取消スヘク單ナル希望ト見ラレ度シト讓歩的態度ニ出テ且
自分ハ此度ノ問題ニ関シ如何ナル態度ニ出ツヘキカヲ知ラ
スト付言セリ

次ニ「ソ」本國政府ノ意向ニ付テハ二十二日田中大使「チ
チェリン」ノ請ニヨリ会見ノ際「チチェリン」ハ先ツ北滿
ニ於ケル事態ノ重大ナルヲ暗示シ今回ノ事件經過ヲ説キ曰
ク「本件ハ目下熟議中ナリ日露ノ親交ハ當國政府ノ大ニ重
視スル所ナレハ慎重事ニ処スヘシ今回ノ事露國トシテハ露
支條約ノ尊重ヲ求メタルニ過キス」ト田中大使ハ支那政局
ノ紛糾ヨリ見テ徹底的解決策ノ困難ナルヲ述ヘ暗ニ兵力使
用ノ腹アルヤヲ訊セルニ「チチェリン」ハ露國ハ平和的解
決ニ努ムヘク唯張作霖ノ態度強圧的ナレハ又考慮ノ要アリ

大蔵高橋天羽氏等カ支那ノ態度ヲ是認セルニ依リ支那側ノ強圧的態度ト為レリト説キ最後ニ日本政府カ出先官憲ノ行動ヲ戒ムル様命令サレタク支那ニ対シテハ平和的解決ノ勸告ヲ与ヘラレンコトヲ希望スル旨ヲ述ヘタリ

要之「カラハン」ハ二個師団出動ヲ云々シ強硬ナルモ「コップ」ハ其態度弱ク処スヘキ方法ヲ知ラサルモノノ如ク「チチェリン」ハ日本官憲ノ言動ヲ戒メ支那ニ平和的解決勸告ヲ希望スルニ止レリ予輩(木村局長)ノ見ル所ヲ以テスレハ今ハ「カラハン」ハ単ナル「ブラップ」ノ時代ナリ事實亦「ダウリヤ」出兵ノコトナク「ウスリ」線赤軍動員ノ風評モ渡辺領事ノ報スル所ニ依レハ其ノ事實ナキナリ本日莫斯科ヨリ露國ノ支那ニ対スル最後通牒發送ノ事實ヲ確ムル電報アリシモ今ノ処ハ双方共出兵ノ自信ト準備ナシ而シテ双方共ニ最後ノ解決ハ日本トノ交渉ナクシテハ不可能ナルヲ知レリ故ニ暫ク不干渉ノ態度ヲ持スヘク孰レヲ助クルモ事態ヲ紛糾セシムルニ止ル帝國政府トシテハ交通ノ保全治安ノ維持ニ努ムルト同時ニ暫ク冷靜ニ事態ノ推移ヲ待ツヲ可トスヘシ

広田局長 御同感ナリ過日モ北京ニテ「カラハン」カ出兵

ニ至レル趣ナリ

広田局長 露國ノ支那庄迫ハ日本側ニ有利ナリ從來露國カ露支親善ヲ名トシテ支那ニ接近シツツアリシカ今回ノ事ハ從來ノ態度ヲ全ク裏切ルモノトシテ支那ノ露國信賴ノ念ヲ薄弱ナラシムヘシ一方張モ愈々トナレハ露ノ力ヲ覺ルヘク日本ヲ依頼スルニ至ルヘケレハ外交上最モ有利ナル立場ニアリ暫ク形勢ヲ觀望スヘシ

佐藤大佐 然レトモ万一露國ニシテ北滿ニ侵入センカ何等之ヲ停止スルモノナク国防上重大ナル形勢ヲ惹起センコトヲ恐ル洩洩線ハ露軍ノ利用ニ委セラレ北滿ノ資源亦然リ露ノ出兵ヲ阻止スル策ニ出テラレタシ

広田局長 日本トシテハ出兵ヲ阻止スヘキ理由ナシ

佐藤大佐 当方トシテモ町野氏ニ対シ日本ノ援助ヲ頼ミトセサルコトヲ張ニ伝ヘル様打電スル筈ナルモ出兵ヲ未然ニ防キ速ニ平和的解決ニ達スル様今少シク積極的態度ニ出テラレタシ

畑局長 平和的解決カ眼目ナレハ其成功ニ努力スヘシ

佐藤大佐 「ザバイカル」以東ニ五万ノ赤軍アリ露國ニシテ日本カ張ヲ援助セスト知レハ出兵ノ事アルヤモ知レス

ヲ「サジェスト」セル際芳沢公使ハ之ヲ「デイスカレッジ」シオケリ出淵次官亦「コップ」大使ニ対シ互讓妥協圓滿ナル解決ヲ希望スル旨述ヘ更ニ莫斯科ニテモ田中大使ハ平和的手段以上ニ出テサル様念ヲ押シタルヲ以テ露國ハ充分日本ノ本事件ニ対スル意思ヲ了承シ居ル筈ナリ張作霖ニ対シテモ吉田總領事ハ張ノ強圧的態度ニ賛成セス平和的ニ解決センコトヲ希望シオキタリ

畑局長 冷靜ニ事件ノ成行ヲ觀測スルヲ得策トスヘシ

木村局長 大蔵滿鐵理事ハ多少輕率ノ傾アリシヲ以テ松岡理事ヨリ一切干渉セサル様警告シタリト思ハル

広田局長 天羽總領事ニ対シテモ東支鉄道ハ國際的施設ナレハ単独行動ヲ取ルハ不可ナルニ付領事団トシテ協同的行動ヲ取ルヘキ旨訓令シアルヲ以テ同總領事モ充分注意シ居レリ

木村局長 吉田總領事ノ電報ヲ見ルモ菊池少將ト張作霖會談ノ際菊池少將カ張ニ対シ本件ニ就キ天羽總領事ニ斡旋方ヲ依頼スヘキヲ以テ支那側ノ条件ヲ提出スル様勸告セルニ張之ヲ承諾セリ其後天羽總領事ヨリノ報告ニ依レハ右斡旋方ノ依頼ナトノ事ナク事態ハ局外者ノ干渉ヲ便宜トセサル

木村局長 露支双方共日本ノ沈黙ヲ恐ルル絶対ニ日本ノ意思ヲ保留シオクカ策ノ得タルモノナリト信ス

佐藤大佐 積極的干渉ノ不可ナルハ吾人モ之ヲ知ル畑局長 出兵ノ事ハ次ノ問題ナリ勿論コノ事ナキニ努ムヘク露ノ最後通牒ニ対スル支那ノ態度明瞭トナリタル場合又日本ノ採ルヘキ策ヲ決セハ可ナラスヤ今回ノ事件ハ面目問題ナレハ双方ノ面目ヲ立テテ解決スルニ留意スヘシ

佐藤大佐 列車運轉ト「イワノフ」釈放ヲ結ヒ付ケ事件ノ具體的解決ヲ急カレタシ

井口官補記 一時半散會

三九六 一月二十三日 出淵外務次官 會談

東支鉄道問題ニ関スル出淵外務次官トコップ

大使トノ會談要領 (一)

(一月二十三日 自午後三時 至午後五時)

島田領事手記

「コップ」大使ハ「クズネツオフ」一等書記官ヲ隨ヘ一月二十三日出淵次官ヲ來訪シ在哈爾濱日本領事ノ行動ハ將ニ

日露親善關係ニ反シ又幣原外相カ議會ニ於テ聲明セラレタル極テ公正、且立派ナル日本政府ノ根本方針ニモ反スルモノアリ茲ニ其ノ具体的事実ヲ述フヘシトテ(一)日本領事ハ一月二十日「イワノフ」カ出席セス他國ノ領事モ出席ヲ欲セサリシニ不拘東支問題ニ付領事団會議ヲ開催シタリ又(二)東方通信ニ抛レハ日本領事ハ「東支南部線ノ運行ハ支那側ノ手ヲ以テノミニテモ回復シ得ヘシ」トノ「インタヴュー」ヲ發表セラレタル由右日本領事ハ今次ノ東支問題ニ付不干渉主義、無所屬の態度ヲ採ラレスシテ支那側ヲ支持シ居ルモノト謂フヘク右ニ對シ茲ニ抗議ヲ提出スルモノナリトノ趣旨ヲ縷述シタリ

右ニ對シ出淵次官ハ大使ノ申出ハ本國政府ノ訓令ニ基キ抗議ヲ提出スト云フニアリヤ先以テ此点ヲ承ハリ度然ル後我方ノ有スル幾多ノ情報ヲ説述スヘシト述ヘタルニ

「コ」大使ハ予ノ申出ハ之ヲ抗議ト謂フヘキカ申出トスヘキカ要請トスヘキカ其ノ形式ハ如何様ニテモ宜敷モ要スルニ出先ニ於ケル空氣ヲ東京及莫斯科ニ於ケル如ク良好ナラシメタシト謂フニ在リト云ヒ

出淵次官ハ空氣ヲ良好ナラシメタシト云フ趣旨ナレハ良ク

ミ居ル次第ナルカ今次ノ事件ノ起因如何ト質ネタル処

大使ハ当初軍隊ニ對スル運賃支払問題ニ事ヲ發シタルハ事實ナルモ夫レヨリ支那兵ノ亂行、時間表ニヨラサル列車ノ運行、「セマホア」ヲ用イサル列車運行、等強制的ニ行ハルルニ至リ斯テハ衝突等アリ得ヘク安全ナル運行ヲ保障スル能ハサルニヨリ運行ヲ中止スルノ已ムナキニ至リシモノナリ運賃ヲ支払ハサルカ故ニ列車ヲ止ムルト云フカ如キ次第ニアラス元來運賃問題ハ運行ニ關係ナク解決シ得ヘキ事柄ナリト云ヒ

次官ハ大使ニハ何等解決案ヲ有セラルルヤト問ヒタルニ大使ハ格別ナキモ次官ニ於テ案ヲ有セラルルニ於テハ承ハリ御相談ニ応シテモ宜敷ト思考スト答ヘ

次官ハ本件ハ地方的問題ナルヲ以テ露支兩國間ニ互讓妥協ノ精神ヲ以テ速ニ解決ヲ見ムコトヲ切望ス日本ハ本問題ニ関シ不干渉ノ態度ヲ持スル決心ナルモ東京ニ於ケル我等ニ於テモ研究シ置ク必要アリ夫レカ為ニハ相互ニ情報ノ交換モ可ナリト思考スト述ヘ「コ」大使ハ之ヲ諒トシ引取レリ同日夕「グズネツオフ」書記官ハ「コ」大使ノ命ニ依ルトテ島田領事方ヘ在哈爾濱「グラント」總領事ヨリノ情報ヲ

了解セリトテ日露關係ニ関スル外務大臣ノ議會ニ於ケル演說天羽總領事ノ態度人物ニ就キ篤ト説明ヲ与ヘ「コ」大使ノ挙ケタル所謂二個ノ事實ニ関シ十分弁駁ヲ加ヘ、尚出先ニ於ケル空氣ヲ害スル者ハ露國側ニモアリ得ヘク一概ニ天羽總領事カ空氣ヲ惡化シタルカ如キ言分ニハ到底承服スルヲ得ストテ懇々説明ヲ与フル所アリ

「コ」大使ハ頗ル感動シ且了解シタル態度ニテ要スルニ目下非常ニ緊張シ居ル際ナレハ此際双方ヨリ出先官吏ニ對シ中央部同士ト同様ノ態度ヲ持スヘキ趣旨ニテ訓令ヲ發スルコトト致度シ具体的事実モ微細ニ分析セハ結局何モ残ラサルニ至ルヘケレト要ハ何トナク空氣ノ惡化ヲ感スト云フニ在リ平時ナレハ「インタヴュー」ニ関シ何等弁解ヲ要セサルヘキモ昨今世人緊張注視シ居ル際ナレハ此際「インタヴュー」ニハ注意ヲ要スヘシト思考スル次第ナリ東支問題ニ付テノ話ハ是ニテ止ムヘシト述ヘ

次官ハ御話ノ趣旨ハ了解セリト答ヘ幣原大臣ノ演說英訳ヲ「コ」大使ニ手交シタル上実ハ本日ハ五時ニ約束アリ時間少キモ当方ヨリ伺度事アリトテ東支南部線運行中止ニ関シテハ日本ハ最モ利害關係アリ、速ニ交通開通センコトヲ望

送付越シ右邦訳ノ上出淵次官ノ閱覽ニ供サレ度旨申越セリ

三九七 一月二十四日(着)

在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

チチェリンヨリ東支鉄道問題ニ對スル日本ノ

態度乃至意向ヲ承知シタキ旨申出アリタル件

第三四号

二十二日讀ニ依リ「チチェリン」ヲ訪問同氏ハ直ニ北滿ニ於ケル事態カ如何ニ重大トナリツツアルカヲ篤ト日本政府ニ「インプレス」セラレンコトヲ望ムト述ヘ「イワノフ」捕縛ニ至ル迄ノ張作霖對露西亞紛糾ノ概要ヲ述ヘ本件処置方ニ付目下熟議中ナルモ此ノ際之ニ對スル日本ノ態度乃至意向ヲ承知シタシ日露ノ親交ハ當政府ノ極メテ重視スル所ニシテ過般ノ滿州動亂ニ於テモ種々ノ新聞報アリタルモ當政府トシテハ日本ノ立場ヲ顧慮シ慎重ノ態度ヲ執リタリ當方ハ只タ露支條約ノ尊重ヲ求メタルニ過キス日本政府ハ露國カ南滿ニ於ケル日本ノ地位ヲ尊重スルト等シク北滿ニ於ケル我地位ヲ尊重セラルルコトト期待スト述ヘタルニ依リ本使ハ貴意ヲ承セリ早速電報スヘキ旨答ヘ置キタリ本件ハ成行如何ニ依リテハ日露國交ノ重大ナル禍根トナルヘク此

ノ際我態度ヲ充分説明シ置クコト然ルヘシト思考スルニ付
委曲回電アリタシ

其ノ際本使ハ進ンテ貴方ニ於テ如何ニシテ本件ヲ解決セン
トセラルルヤ支那ノ混沌タル政局ニ見ルモ徹底セル解決ハ
困難ナルヘク何レニシテモ平和的手段ヲ超ヘサルコトト思
考スト述ヘタルニ固ヨリ露國政府ハ有ユル平和的手段ニ依
リ解決ヲ求ムヘシ然レトモ張ノ如ク挑発ト武力トヲ重ヌル
ニ於テハ如何ナル結果ニ到ルヤモ窺知スルヲ得スト強ク答
ヘタリ尚右談話ノ際「チ」氏ハ我天羽總領事大藏滿鐵理事
及高橋大佐トカ公然支那側ノ行動ヲ是認スル言動アリタリ
トテ張側ハ之ニ氣勢ヲ得タリト述ヘ日露兩政府間相互ニ親
交ニ努力セルニ拘ハラス出先官憲ノ態度ハ真ニ遺憾ナリ日
本政府ハ直ニ之レカ是正ノ手段ヲ執ラレンコトヲ希望ス之
当政府ノ希望スル平和的解決ニ資スル所鮮ナカラサルヘシ
ト述ヘタルニ依リ右ハ如何ナルコトヲ指サヤ他人ハ別トシ
總領事カ支那側ヲ支持シタリトハ何等カノ誤解ナルヘキ旨
ヲ述ヘタルニ「チ」氏ハ卓上ノ電報ヲ判読シ二、三ノ事例
ヲ述ヘ(新聞記者ニ与ヘタル会見談及或ル会合ニ於ケル談
話等)尚此ノ他ニモ多々アリト云ヘルニ依リ右ハ差支ナク

売スル事トナリ右切符ヲ積込居ル哈爾賓ヨリノ旅客列車本
二十四日午前十二時発ノ予定トナリ居タルカ準備整ハサル
為延期トナリ発車未定ノ旨入電アリタル趣ニテ当方ヨリノ
客車モ何時発車セラル可キヤ差当リ不明ノ状態ニアリ尚昨
二十三日寛城子ニ滞留中ノ支那兵一千余名再ヒ自ラ軍用列
車ヲ仕立テ哈爾賓ニ向ケ出発シタルカ之ニテ軍隊輸送モ一
段落トナレリ尚又本二十四日劉東鉄督弁臨時列車ニテ哈爾
賓ヨリ來長午後十時半発列車ニテ奉天ニ向フ管用向不明ナ
ルモ恐ラク事情ヲ張作霖ニ報告指揮ヲ仰クニアルナルヘシ
北京、奉天、哈爾賓、齊齊哈爾、滿州里ヘ転電セリ

三九九 一月二十四日 在ヘルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東支鉄道問題ヲ纏リソ連邦ノ軍事介入ノ予測
ニ関シ報告ノ件

第二九号 (一月二十六日接受)

勞農側今後ノ態度ニ付テハ揣摩臆説行ハレ東支労働者ノ同
盟罷業或ハ赤軍侵入等ノ風説可成リニ流布セラルルモ同盟
罷業ニ就テハ市会議長ニシテ東支鉄道課長タル「ギウス」
及旧東支理事「クズネツオフ」ノ如キ東支ノ消息通ハ労働

ハ其ノ報告ノ写ヲ得タシト述ヘタルニ早速抜萃ノ上送付ス
ヘシト約シ若シ日本出先官憲ノ言動ヲ戒飭スルノミナラス
張作霖自身ニ平和的解決(ノ勸告)ヲセラルレハ更ニ幸ヒ
ナリト述ヘタルニ依リ是亦逐一東京ニ報告スヘキ旨答ヘ置
キタリ序テニ膺肭猷条約改正會議ノ件ヲ聞キタルニ右ハ日
本ノ提議ヲ拒絶スル意思ナキモ若干ノ「サジエーン」ヲナ
ス考ニテ目下關係当局ト協議中ナルニ依リ回答ハ今暫ク待
タレタシト云ヘリ

在仏大使ヘ転電シ英國、米國ヘ転電セシメ又北京ヘ転電セ
リ

三九八 一月二十四日 在長春栗原領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

列車運行未定状況及ビ軍隊輸送一段落シタル
旨報告ノ件

第一六号
往電第一四号ニ関シ

二十二日哈爾賓ヨリ到着ノ旅客列車ハ直ニ同地ニ引返ス可
ク護路軍ヨリ東鉄従業員ニ切符発売方強要シ居タルカ之ニ
応セサル為結局哈爾賓ヨリ新發行ノ切符ヲ取り寄せ自ラ販

者ハ失業ヲ恐ルルト現在ニ於テハ既ニ時機遅レタル觀アリ
恐ラクハ行ハレサルヘシト觀測シ一般ニ於テモ大規模ノ罷
業ハ起ラサルヘシト見ル者多シ露軍ノ侵入説ニ付テハ当地
方ノ情況ヨリ判断シ且ツ(一)露軍侵入ノ結果ハ露國カ予テヨ
リ煽動スル反帝國主義運動ニ非常ナル障碍ヲ与フルコト(二)
露兵侵入セハ支那側ハ直ニ東支鉄道ヲ破壊シ露國側ニ多大
ノ損害ヲ与フヘキコト(三)露國側ハ軍隊ヲ進出セシムルモ東
支ヲ永久ニ占領スルコト能ハサルコト(四)軍隊侵入ノ場合ニ
於ケル北京ノ態度ニ対スル懸念アル等ノ諸事由ヲ考慮セハ
露國カ國境ニ於テ示威運動ヲ為スコトハ兎ニ角果シテ北滿
進出ヲ敢テスルヤ否ヤ疑ハシキモ米國領事ハ「スカース
ト」ヨリノ聞込トシテ「カラハン」ハ二十三日午後三時張
作霖ニ宛テ三日間内ニ「イワノフ」ヲ釈放セサレハ軍事的
干涉ヲ行フヘシトノ最後通牒ヲ発シタリト通知シ來リタリ
又或ル消息通ハ勞農ハ予テ軍事的行動ヲ予期シ旧露國參謀
將校「ゲツケル」ヲ東支理事ニ任命シ(客年十一月十八日
付公信第四九三号拙信)革命委員「シパワク」ヲ東支軍事
顧問トナシ更ニ最近北京勞農大使館武官「ローゲン」ハ
「グラント」ト共ニ北京ヨリ(脱?)軍事行動ノ準備既ニ

成レリトノ説ヲ為ス者アリ在支公使堯閣下宛電報第四五号中「カラハン」ノ言モアレハ御参考迄ニ報告ス
莫斯科、北京、奉天、長春、浦潮、満州里へ転電セリ

四〇〇 一月二十四日 在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東支問題解決ノ措置ヲ繰ル張煥相ノ古沢満鉄
事務所長へノ内話ニ関スル件

第三一号 (一月二十五日接受)

本官発奉天宛電報第二八号

貴電第一〇号ニ関シ

張煥相ハ二十四日古沢満鉄所長ニ対シ左ノ如ク内話セル由張作霖ハ従来万事ヲ張煥相ニ一任セルニ二十三日奉天ニ打合せナクシテ「イワノフ」ヲ逮捕シタルコトヲ叱責シ今後如何ニ事件ヲ收拾スヘキヤト難詰シ来タリ張作霖モ支那側ニテ列車ノ運行ヲナスヲ差止メ来リタル為張煥相ハ窮地ニ陥リ場合ニ依リテハ全然自己ノ責任ヲ以テ処断セン覚悟ニテ先ツ「エイスマンド」ニ対シ列車運行ヲ命シタルカ「エイスマンド」ハ兵隊ノ暴行止マレハ列車ヲ運行スヘシト回答シ来リタル故張煥相ハ兵士ノ暴行セサルコトヲ保障ス可

総長賈德耀ヲシテ馮玉祥ト其ノ対策ヲ協議セシムヘク賈ハ今朝馮ノ許ヘ急行セリ

右閣議ニ列席セル一員ノ直話ニ依レハ閣員ノ大部ハ張作霖及之ト連衡スル我日本ニ対スル反感ノ為寧ロ露国ノ出兵ヲ余儀ナキモノト思ヘルモノノ如ク甚シキハ之ヲ利用シ日本主義ニ圧迫ヲ加ヘ得ヘシト得意氣ニ論スル者アリタル由リ支那当局者特ニ国民党員ノ心理スノ如シ注意ヲ要ス
関東、天津、奉天済

四〇二 一月二十五日 在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東支鐵道問題ニ関シソ連邦総領事張作霖會談ノ
結果妥協成立シタル旨ノソ連邦総領事館秘書ノ
談話報告ノ件

第四三号 (一月二十六日接受)

露国総領事館秘書「ポドロフスキー」(同人ハ当地赤党中ノ有力者ナリ)ノ二十五日内山ニ語レル処ニ依レハ東支鐵道問題ニ関シ昨二十四日露国総領事張作霖ト會談ノ結果
(一)「イワノフ」ソノ他従事員ヲ直ニ釈放スルコト

(二)列車運轉ヲ至急回復スルコト(技術上ノ關係モ有ルカ今

キ旨ヲ通達シタリ云々

尤モ張煥相ハ最後ノ決心ヲ示シテ右ノ談話ヲナシタリトノ事ナルカ従来ノ行懸ヨリ見レハ「エイスマンド」カ直ニ張煥相ノ命ニ応スルヤ否ヤ疑ハシク其結果張煥相ハ独断ノ行動ヲ採ラサルヲ得サルコトナル可ク奉天側ノ態度如何ニ依リテハ張作霖ト張煥相トノ關係ニ重大ナル影響ヲ来タスヤモ知レス從テ目下ノ処張煥相ハ調停ニ依ル解決ナト考ヘ居ラサルモノノ如シ

大臣、北京、長春へ転電セリ

四〇一 一月二十四日 在北京坂西中将ヨリ
金谷參謀次長宛(電報)

カラハンノ張作霖、張煥相処置ノ要求ニ対ス
ル中央政府ノ反応ニ関シ報告ノ件

坂第二号 (一月二十六日外務省接受)

東支鐵道事件ニ関シ昨二十三日「カラハン」ハ王正廷ト會見シ口頭ニテ張作霖ノ張煥相ニ対シ中央政府ノ処置ヲ要求シ已ムヲ得サレハ自由行動ヲ採ルヘシトノ最後通牒ノ警告ヲ為セリ

之ニ関シ昨日閣議ノ結果暫ク回答ヲ与ヘス取り敢ヘス陸軍

明日中ニハ運轉ノ筈)

(三)護路軍以外ノ軍隊ヲ至急停車場ヨリ撤退セシムルコト
(四)軍隊輸送運賃問題ノ細目ニ付テ張作霖ト「カラハン」トノ間ニ直接交渉ヲ為スヘキ点有ルモ(過般「カラハン」來訪ノ際重要問題ニ付テハ張作霖ト電信ヲ以テ直接交渉ノ事ニ話済ミ)大体ニ於テ従来東支ノ収入ハ露支兩國之ヲ折半シ居ルヲ以テ支那側取得部分ヨリ軍隊輸送運賃ヲ控除スルコトヲ以テ張ト妥協成立セリ又私見トシテハ東支ノ護衛上日本ノ滿鉄ニ於ケルト同様或ル時期ヲ見テ守備兵ヲ廢スルノ必要認メラレ且ツ右東支鐵道條約ニ依ル当然ノ權利モ莫斯科政府ニ於テハ反帝國主義ノ國是ニ悖ルモノトノ見解ヲ維持シ居レリ云々

依テ内山ハ當時交渉ニ当リタル東三省交渉總署露国課長張國忱ニ付キ右確メタル処張ノ談ニ依レハ(一)ハ主要ナル交換条件ニシテ(二)ハ条件ト言フ程ノモノニ非サルモ軍隊ハ事實上撤退セリ但(四)ニ付テハ

(イ)護路軍ノ運賃ハ之ヲ免除ス

(ロ)不必要ノ兵士ノ乗車ニ関シテハンソノ運賃ハ記帳シ置キ
決算期ニ於テ支那側ノ受クヘキ純利益金ハ之ヲ控除ス

ルコト

ニテ妥協成立シタルヲ以テ張作霖ハ二十四日夜半「イワノフ」釈放方ヲ張煥相ニ打電シ列車運轉ハ露国総領事ヨリ莫斯科へ転電ノ上「イワノフ」及ヒ「カラハン」ニ訓電スル事ニ取極メタルカ二十五日午後張煥相ヨリ右ノ通り取計フ旨返電有リ

本件交渉ニ付テハ去ル二十日支那側ヨリ露国側ニ前記主要条件ヲ提出シタルニ露国側ハ之ヲ承認セス交渉頓挫中ナリシ処「イワノフ」局長逮捕セラルルヤ露国側ニ於テモ支那側ノ要求ヲ承認スルコトトナリ昨二十四日愈解決ヲ見ルニ至レリ

在支公使、哈爾濱、長春、吉林ニ転電セリ

四〇三 一月二十五日 在ハルビン天羽総領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

イワノフ釈放ニ関スル張煥相ノ通告報告ノ件

第三三三号 (一月二十六日接受)

二十四日東支南部線依然不通二十五日午前十一時「イワノフ」釈放セラル之ニ関シ張煥相ハ「イワノフ」及鉄道職員ヲ釈放スル事(ニ)即時列車ヲ運行シ鉄道ノ原状ニ回復スル

赤露トノ関係又ハ東支トノ商業関係余リニ密接ニシテ公正ナル態度ヲ採リ難キ者アルカ故ニ二十三日ヨリハ華盛頓會議関係国代表タル日、英、米、仏、伊等正式領事ノミ毎日非公式ニ意見交換ノ為メ当館ニ集マルコトトナレリ十七日本官緊急會議ヲ召集スルヤ右ハ多少世上ノ注意ヲ惹キタルモノト見エ張煥相ハ往電第一四号ノ如ク本官ヲ通シテ領事団ニ事情説明方ヲ依頼シ「イワノフ」ハ丁抹領事ヲ訪問シテ其ノ立場ヲ詳細ニ説明シ米露領事ハ管理局ヨリ支那兵暴行ニ関スル寛城子駅長発「イワノフ」宛電報ヲ入手シ何レモ會議ニ披露セラレタリ

第一回會議ニ於テ本官ハ軍隊輸送ニ関シ露支間ノ紛争ニ関与スルコトヲ避クヘキ旨ヲ提議シ何レモ異議ナシ以テ当面ノ問題トシテ(一)交通ノ回復(二)郵便物ノ運送(三)損害賠償ノ三件ニ付議ス可キコトヲ提議シ別ニ大シタル意見モナク往電第一四号ノ如ク決定セリ右通告先ニ付テハ列車ノ運行ノ停止ハ「イワノフ」ノ命令ニ基キタルモノナルカ故ニ之ヲ「イワノフ」宛ニ發送スルコトニハ期セスシテ一致シタル処ナルカ交通状態ノ回復ニハ支那官憲ノ尽力ヲ必要トスル為メ支那側ニモ同文ノ通告ヲ發スルコトニシタリ右ハ特ニ

事(三)軍人ノ乗車ハ從來通ノ手續ニ依リ其運賃ハ支那側ノ純利益金ヨリ控除シ現金払トセス護路軍ノ輸送ハ從來ノ手續ニ依ル事及將來軍隊ノ輸送ハ本規定ニ準拠スヘキ事ニ奉天側、謝局長ト在奉天露国領事トノ間ニ交渉成立シ張作霖ヨリノ電命ニ依リ右問題解決ヲ見ルニ至レルモノナリト通告シ来レリ

在露大使、在支公使、奉天、浦潮、長春、吉林、齊齊哈爾、滿州里へ転電セリ

編註 一月二十六日在本邦「コップ」ソ連邦大使ヨリ「イワノフ」管理局長ノ釈放ト東支鉄道運行ニ関シ中ソ間ニ協定成立シ問題緩和サレタル旨外務省ニ申越ガアッタ

四〇四 一月二十五日 在ハルビン天羽総領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

東支鉄道問題ニ関スル領事団會議ニ於ケル各

国領事ノ意見主張詳細報告ノ件

第三四四号 (一月二十六日接受)

貴電第一一號ニ関シ

商人領事ヲ含ム全部ノ領事団會議ハ十七日及二十日ノ二回行ハレタルカ其ノ内葡萄牙、丁抹ノ如キ商人領事ノ内ニハ

一領事ヨリ改メテ提議シタルモノニアラスシテ二、三ノ間ニ自然ニ言ヒ出サレタルモノナリ損害賠償ノ要求先ニ付テハ議論モナク領事団ノ書面ニハ関係者(Parties concerned)其實ニ任スヘシト記載セリ第二回會議ニ於テ本官ハ同僚ニ計リタル後詳細説明ノ為メ張煥相及「イワノフ」又ハ其ノ代理人ノ出席ヲ歓迎スル旨ヲ通知シタリ「イワノフ」ハ出席セス張煥相ハ立場ヲ説明シタル後東支管理局運行セサル場合ハ張自身運行スヘシト言明セル際モ領事ハ何レモ何等ノ議論ヲ為サス次テ本官ハ私見トシテ往電第一九号後段ノ意見ヲ述ヘタルモノ一同何等ノ質問セスシテ首肯セリ最後ニ損害賠償ニ付テハ独逸領事ハ支那官憲ニ請求スヘシト云ヒ丁抹領事ハ商人トシテハ直接管理局ニ損害ヲ要求スル事ハ事實困難ト云ヒ英國領事ハ英國人トシテハ関係スル事少ナキモ北京ニ請訓スヘシト云ヒ米露領事ハ北京ニ請訓スヘキモ可成掛合タクナシト述ヘタルニ付各自請訓スル事ニ決定セリ本官ハ往電第二〇号ノ意見ヲ述ヘタルカ其後二十三日以来ノ會合ニテ英、仏、米領事等モ同意見トナリタルヲ知レリ

「イワノフ」ノ逮捕ニ関シテハ米露領事ヨリ電話ニテ領事

團ノ之ニ対スル措置ニ付テ質問シ来リタルニ付「イワノフ」ハ何等特權ナキ一露国人ニシテ支那法律ニ依リ逮捕セラレ且露國領事モ当地ニ駐在スル事ナレハ領事團トシテハ何等關係セサルヘシト回答セリ次ニ英國領事ハ英國領事ノ希望アリトテ非公式ニ意見交換方相談シ来リタル上華府會議參加國代表[?]正式領事ノミ二十三日以来當館ニテ非公式ニ集ル事トナレルナリ

右ノ如ク各領事トノ會議ニ於テハ大シタ議論セス且各領事ハ未タ本國政府若クハ北京公使ヨリハ何等ノ訓令ヲ受ケ居ラサル由ナルカ英國領事ノ如キハ英國政府ハ最近東支鐵道問題ニ対シテ興味ヲ有セサルモノノ如シト云ヒ仏國領事モ仏國ノ有スル株ハ既ニ処理セラレタルハ特別ナル利害關係ナシト云ヒ米國領事ハ本國政府ノ態度ニハ言及セサルモ最近「インターナショナル」銀行副頭取「ミレー」[?]来ハシ屢々「イワノフ」ト会见シ東支筋トノ關係ヲ密接ニセントノ計画アリ其他最近一般米國人ノ東支ニ対シ經濟的關係深クナリツツアル為自然東支側トハ接近シ居ルモノノ如シ

四〇五 一月二十五日 出淵外務次官
コップ大使 會談

支持ヲ信賴シテノコトナリト思考ス

出淵次官ハ右ニ対シ自分ノ觀察ヲ述フルニ先立チ今回ノ事件ノ根本ノ原因ハ運賃支払問題ニ在ル様聞及ヒ居ル処右ニ関シ貴大使ヨリ何等承ハルコトヲ得ヘキヤト反問シタルニ「コ」大使ハ東支鐵道カ商業機關タル限リ輸送軍隊ヨリ運賃ヲ求ムルハ東支ノ「ステータス」ノ然ラシムル所ナリ今回ノ事ハ寬城子ニ於テ鐵道守備軍以外ノ支那軍隊カ乗車ヲ求メタルニ対シ鐵道従業員カ運賃支払ヲ求ムルヤ前記軍隊ハ旅客列車ヨリ旅客ヲ退去セシメ時刻表ヲ無視シ信号機ヲ放置シタル儘列車ヲ運行シテ鐵道ノ運行ノ安全人命貨物ノ保全ヲ期スルコト能ハサルニ至ルト同時ニ哈爾濱ニ於テ支那軍憲ハ軍隊ノ輸送ヲ強要スルト共ニ種々ナル威嚇手段ヲ弄セル結果運行不能トナリタルモノニシテ決シテ軍隊ニ対スル運賃ヲ机上ニ置カサレハ列車ヲ出サスト云フカ如キ單簡ナルモノニハアラスト述ヘ続テ本件ニ対スル日本政府ノ声明ヲ此際広ク外部ニ發表セラルルニ於テハ大ニ空氣ヲ緩和セラルヘシト思考スルニヨリ斯ク取計ハレンコトヲ望ム次第ナリ嘗テ張郭事件ノ當時幣原外相ハ勞農側ハ兵ヲ滿州ニ入ルル模様ナキ旨言明セラレタルコトアリタルカ今

東支鐵道問題ニ関スル出淵外務次官トコップ
大使トノ會談要領

(大正十五年一月二十五日自午前十一時半至午後一時半)

「コップ」大使ハ「スバリウイン」博士同伴出淵次官ヲ來訪シ土曜日ノ會談繼續ノ為メ參上シタリト云ヒ出淵次官ハ前回會談ノ内容ハ詳細幣原外務大臣ニ伝ヘ濟ナル旨ヲ答ヘタルニ「コ」大使ハ既ニ御承知ナルヘキモ一月二十三日北京ニ於テ支那側ニ交付セラレタル「チチエリン」[?]發段祺瑞宛東支鐵道問題ニ関スル覺書英訳文ヲ情報トシテ茲ニ差進ストテ別紙「ノート」英訳文ヲ手交シタル上三日ノ期限トハ二十六日迄ナリト説明シ尚本件ハ武力ヲ用ユルニ至ラスシテ解決センコトヲ期待スト云ヒ更ニ同大使ハ隔意ナキ私的會談トシテ申述フト前提シ自分ハ今次ノ東支鐵道問題ニ関シ大要左記ノ如キ觀察ヲ為シ居レリト云ヒ右ニ対スル次官ノ御觀察ヲ承ハリタシト付言セリ

東支鐵道今次ノ事件ハ露支兩國間ノ地方的事件ナルカ支那側ハ支那全体トシテ關係シ居ルニ非ス支那ノ一部即チ張作霖ノ關スル所タリ而シテ張ハ本件ヲ以テ日露間ノ關係ヲ紛糾セシメムト企テ居ルモノナルカ右ハ偏ニ日本ノ

回ハ日本側ニ於テ張作霖ヲ支持スルコトナカルヘキ旨聲明セラルレハ好都合ナリ勞農側ハ兵ヲ用ユルヲ欲セサルナリ云々ト云ヒ次官ハ右ニ対シ今次ノ事件ニ関シ勞農側カ出兵スルノ意向ナキ旨貴大使ヨリ承ハリ之ヲ喜フト共ニ本件カ未解決ノ儘永引キ万一露國側ニテ兵ヲ進ムルカ如キコトアラハ自然我國ノ輿論銳敏トナルヘキニ付其ノ前ニ急速解決サレンコトヲ望ム次第ナリ我政府ヨリ外部ニ対スル聲明ニ関シテハ二十三日北京ニ於テ「カラハン」氏ヨリ支那政府ニ交付サレタル「ノート」ノコトハ我國ノ新聞紙上ニ重大ニ伝ヘラレ居ルニ付自然議會方面ニ於テ質問モアリ得ヘク又幾多新聞記者ヨリモ質問アリ得ヘキニ付其都度夫々言明スヘク夫レニテ充分ナリト思考ス日本ノ輿論モ昔日ト異ナリ昨今ハ變化シ居リ一部少數ノ人士ヲ除キテハ一方ヲ支持スルコトヲ主張セントセス又奉天、哈爾濱ニ於ケル我領事モ支那側援助ノ言動ヲ為シ居ラス云々ト詳細説明ヲ加フル所アリ

「コ」大使ハ誤解ヲ避クル為メ出兵問題ニ付一言ストテ元來露國トシテハ東支事件解決ノ為メ兵力ヲ使用スルヲ欲セス唯若シ一般秩序回復セス「イワノフ」[?]釈放セラレス鐵道

ノ運行中止依然タルニ於テハ自己ノ力ヲ以テ秩序ヲ回復スヘシト云フニアリ嘗テ南滿張郭事件ノ際日本政府ノ非出兵論力急変シテ出兵ヲ見タル如ク露国ニ於テモ東支ニ関スル露国ノ権利カ侵害セラレタル儘ニシテ回復セラレサルニ於テハ自己ノ武力ニヨリテ必要トスルニ至ルヤ計リ難シサレト露国側ニハ決シテ積極的ニ武力ヲ用ユル考ナク総テ自衛的ナリ目的ハ平和的解決ニアリ要之張作霖ハ日本ノ支持ニ信頼シ居ルモノナレハ此際日本政府ニ於テ本問題ニ対スル日本ノ立場ヲ明ニ声明セラルルニ於テハ解決ヲ可能ナラシムヘキ「チャンス」一層多カルヘキヲ信スルモノナリ云々ト云ヒ

次テ出淵次官ヨリ日本政府ノ方針ハ之ヲ概言スレハ左ノ四点ニ帰着スト述ヘ

- 一、帝國政府ハ本件ニ関シ依然不干渉ノ態度ヲ持スヘシ
- 二、日本滿州ニ於テ重要ナル利害關係ヲ有スルニ鑑ミ露支両国間ニ速ニ本件ノ解決ヲ見ルニ至ラムコトヲ希望ス

三、支那ノ状態渾沌トシテ統一ヲ欠キ居ル際露国側ニ於テ本件ニ付高圧手段ヲ以テ臨ムコトアラハ事態益々悪

ニ交換セル日露支三國協調問題ニ関スル意見ニ関スル「シヤン・アドヴァンタイザ」紙記事ハ正確ナリ「右ニ関シ概要出淵次官ニ説明スル所アリ次官ハ之ヲ聞キ置クニ止メラレタリ

(高田領事手記)

(別紙添付)

Following telegram was dispatched by Mr. Chicherin, People's Commissary of Foreign Affairs of the USSR to Mr. Karakhan, Ambassador to China, to be handed over by the latter to Marshal Tuan Tsi-fui, Chief Executive of the Republic of China:

"On January 22d, Mr. Ivanoff, Superintendent of the Chinese Eastern Railway, was arrested in Harbin (by the military authorities) at 3 p.m. without any attempt from the side of local authorities to settle the question by way of negotiations with the Soviet Government. That unheard-of action of Harbin authorities took place after five days' long systematic violation of Soviet-Chinese

化スヘシ

四、帝國政府トシテハ不干渉主義ヲ持スヘキモ露国側カ兵ヲ進ムルカ如キコトアラハ我國論ヲ刺戟スルニ付本件カ日露親善關係ニ累ヲ及ホスコトナカラムコトヲ切望ス

右ニ対シ「コップ」大使ハ出淵次官ノ東支鉄道事件ニ関スル御意向ハ左記ノ三点ナリト了解シ可然ヤト云ヒ

- 一、本件ハ露支両国間ノ問題ナルコト
- 二、張作霖ニ対シ日本ハ援助シ居ラサルコト
- 三、露国ノ武力使用ヲ見スシテ急速本件ノ解決ヲ希望スルコト

次官ハ右ニ対シ付言シ度ク日本ハ本件ヲ対岸ノ火災視シ居ル次第ニアラス随テ本件ニ関スル情報ヲ集メ研究スルハ必要ナレト日本トシテハ成ルヘク速ニ解決セラレンコトヲ熱望スル次第ナレハ若シ貴大使ニ於テ何等カ具体的提議アラハ喜ンテ承ハルヘシト云ヘルニ大使ハ具体的解決案云々ニ関シテハ本國政府ニ請訓シテ後ノコトニ致度シトテ引取レ

尚前記会談ノ末段ニ於テ「コップ」大使ハ後藤子爵トノ間

Agreement on Chinese Eastern Railway, during which time the Administration of the Railway was deprived by the military authorities of its functions; the said authorities promoted the breaking of order on the Railway, organised the seizing of trains by military. We expect from the Chinese Government the taking of necessary measures toward the peaceful settling of the question, not evading an inquiry on the violations of the Agreement on Chinese Eastern Railway from one as well as from other side, we demand the full restoration of order on Chinese Eastern Railway to be achieved in three-days' time, the fulfilment of the Agreement and liberation of Mr. Ivanoff. In case the Chinese Government being for any reason unable to accrue the settlement of these questions in peaceful way in the term mentioned, the Soviet Government requests the Chinese Government to allow the USSR to secure through its own forces

the upholding of the Agreement, to defend the mutual interests of China and the USSR on Chinese Eastern Railway".

(欄外記入)

チチェリン発段執政宛抗議大正十五年一月二十五日午前十一時四十五分「コップ」大使ヨリ出淵次官ニ手交セルモノナリ

四〇六 一月二十六日

在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

イワノフノ管理局長復帰及ビ列車運行状況ニ

関シ報告ノ件

第三六号

「イワノフ」ハ二十五日午後三時ヨリ管理署長トシテ執務スル旨全線ニ通達セリ但シ二十五日ハ長哈間ノ列車運行セズ二十六日午後一時長春行キ臨時旅客列車発車セリ
露、支、奉天、浦潮、長春、齊齊哈爾、滿州里ニ転電セリ

四〇七 一月二十六日

在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

英国領事ノ対ソ意見ニツキ報告ノ件

第三七号

(一月二十七日接受)

国民軍ノ傀儡ニ過キス自分ハ三省代表者ノ推戴ニ依リ保境安民ニ努ムル旨ノ通電ヲ発スヘク山海関方面国民軍ニ対シテハ秦皇島ヲ境トシ鹿鐘麟指揮下ノ四個師団ニ対シ戦略的守勢ノ方針ニテ京奉沿線及熱河方面ニ七、八万ヲ備フルコトトシ又奉天軍ハ軍制改革及軍ノ改編ヲ行ヒ旅団制ヲ廢シテ十個師団ヲ編成シタリト云フ尚ホ東支問題往電第四三号ノ如ク解決ヲ見タルモ支那側トシテハ露国側若シ協約ヲ実行セサレハ再度積極的手段ニ出ツヘク右ハ東支沿線白党露人ノ奉天側援助ヲ申出ツルモノ意外ニ多カリシニ依ルモノト云フ

北京、天津、濟南、漢口、南京、上海へ転電シ哈爾賓、吉林、長春、安東、牛莊へ暗送セリ

四〇九 一月二十六日

在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中国側ノ反ソ態度ニ鑑ミ調停等今暫ク見合せ

タキ旨意見具申ノ件

第五三号(極秘)

(一月二十七日接受)

「イワノフ」ノ釈放ニ依リ勞農及滿州官憲間ノ關係一応緩和シタリト雖モ問題ハ全部解決シタルニ非ス尚多大ノ危機

一三 東支鉄道問題 四〇九

東支問題ニ関シ大体ニ於テ「イワノフ」ニ反対シ張煥相ニ同情セル英国領事二十五日来訪要談ノ後若シ露国カ出兵スル事アラハ其支那ニ於テ煽動スル排外運動ニ対抗スルニ絶好ノ機会ヲ与フルモノナルカ故ニ其場合ハ張煥相ヲシテ露国ノ兵力干涉反対ノ声明ヲ為サシムルモ妙案ナルヘク試ニ其声明文案ヲ準備シタル好意等ハ其必要ナキニ至レリ只露国カ今回ノ如キ小事件ヲ捉ヘテ最後ノ通牒ヲ発シ兵力ヲ以テ威嚇シタル帝國主義的行動ハ尚有力ナル反対宣伝材料タルヘシト述ヘタリ同領事ノ私見ナルヘキモ英国側ノ意向ヲ知ルノ御参考迄

在露大使、在支公使、奉天へ転電セリ

四〇八 一月二十六日

在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東支鉄道問題解決ニ伴ウ奉天側ノ国民軍対策

ニツキ報告ノ件

第四四号

東支鉄道問題解決シタルニ付奉天側ハ昨二十五日最高幹部會議ヲ開キ最近山海関方面ニ於テ攻勢ニ出テントスル国民軍ニ対スル方針ヲ決定スルト共ニ張作霖ハ近ク露国政府ハ

ヲ包蔵セルヲ以テ今後ノ形勢十分注意ヲ要スル次第ナルモ本件ハ其後本使ニ於テモ篤ト考慮シタルカ元來勞農側カ當國ニ於テ反帝國主義ヲ煽動シ又ハ世間ヨリ日貨排斥運動ヲ使喚シタリトノ疑惑ヲ受クルノ形跡アリタル等ニ顧ミ今回ノ事件ニ際シ勞農側ノ取りタル態度ニ対シ支那側ニ於テ一部反抗ノ氣勢ヲ示シタルハ第三者ヨリ見レハ一種ノ皮肉ニテ滿州出兵ニ関連シテ起リタル排日運動カ幾分ニテモ氣勢ヲ挫カレタル状アルハ面白キ結果ト云フヘク「カラハン」カ本使ニ対シ出兵ヲ仄カシタルモ露国ノ国情及当国目下ノ状況ニ顧ミ勞農政府カ出兵ヲ敢行スルカ如キハ容易ノ業ニ非サルヘク旁々我方トシテハ可成本件ヲ以テ支那ノ national question トスル方向ニ向ハシムルコト得策ニシテ即チ日本トシテハ露支両方面ノ宣伝又ハ画策ニ利用セラレサル様務メ本件ニ関シ日本ハ最も重要緊密ナル利害關係ヲ有スルモ本件事態ハ飽ク迄露支両国間ノ問題ナルコトヲ説キ進ンテ調停等ノ手段ニ出テス今暫ク事態ノ發展ヲ冷静ニ注視スルコト得策ト思考ス

奉天、哈爾賓へ転電セリ

四一〇 一月二十七日 在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北滿ニ於ケル日ソ兩國ノ地位ニツキ兩國当局
者間ニ隔意ナキ談合ヲ必要トスル旨意見具申
ノ件

第三八号

(一月二十八日接受)

東支問題ニ関シ露國側ニ於テ我先官憲ノ行動ニ誤解アル
次第ハ在支公使発閣下宛電報第四五号及今回世評等ノ田中
大使発閣下宛電報ニテ承知シタルカ本官及領事団ノ処置ニ
就テハ累次拙電ノ如シ今回ノ軍隊輸送問題ハ露支兩國間ノ
問題ナルモ如何ナル場合ニ於テモ東支鉄道カ露支兩國間ノ
問題ナリトナス露國(恐ラクハ支那モ同様)ノ主張ニハ同
意スル能ハス殊ニ交通杜絶ノ如キ外國人一般ノ利害關係ニ
重大ナル影響ヲ及ホス問題ニ対シテ発動スルハ領事団当然
ノ任務ナリ此点ハ露國側ニモ充分注意ヲ加ヘラレタシ(往
電第三四号在露大使及在支公使ニ参考トシテ転電セリ)又
從來東支及勞農官憲ノ大藏理事及「^(高橋)タカハシ」中佐ニ対ス
ル關係將又張煥相カ其出身及立場上ヨリ日本側ニ知人多キ
事實ヨリ勞農側ニ於テ兩人ノ行動ニ何等ノ邪推ヲサシハサ

ムハ無理ナキ次第ナルモ大藏理事ハ本件發生当初滿鉄ヨリ
ノ電訓モアリ又「タカハシ」中佐ハ久シク病臥中ニテ絶對
ニ今回ノ事件ニ干与セス今回ノ問題ハ当局ヲ中心トスル露
支抗争ノ一端ヲ暴露スルモノニシテ現在ノ状態ニ於テハ斯
ノ如キ衝突ハ絶エス繰返ヘサルヘク此間ニ処スル日本ノ態
度ニ就テハ慎重考慮ヲ要スヘキニ付客年八月二日付機密第
一三〇号ヲ以テ事情ヲ具シテ請訓シタリ

日露ノ国交回復スルモ兩國国民ノ肝心ノ親善關係ヲ見ルニ至
ラサルハ幾多ノ原因ニ依ルモ北滿ニ於ケル日露ノ關係カ又
其一因ナルヤニ見受ケラルル処北滿ニ於テ日露間ニ蟠ル一
切誤解ノ根源ハ日露兩國カ北滿ニ於テ当然相互ニ認メラレ
タリト思惟スル各自ノ地位ニ対スル觀念ニ付相違アル点ニ
アルヘク例ヘハ「チチェリン」ノ田中大使ニ対スル談話中
ニハ露國カ南滿ニ於ケル日本ノ地位ヲ尊重スルハ均シク日
本カ北滿ニ於ケル露國ノ地位ヲ尊重スヘキヲ期待ストアル
カ北滿ニ於ケル露國ノ地位トハ如何ナルモノナリヤ
「チチェリン」ハ北滿ニ於ケル露國ノ地位ハ南滿ニ於ケル
日本ノ地位ト全然同様ノモノト解釈スルモノナリヤ或ハ又
露國ハ今尚日露戰爭後ノ密約ニヨリ勢力範圍ヲ信スルモノ

ナリヤ今後日露關係ヲ考慮スルニ當ツテ先ツ第一ニ露國カ
果シテ北滿ニ於テ如何ナル地位ノ承認ヲ求メントスルヤニ
付日露當局間ニ充分ナル了解ヲ必要トスヘシ露國ハ支那ニ
於テ總テノ利權ヲ放棄スルコトヲ声明セシモ尚東支鉄道ヲ
保有ス而モ東支鉄道ハ露支及奉露協定ニ依リ単ニ商業的機
関タルコトヲ期待セラレタルモ事實露國ハ東支ニ於テ單純
ナル商業機關タルニ満足セス茲ニ於テ極東發展ノ中枢ト為
シ政治上及軍事上ノ目的ニ利用セントスルモノノ如ク既ニ
之ヲ赤化シ之ヲ有力ナル共產党ノ宣傳機關ト為シ北滿ニ於
ケル勞農勢力伸展ノ中心機關ト為シタリ(客年七月十七日
付機密第一一一号拙信其他)露國カ東支ヲ以テ商業以外ノ
企画ニ利用セントスレハコソ洩齊其他諸鐵道ニ対スル猛烈
ナル反對トナリ東支ノ不自然ナル東行運賃政策トナルナリ
從テ第二ニ日露兩國間ニ諒解ヲ必要トスルハ露國カ果シテ
東支ヲ以テ純然タル商業機關トスル露支及奉露協定ヲ忠実
ニ遵守セントスルモノナルヤ否ヤノ点ニ在リ次テ日露兩國
カ現実ニ北滿ニ於テ衝突スルハ鐵道問題ニ在リ東支ト滿鉄
ノ競争ニ在リ大連ト浦潮トノ競争ニ在リ東支ト滿鉄トノ運
賃ノ競争ニ在リ(東支鐵道ハ「イワノフ」管理局長トナリ

テ以來漸次運賃ヲ改正シテ益々露骨ナル東行政策ヲ行ヒ最
近ニハ東支沿線ノ本邦商人ニ対シテ大連行キ貨物ノ場合ニ
ハ貨車ノ配給ヲ為ササルカ如キ事實アリ)東支ト滿鉄トノ
運賃競争緩和セラレンハ兩者ノ競争緩和セラレン兩者競
争絶エサル間ハ北滿ニ於テ日露關係ハ又釈然タル能ハス從
テ此際東支ト滿鉄トノ間ニ公平ナル運賃ノ根本的協定ヲ必
要トスヘシ惟フニ露國ノ真意ハ北滿ニ於ケル旧露勢力ノ挽
回ヲ計ラントスルニアルモノノ如ク先ツ之カ計画ノ序幕ト
シテ東支乗取リニ成功シ次テ東支ヲ中心トシテ勢力ノ拡張
ニ力メントスルモノノ如シ然レトモ露國如何ニ焦慮スルモ
時代ノ變遷ハ容易ニ其勢力ノ挽回ヲ許ササルモノアリ而シ
テ之カ障礙ヲ為スモノハ澎湃タル支那沿線利權ノ回收熱ノ
勃興ニ在リ第二ハ北滿ニ於ケル日本勢力ノ進展ニ在リ第三
ハ平和ヲ標榜シ之ヲ武器トシテ支那ニ於テ反帝國主義運動
ヲ煽動スル露國自身ノ声明ニ在リ之ヲ以テ露國ハ焦慮スレ
ハスル程益々支那ト衝突シ日本ノ政策ニ邪推ヲ抱クニ至ル
從テ今回ノ事件ヲ機會トシテ日露當局者ノ間ニ如上ノ根
本問題ニ付隔意無キ談合ヲ必要トスルヤニ思考ス
北京、莫斯科、奉天ヘ転電セリ

四一一 一月二十八日 在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東支鉄道事件解決ニ関スルチチェリントノ会

談内容報告ノ件

第四四号

(一月二十九日接受)

二十七日「チチェリン」ニ面会東支事件ノ解決ヲ喜フ旨ヲ述ヘタルニ「チ」ハ奉天ニ於ケル協定ノ内容詳報未着ニ付安心スルヲ得サルモ事態ハ大ニ緩和セリ只職業組合ニ対スル圧迫問題ハ尚解決ヲ要スル重要事項ナリ又護路軍ノ輸送ト雖無賃ナルヘキ理ナシト云ヘリ依テ本使ハ本件ノ近因ハ十二月「イワノフ」カ奉天軍ノ輸送ヲ拒ミタルニアルモ今後ハ斯ル事ナカルヘシト述ヘタルニ「チ」ハ其當時「イワノフ」ハ奉天側ニ対シ賃金支払ニ対スル保障ヲ求メタルモ之ニ応セザリシ爲輸送ヲ拒絶シタルモ今回ノ協定ニ依リ其保障ヲ得タル訳ナリト弁解セリ次テ日本政府ノ態度ニ付テハ只今「コップ」ヨリ電報到着解説ニ不明ノ箇所アルモ大体判明シ大ニ満足セリ只平和的解決ヲ望ムト言ハルルハ友情的ナリヤ又ハ武力使用ノ場合ニ対スル威嚇ナリヤ不明ナリト一流ノ邪推ヲ述ヘタルニ依リ日本ノ態度ノ誠意ヲ諒解

極革機関紙及ビ職業同盟ノ反日態度ハ日ソ親

交上有害ニツキ当局ノ注意喚起方訓令ノ件

第五号

貴電第一七号及第一八号ニ関シ

沿海機関紙ハ二十五日ノ号外ニ於テ民意ニ鑑ミ對露政策ヲ樹立シアル日本政府カ本問題ニ関シ表示シタル日露親交ノ益々鞏固ナル事実上ノ新証左ヲ見ルノ要アリ云々(渡辺翁本大臣宛第三五号)ト論シ居ルニ貴地極革機関紙及職業同盟カ露骨ニ反日態度ヲ採リ居ルハ不可解ナルカ東支問題ニ対スル帝國政府ノ公正ニ拘ハラスル態度ヲ採ルハ日露親交上甚タ有害ナルニ付貴地当局ノ注意ヲ喚起セララル様致度シ
田中大使ニ転電アリタシ

四一三 一月二十九日 在ハバロフスク川角総領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

極革機関紙等ノ反日態度ニツキ既ニ警告済ミ

ナル旨報告ノ件

第二〇号

貴電第五号ニ関シ

一三 東支鉄道問題 四一三 四一四 四一五

スル以上言葉ヲ曲解スルニ及ハサルヘシト云ヒタルニ今回ハ日本出先官憲ノ言動ニ依リ疑念ヲ生シタルモ日本政府ノ態度ハ好ク諒解セリト云ヒ只日本ノ新聞紙上南滿ノ利益ヲ害スレハ黙視スルヲ得スト云フハ諒解ニ苦シム露國ハ條約上北滿ニ有スル地位ヲ維持セントスルノミ南滿ニ於ケル日本ノ地位ヲ侵害スル考ヘナシト云ヘリ依リテ右新聞論調ハ承知セサルモ元來露國ノ馮玉祥乃至國民軍援助ニ付日本ニ於テ憂懼渺ナカラス露國カ北滿ニ於テ武力使用ノ結果滿州ニ反日ノ政治ヲ見サルヤハ國民ノ懸念スル処ニシテ右論評モ之ヲ連想スルモノナルヘシト述ヘタルニ夫々諒解セリ露國ハ何等日本ノ地位ヲ脅スノ意ナシト云ヘリ余談トシテ天羽總領事カ公然支那側ノ行動ヲ支持シ露國側ヲ攻撃セルヲ遺憾トスル旨再ヒ繰返シ本使ヨリ弁護シ置キタルカ其際英米領事ハ公正ノ態度ヲ持シ暗ニ露國ニ同情セリト云ヒ又往電第三四号天羽ニ関スル報告ヲ送ル事ハ余リニ「デリケート」ナル為差控ヘタリト云ヘリ
哈爾濱ニ転電シ北京ニ転電セシム

四一二 一月二十八日 在ハバロフスク川角総領事代理宛
(電報)

本官ハ日露親交上甚タ有害ナリト認メ其ノ当時既ニ極革委員会幹部ノ注意ヲ喚起シ相当ノ警告ヲ与ヘ置キタル次第ナルニ付右御承知アリタシ
貴電第五号ト共ニ浦潮ヘ暗送セリ
莫斯科ヘ転電セリ

四一四 一月二十九日 在ハルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

長春・ハルビン間ノ列車運行開始ト戒嚴司令
部ノ職業組合幹部放免等ニ関シ報告ノ件

第四三号 (一月三十日接受)

二十八日旅客列車哈爾濱長春相互ヨリ各二列車宛臨時ニ發車セリ貨物車ハ哈爾濱及途中ニ於テ特ニ各一列車ツツ寛城子ニ着セル由同日戒嚴司令部ハ奉天ノ命ニ依リ曩ニ閉鎖シタル職業組合本部ノ封印ヲ除去シ拘禁セル幹部ヲ放免シタル本二十九日ヨリ交通全部復活セリ
長春、齊齊哈爾、滿州里、在露大使、在支公使、奉天、浦潮ヘ転電セリ

四一五 一月三十日 在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張煥相ノ罷免ヲ要求セルカラハンヨリ張作霖

宛電報告ノ件

第五二号(極秘扱)

(一月三十一日接受)

東支鉄道問題ニ関シ

張作霖ハ表面張煥相カ越権ノ処置ヲ執リ今回ノ事件ヲ惹起セリト弁明シ居ル為露国側ハ張煥相ノ処分ヲ要求シ居ルモノト察セララルル処二十八日北京「カラハン」發張作霖宛電報ニ依レハ張煥相ハ貴督弁ノ平和政策ニ反対シ今次衝突ノ拡大ヲ欲シタルハ二十四日ノ状況ニ依リ明ナリ本国政府ハ此状態ニ鑑ミ今次ノ張「ソ」協定ハ既ニ破壊セラレタルモノト認メ且新衝突ノ發生ヲ見ントス故ニ本大使ハ貴督弁カ此ノ種衝突ノ再起ヲ防止セント欲セハ須ラク張煥相ヲ即刻罷免更迭シ戒嚴令ヲ撤廢シ勞農国籍人民ヲ逮捕殴打処分スルコトヲ即時禁止シ封鎖ノ団体ヲ解放セラレタシ云々トアリ

追テ右電報ハ当地經由ノモノヲ局長ヨリ秘密入手シタルモノニ付極秘ニ付セラレタシ
公使、哈爾賓、吉林、長春へ転電シ満州里、齊齊哈爾へ暗送セリ

支鉄道紛争ニ関シ張カ河野ニ語リタル処大略左ノ如シ

(イ)張煥相ハ東省特別区行政長官代理、濱江鎮守使及護路總司令トシテ働キ居レルカ行政長官トシテ于沖漢ハ最も適任ナルモ唯同人ハ脚疾ニテ其職ニ堪ヘサル為メ張煥相ヲシテ兼任セシメ居レルモ疾患全快セハ復職セシムル考ヘナリ

右ハ張煥相ニ対スル圧迫ニ非ラス張ハ長官ヲ罷メルモ鎮守使及護路總司令タルハ依然旧ノ如シ外間ニ於テ鄭謙カ同行政長官ニ任命セララルル筈ノ話ハ全然新聞記者ノ捏造ナレハ之ヲ耳ニ入ルルノ必要ナカルヘシ云々

(ニ)同日河野カ于沖漢ヲ往訪シタル際于ノ談ニ曰ク

(イ)自分ハ脚疾全癒スルモ断シテ復職ノ希望ナシ
(ロ)「イワノフ」ハ局長トシテ働キ居レルカ今次ノ紛争ニ関シ免職セララルル等ノ事ハ多分無カルヘシ

(ハ)東清鉄道ノ事務ハ「イワノフ」ハ表面局長トシテ執務シ居レルモ實際ハ同局長ノ課長タル「ヤンツンスキ」カ露国政府ノ正式任命ヲ受ケタル工人連合會長ナル故ニ東支鉄道事務ニ関シ毎日午前八時ヨリ午後四時迄ハ鐵路局ニ於テ単ニ一課長(同鐵路局ニハ局長ノ外

四一六 一月三十日 在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛

張煥相ノ進退ニツイテノ張作霖ノ談話並ビニ

東支鉄道事務ノ内幕ニ関スル于沖漢ノ談話報

告ノ件

付屬書 東支鉄道ニ関スル張作霖及ビ于沖漢ノ談話要領

機密公第六五号

(二月三日接受)

大正十五年一月三十日

在奉天

総領事 吉田 茂(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東支鉄道問題ニ関スル張作霖及于沖漢ノ談話

報告ノ件

本件ニ関シ張及于ノ河野副領事ニナシタル左記談話要領何等御参考迄ニ報告申進ス

本信写送付先 哈爾賓、吉林、長春、満州里、在支公使、齊齊哈爾

(付屬書)

(一)二十九日新任挨拶ノ為メ河野副領事張作霖ヲ訪問ノ際東

幹事露人四名及課長十六名アリ)トシテ働キ居ルモ夜分ニ入レハ「ヤンツンススキー」ハ工人連合會長トシテ活動シ居レリ局長「イワノフ」ハ「ヤンツンススキー」ノ部下トシテ働キ居レリ故ニ苟シクモ工人会ノ事務ニ属スル事ナレハ仮令總領事ト雖同會員タル以上「ヤンツンスキー」ノ命ヲ受ケサルヘカラス即チ「イワノフ」ハ僅ニ表面ノ局長トシテ其名ヲ保チ居レルモ同鐵道ノ實権ハ「ヤンツンススキー」ニアルハ頗ル遺憾ナリ故ニ仮令「イワノフ」カ免職セララルル事アリト雖モ露国側ノ態度方針ニハ寸毫モ変化ナカルヘク以テ結局「ホルワット」時代ニ於ケルカ如ク露国ニ於テ同鐵路局ニ關係アル直接間接ノ事業ヲ露国側ニ収ムルニ至ラサル限り今回ノ如キ紛争ハ絶ユル事ナカルヘシ換言セハ今回ノ紛争ハ尠クトモ露国ニ於テ單純ナル支那軍隊輸送及支那兵乗車ノ運轉ノ如キ区々タル問題ニ起因セラルモノニ非ラサルヘシ

(ニ)露国側ハ今次最初ニ支那ニ軍隊ヲ入ルル計画ニテ二列車ニ滿載セラレタル露国兵ハ既ニ「ボグラニチナヤ」ヲ距タル事遠カラサル双城河ニ来リタルモ露国側カ急

據其予定ノ計画ヲ變更シタルハ之実ニ日本ヲ恐レタル結果ニシテ支那ヲ恐レテ和平解決ヲ希望シタルニ非ラサル事ハ歴然タリ故ニ支那側カ成功セリ等トハ皮相ノ觀ニ過キス要スルニ今次東支鐵道ノ罷業怠業ノ如キハ今後數回繰返ヘサルル事ヲ忘ルヘカラス支那側ニ於テ東支鐵道局長ヲ幾人逮捕監禁ストモ露國側ノ惡思想ノ停止セサル限り其止マル処ヲ知ラサルヘシ云々

四一七 二月一日 出淵外務次官 仏國代理大使 會談要領

東支鐵道問題及ビ日ソ協定說ニ関シ仏國代理 大使來話ノ件

大正十五年二月一日仏國代理大使出淵次官來訪北京ヨリ轉報ニ接シタル本國政府ノ電報ニ依レハ去月二十二日在モスコウ仏國大使カチチエリンニ面會シ東支鐵道問題ニ付意向ヲ探リタル際ニチチエリンハ本問題ニ付キテハ北京政府及日本政府ノ諒解ヲ得テ地方問題トシテ解決ヲ図リタキ意向ニテ万止ムヲ得サルニアラサレハ高压手段ニ出ツルカ如キ意思無ク又本問題ニヨリ張作霖トノ關係ヲ絶ツカ如キ考モナシ尚又滿州ヲソヴィエトノ勢力下ニ置カントスルカ如キ

意向ナキ旨ヲ言明シタル趣ナリト内話シ此機会ヲ以テ同代理大使限リノ心付迄ニ伺ヒタキコトアリト前置シタル後コップ大使ハ最近日本政府ニ對シ滿州問題ニ関シ何等カ協定ヲ遂ケンカ為交渉ヲ進メツツアリトノ噂ヲ耳ニシタルトコロ右ハ根拠アル次第ナルヘキヤト質ネタルニ付次官ヨリ右ノ噂ハ察スル処最近コップ大使カ Japan Advertiser ニ与ヘタル Interview ニ胚胎スヘク現ニ今朝モ支那公使ヨリ同様ノ問合ニ接シタルカ日本政府ニ於テハ露西亜大使トノ間ニ御話ノ如キ交渉ヲナシ居ル事実絶對ニ無之且將來ニ於テモ露國トノ間ニ滿州問題ニ関シ協定ヲナスカ如キコト万之レ無カルヘント答ヘ置タリ

編註 一一一 文書付記五參照

四一八 二月五日

在ハバロフスク川角總領事代理ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

極革機關紙ノ反日論說ニ對シ抗議セル件

第三三〇号 (二月六日接受)

往電第二〇号ニ関シ

貴電第五号ノ次第ハ即日極革委員會「コピーチン」ニ申入レ置キタリ更ニ一日「ガマルニク」ニ會見貴電ノ趣旨ヲ敷

機密第四九号

(二月十六日接受)

大正十五年二月八日

在浦潮斯德

總領事 渡辺 理恵(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東支鐵道事件ニ関スル件

今次ノ東支事件ニ對スル勞農側ノ態度等ニ関シテハ諸情報ニヨリ既ニ御知悉ノ事ト存スル処小生ノ所觀ニヨレハ露側ハ曩ノ張郭戰ノ結果カ予期ニ反シ却テ張ノ地位固定トナリ予テ同情支援シ来レル國民派ノ不利トナリタルヲ憤恨スルハ勿論差向キ東支鐵道ヲ中心トスル在北滿勞農勢力ニ對スル脅威トナリタルヲ以テ之カ対策旁々「イワノフ」ハ支那兵ノ暴行ヲ口実ニ南部線ノ汽車運行ヲ中止シ日張關係ヲ小手ニ条約ヲ楯ニ煽動宣傳戰ニヨリ飽ク迄排張ヲ期シアワ好クハ合法的ニ東支ニ出兵スルノ決意ヲ示シ其ノ北滿地盤ノ維持擴張ヲ期セントシタルモノノ如シ今ヤ本件ハ支那側ノ讓歩ニヨリ一段落ヲ告ケタルカ如キモ今後官憲ノ増長程度乃至張側ノ態度如何ニ依リテハ依然露支間ノ紛議ハ勿論時ニ帝國ヲ引合ニ相当紛争ヲ見ルノ虞アリト考ヘラル而シテ

衍注意ヲ喚起シタル処苦笑ノ態ニテ自分ハ日露親善ヲ希望シ本年ハ渡日シ貴國ノ文化ニモ接スル積リニシテ兩國經濟

の接近ハ勿論國交上ニモ相当ノ注意ヲ払ヘリ極革紙ハ単ニ公報發表機關ナリ右ハ主トシテ共產黨ノ機關ニシテ論說記事内容ハ全然同社ノ主管スル処ナリ職業同盟其他ニ於テ「クビヤク」ハ黨員トシテ行動ス自分ハ之ヲ如何トモスル能ハサル困難ノ立場ニ在リト当方予想通り答ヘタリ本官ハ極革議長並ニ黨員トシテ本問題ニ関シ充分ノ配慮ヲ煩ハシ度旨申述ヘ警告セリ又援張排郭ニ関スル極革紙ノ論調其他抽象的宣伝ニ對シテハ閣下ノ外交演說ヲ引用シ在奉天總領事發在哈爾賓總領事宛機密領第一号報告ヲ利用シ帝國政府ノ公正ナル態度ヲ説明セリ

尚北京發「タス」哈爾賓發特電カ事實相異シ國交上有害ノモノ多キハ本官ノ甚タ遺憾トスル処ナリト付言セリ 在露大使ヘ轉電シ浦潮奉天哈爾賓滿州里ヘ暗送セリ

四一九 二月八日

在浦潮渡辺總領事ヨリ 幣原外務大臣宛

東支鐵道事件ニ對スルソ連邦側ノ態度ニツキ 所見報告ノ件

露側カ本件解決ニ対シ最初ヨリ武力抗争ニ依ラス平和宣言
 戰ニヨリ必勝ヲ期シタルハ明カニシテ假令幾分ノ軍隊ヲ国
 境付近ニ繰出シタル事実(当地官憲ハ表面平靜ヲ装ヒ居タ
 ルモ「グロデコウオ」方面ニ装甲列車二三台ト各兵種數隊
 ヲ派シ現ニ当地一番川^(線)ヨリモ兵員糧食等約三十貨車ヲ輸送
 セリ当地支那領事側ノ談ニ依レハ露國ハ國境一帶ニ約一万
 ヲ出兵セリ)アルモ容易ニ支那領ニ進出シ得サルハ閣下宛
 天羽總領事往電第二九号中段ノ通りニテ之依例示威運動ニ
 過キス彼ノ「カラハン」「ノート」モ亦一ノ外交的「ゼエ
 スチュアー」ニ外ナラスト被思蓋シ勞農ハ若シ支那カ応セ
 サル場合ハ主義上不利ナル出兵ヲナスヨリモ他ニ辛辣有効
 ナル常套の報復手段乃至煽動宣伝ニヨリ目的ヲ達スルヲ確
 信シタルモノニテ之ハ實際露側カ支那ニ於ケル反張派ノ運
 動ヲ同情助長シアルト在露支那人ヲ煽動セル事実(往電第
 三八号当地労働者示威運動乃至当地ニ於テモ「ハバロフス
 ク」同様支那僑務總會幹部等有力者ヲ逮捕シ「イワノフ」
 解放ト共ニ放免シ且一時ハ支那商店ヲ一切閉鎖スル噂ヲ流
 布シタリ)ニヨリ明カナリ而シテ本件ニ関シ露側カ如何ニ
 日本ノ態度ニ懸念シタルヤハ当初從來ノ行掛上対日少クモ

對滿鉄悪声ヲ放チ居タルモ我当路ノ議會演說乃至外務當局
 ノ声明伝ヘラルルヤ自ラ慰メ爾來帝國ノ態度ヲ多トシ我國
 反勞農の輿論ト英國ノ同論ヲ憾ミ可成帝國政府ノ態度嚴正
 ナランコトヲ望ム様ニ変シ頻リニ日露親善乃至日露支提携
 ノ持論ヲ高調スルニ至リタルニ依リ察スルヲ得
 今ヤ本問題ハ一時解決小康ヲ得タル如キ觀アルモ今後東支
 沿線ニ勞農勢力ノ充實スルニ從ヒ利權回收ト赤化防止熱ニ
 驅ラルヘキ支那地方官憲ノ行動如何ニ依リテハ相当難問惹
 起ヲ見ル事アルヘク斯ル場合ニ對シテハ特ニ我カ在滿文武
 官憲乃至鐵道當局ハ露支兩國ノ大勢ト帝國ノ最高利益ヲ達
 觀シ最モ慎重ノ態度ヲ要スルモノト被存
 右報告申進
 写送付先 モスコ、北京、哈爾濱、奉天、滿州里、哈府

四二〇 二月二十五日(着)

在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

将来東支鐵道ニ問題發生ノ場合ノ対処方針等

ニツキ回訓方稟請ノ件

第八一號

東支鐵道問題ハ将来モ紛争ヲ惹起スルコトアルヘキニ鑑ミ

当國政府當局トノ対上同鐵道問題ニ對スル帝國政府ノ意
 向ヲ予メ承知シ置キ度キ処元來帝國政府カ露支協定成立ニ
 際シ同條約ヲ否認セス只タ我方權利利益ニ關スル留保ヲ為
 スニ止メタルハ既ニ同協定ノ存在ヲ前提トシタルモノナル
 ヘク而シテ同協定ノ存在ヲ認ムル以上華府會議決議ハ東支
 鐵道ノ新事態ト合致セス其ノ意味ノ大半ヲ失ヒタル次第ニ
 付我方ノ関スル限リ爾後成ルヘク右決議ヲ前提トシタル行
 動ヲ差控ヘ以テ露支兩國ヨリ無用ノ反感ヲ誘致スルヲ避ク
 ルコト然ルヘク從テ哈爾濱ニ於テ華府會議參加國ノ領事カ
 一団トシテ行動スルハ其ノ価値薄弱ナルノミナラス日本ノ
 特殊ノ利害ヨリ見ルモ必スシモ得策ナラスト思考セラルル
 ニ依リ今後同鐵道ニ關シ發生スル問題ハ大体露支兩國ノ外
 交機關ヲ通シテ処理スルノ方針ヲ採リ地方のニ處理スル場
 合ト雖モ其ノ目的ニ付キ其ノ都度兩國政府ヲシテ諒解セシ
 メ置クコト必要ナリト信ス右ニ關シ本使心得方御回訓アリ
 タシ又前頭我方ノ留保シタル既得ノ權利利益ノ意味ハ大体
 想像スルモ當國政府側ヨリ言及アリタル場合具體的ニ如何
 ナルコトヲ意味スルモノトシテ応答シ然ルヘキヤ併セテ御
 回示アリタシ

四二一 二月二十六日

幣原外務大臣ヨリ
在ソ連邦田中大使宛(電報)

将来ノ東支鐵道問題ノ處理方針等ニツキ回訓

ノ件

付記 二月亞細亞局第一課調

東支鐵道ニ關スル政治的的法律的考察

第四八號

貴電第八一號ニ關シ

当方ニ於テモ貴見ノ透露支協定ノ存在ヲ認ムルト共ニ華府
 會議決議ヲ直接ノ前提トシテ行動スルコトハ差控ヘ度意向
 ナリ尤モ帝國ニ取り特ニ利害關係アル重要事項ニ付テハ単
 獨露支兩國ノ外交機關ヲ通シテ適宜處理スヘキハ勿論ナル
 モ過般發生シタル東支鐵道ノ運行停止ノ如キ地方の事件ニ
 シテ在留諸國民ニ共通ノ利害關係アル事項ハ華府會議ノ決
 議ヲ離レテ哈爾濱領事團ノ問題トシ可成列國ト協調シテ処
 理セシメ度考ヘナルニ付右様御承知アリ度
 貴電末段ノ東支鐵道ニ關シ我方ノ有スル權利及利益ノ主ナ
 ル実例トシテハ同鐵道及西伯利鐵道ニ對スル列國共同管理
 ノ際我方ヨリ支出シタル金額約千万円及「ポーツマス」条

約ニ基ク同鐵道ト滿鉄トノ接続關係ノ外東支鐵道南線一部讓受ニ関スル大正六年十一月日露間交換公文等ヲ挙ケ得ヘキモ右東支南線讓受問題ノ処理方ニ付テハ今日ノ場合明確ニ方針ヲ立テ難キノミナラス此際本問題ヲ先方ニ提示スルコトモ面白カラサルニヨリ先方ヨリ質問アル場合ニハ右趣旨ヲ体シ可然応答セラレタシ

(付記)

東支鐵道問題ニ関スル件

(二月亜細亞局第一課調)

一、露支協定並華府決議ニ関スル法律の考察

(イ)露支協定ト日本ノ權利利益

日本ハ米白等ト立場ヲ異ニシ既ニ「ソヴィエツト」政府ヲ承認シ居ルヲ以テ露支協定ヲ以テ國際約定ニ非ストシ正面ヨリ之ヲ否認シ得ヘキニアラス從テ露支協定ノ結果東支鐵道カ露支共有ノ純然タル商業の機關トナリ東支鐵道付屬地ノ行政權モ支那側ニ回收セラレタル事實ハ之ヲ認メサルヘカラス然レトモ他方露支二國間ノミノ合意ヲ以テ第三國既得ノ權利利益ヲ自由ニ變更若クハ処分シ得サルハ勿論ナルノミナラス露支協定成立ノ際ニ於ケル我カ方權利利益ニ関スル留保ノ次第モ

キハ今日ト雖決議參加國間ニ拘束力アリト見ルヲ妥當トスヘシ

二、東支鐵道問題ニ関スル交渉ノ方法ニ関スル政治的考察
今後東支鐵道ニ関スル問題發生ノ場合日本其他外國側ニ於テ露支兩國ノ外交機關ヲ通シテ之カ交渉ヲ行フヘキヤ將又出先官憲ニ於テ地方的ニ之カ解決ヲ計ルヘキヤノ問題ハ兩者間各一長一短アリ一概ニ之ヲ予断スヘキニアラス即各場合ニ於テ左ノ諸点ヲ考慮ノ上之ヲ決定スヘキナリ
(1)東支鐵道ニ関スル問題ヲ露支兩國ノ外交機關ヲ通シテ行フハ純理上頗ル当然ナルト共ニ問題ノ性質出先官憲ノ手ニ余ルカ如キ場合ニハ極メテ有効ナルヘキモ反對ニ事件ノ性質大ナラスシテ却ツテ地方的問題トシテ解決スルヲ利トスル場合問題ヲ拡大スルノ懼アリ

(2)滿州ニ於テ日露兩國間ニ旧帝政時代ノ勢力範圍ヲ復活セムトスルハ舊ニ華府九國條約ニ反スルノミナラス政策上ヨリ見ルモ今日ノ如ク滿州ニ於ケル日露ノ分野明ナラサル方却テ我ニ有利ナリト認メラルル次第ナル処東支鐵道問題ニ関シ常ニ露支兩國殊ニ露國ノ外交機關

アリ我カ方トシテハ露支協定ニ基ク事態ノ變更ハ我カ方既得ノ權利利益ヲ害セサル範圍内ニ於テ之ヲ承認セルモノナリト解スヘキナリ

(ロ)露支協定ト華府決議トノ關係

東支鐵道ニ関スル華府決議ハ決議第十一即東支鐵道保全ニ関スルモノト同第十二即東支鐵道ニ関スル列國ノ權利利益ノ留保ニ関スルモノトアル処後者即決議第十二ハ支那以外ノ列國代表者ノ決議ニシテ支那ニ對シ之ヲ援用スルヲ得ス又華府會議ニ參列セザリシ露國ニ對シテハ右ニ決議トモ之ヲ援用シ得サルコト勿論ニシテ露支協定成立ノ前後ヲ問ハサル次第ナルカ唯タ右決議ハ當時同鐵道カ法律上ハ依然露國ノ鐵道ナルモ事實上ハ支那ノ權力下ニアリシ變則的ノ事態ヲ前提トシタリシモノナルニ顧ミ露支協定成立後ノ今日ニ於テハ例ヘハ決議第十二ノ東支鐵道ヲ以テ支那ノ信託下ニ在リトスル解釈ハ自然之ヲ維持シ得サルコトト為リタルモ同決議ノ精神即支那ヲ含ム列國カ東支鐵道保全ノ主義ヲ認メタルコト並ニ支那以外ノ列國カ東支鐵道ニ関スル權利利益ニ付將來主張スルコトアルヘシトノ留保ノ如

ク通シテ交渉ヲ行フコトトセンカ動モスレハ北滿ノ事ハ先ツ露國ノ中央政府ト相談スルコトトスル貌トナリ北滿ヲ以テ露國ノ勢力範圍トスル如キ既成事實ヲ作ル懼アリ

(3)尚東支鐵道問題ニ関スル交渉ニ際シ露支外交機關ヲ通スルト或ハ地方的ニスルトヲ問ハス右交渉ヲ關係各國共同ノ形式(從ツテ地方的ノトキハ領事團)ノ下ニ行フニ於テハ今次英國カ広東罷工團ノ貨物抑留問題ニ関シ列國共同ノ形式ヲ執ラムトシタルト同様日本ノミ特ニ矢面ニ立ツヲ避ケ得ルト共ニ日本ト張作霖トノ機微ナル關係ニ顧ミ世上無用ノ誤解ヲ防キ得ルノ利益アル場合アルヘク而テ右列國共同ノ形式ヲ取ルニ當リテハ列國側ニ對シ華府決議ノ精神ヲ援用スルヲ便宜トスル場合多カルヘシ

三、東支鐵道ニ関スル我權利利益ノ内容

露支協定成立ノ際日本ハ日本ノ東支鐵道ニ對スル權利利益ハ該協定ニ依リ何等影響ヲ受ケサル旨留保シタルカ右權利利益ノ内容ニ関シテハ予メ之ヲ露支兩國ニ對シ具體的ニ明カニセサル処ニ妙味アリト認メラル

四二二 三月五日

出淵外務次官
コップ大使 会談

滿州鉄道問題ニ関スル出淵外務次官トコップ
大使トノ会談要領

(三月五日午後一時乃至四時)

在京「コップ」露国大使ハ三月五日出淵外務次官ヲ昼食ニ招待シ「スパリウイン」博士、島田領事之ニ陪食シタルカ「コップ」大使ハ露国大使館敷地問題ニ関シ敷地縮小ノ好マシカラサルコトヲ諷シ貴族院ニ於ケル服部議員ノ幣原外務大臣ニ対スル質問ニ言及シテ種々座談ヲ為シタル後服部貴族院議員ノ引用セル「ジャパン・アドヴァァータイザ」ノ記事ヲ切ツ掛ケニ日露両国間ノ不安ヲ除去スルノ必要アルモ未タ成案ヲ得ルニ至ラス就テハ先般行ヒタル予備的懇談ヲ続行シテハ如何カト思考スト云ヒ

出淵次官ハ右ニ対シ

先般御話ノ件ニ就テハ篤ト考慮ヲ加ヘタルモ未タ具体案ヲ得ルニ至ラス貴大使ヨリ如何ナル問題ヨリ始め度考ヘナルヤ承り度其ノ上双方ヨリ研究ノ歩ヲ進メタシト思考スト答ヘ

ノナリ(一)新鉄道ニ関シ滿州ニ於ケル鉄道ノ敷設ハ支那ノ同意ヲ要ス吉会鉄道ハ日本ノ金ヲ借りテ之ヲ建設スルコトニ十数年前ヨリ既ニ約束成立シ居レリ本鉄道ニ関シ之ヲ軍事上ノモノト解サルルハ無理ナリ大使來任以來一年ヲ出テサルニ早クモ軍事上ノコトヲ云為セラルルハ予ノ頗ル遺憾トスル所ナリ「ジャパン・アドヴァァータイザ」ノ記事ハ信スルニ足ラスト述ヘ

大使ハ

(一)「ソヴィエト」連邦ハ日本ノ国民ノ利益ヲ威嚇セントスルモノニアラス東支鉄道ハ決シテ軍事上ノ意義ヲ有スルモノニアラサルコトヲ茲ニ声明ス、(二)予ハ新聞記事ヲ重要視セサルモ新聞記事ハ或程度迄輿論ヲ表スモノナリ日本ハ極東及滿州ニ於テ侵略的企圖ヲ有セサルコト諒解セリサレト吾人ニトリテ必要ナルハ声明ニアラスシテ兩者具体的ノ不一致点ヲ調整スルニアリ東支・南滿間ノ競争、大連・滿州間ノ争鬪ヲ調和スル必要アルヘシ經濟上ノ利害ノ衝突モ度ヲ過クレハ政治上ノ意義アル競争トナルヘシ就テハ私的予備會議ニ於テ一層固ク協定スルコト必要ナリトス而シテ關係鉄道カ第三国内ニ存在スルニ顧ミ三國間ニ於テ鐵道會議

大使ハ吾人相互ニ歩ミ寄りツツアリト思考ス根本問題タルヘキモノハ(一)滿州ニ於ケル現存兩大鐵道カ互ニ協同シテ行動スルヲ期スルコト(二)目下敷設中又ハ將來敷設セラレントスル新鐵道(複數)ニ關スルモノニシテ本件ハ(一)ノ鐵道問題ヨリ更ニ複雑ニシテ困難ナリ之ニ關スル日本側ノ「プログラム」ヲ承ハリタキコト「ジャパン・アドヴァァータイザ」鷲尾氏ノ論說ニ依レハ吉林、敦化鐵道ハ軍事上ノ意義ヲ有シ居リ經濟上ノ意義ヲ有スルモノニ非ストアリ右ハ果シテ然ルヤ右ハ露国側ニ不安ヲ与フルモノニシテ此際双方ヨリ打明ケテ云フヲ必要ト思考ス本件ニ關スル「プラン」並貴見如何ト述ヘ

次官ハ

日露間ニ於ケル重要問題ノ一カ鐵道問題ナルコトニハ同感ナリ殊ニ兩國カ第三國ノ領土滿州ニ鐵道ヲ有スル關係上事態複雑ナリ(一)東支南滿兩鐵道ノ關係ニ就テ言ヘハ東支ハ貨物ヲ浦潮ヘ向ケントシ南滿ハ大連ヘ向ケントシ兩者競争スルハ双方ノ為メ損失ナリ依テ兩者間ニ運賃ノ協定ヲ必要トスヘシ「ウスリー」鐵道ト南滿鐵道トノ間ニハ運賃ノ協定アリ就テハ東支南滿兩鐵道間ノ關係モ良好ナラシメタキモ

ヲ開催シ根本的ニ解決スルコト急務ナルヤニ思考セラル(三)新鐵道ニ關シ日本資本ニ依ル鐵道敷設ニ付日支兩國間ニ協定アルコトハ予モ承知シ居レリ予ハ之ニ反対スルモノニアラス現実「ソヴィエト」日本及支那三國間ニハ經濟上ノ事項存在スルカ故ニ右ニ關シ協議スルノ必要アルヘク而シテ如何ナル方法ニヨリ意見ノ交換ヲ行フヘキカヲ明ニスルコト必要ナリ吉林敦化鐵道ハ經濟上ノモノタルコトヲ耳ニシ欣快トスル所ナリ尚意見ノ交換ハ現場ニ於ケル事実カ完了セサル以前ニ之ヲ行フコト必要ト思考シ居ル次第ナリ就テハ齊兆、吉敦兩鐵道以外ニ日本ノ資金ニヨリテ敷設セラルル鐵道アル次第ナリヤ否ヤ承ハリタシト述ヘ

次官ハ

吉敦鐵道ハ經濟的ノモノナリ吉長鐵道ハ支那ノ鐵道ナルカ本鐵道アルニヨリテ南滿鐵道ハ多量ノ貨物ヲ得經濟上利得シ居レリ同様吉敦鐵道ニ就テモ滿鐵ニ於テ請負ヒ敷設スレハ自然同鐵道ヨリ滿鉄ヘノ貨物モ増加スヘク随ツテ其ノ利益モ增收スヘシ但シ吉敦鐵道ハ貴國ニ關係ナキヲ以テ敢テ我方ヨリ貴方ニ相談スルノ必要ナシト思考ス滿州ニ於テ日本ノ資金ニヨリテ建設セラルル鐵道外ニナキカ御質問ニ就

キテハ齊洮鐵道ハ滿鉄ノ請負事業ナルカ其ノ内延長セラレテ齊齊哈爾ニ対スヘク其ノ際東支鐵道横過問題ニ付東支鐵道ト相談スル時アラン齊洮ト東支ト齊齊哈爾ニ於テ連絡スルコトハ兩鐵道ノ為メ利益アルヘクト信ス南滿、東支間ニハ政治的ニ競争ナシ經濟上ノ事項ヲ基礎トシテ競争起リ得ヘシト思考ス

最後ニ日露支會議ノ件ナルカ右ハ如何ナル事項ヲ討議セラルル御考ヘナルヤ先般莫斯科ニ於テ此種會議ヲ行ヒタルモ支那側ハ之ニ参加セサリキ(a)支那側ト相談セントスルノ問題如何(b)支那カ参加スヘシト思考セラルルヤ否ヤ先以テ此点ヲ承ハリタシト述ヘ

大使ハ
兩鐵道カ支那ノ領土ニ存在スル限リ支那カ右會議ヲ回避スヘシトハ思ハレス議題トシテハ(一)現在鐵道ノ技術上經濟上ノ性質ヲ研究スルコト政治上ノ競争ハ何トナク空中ニ存在シ居レリ鐵道ノ態度ニヨリテハ一方カ他ヲ經濟上ニモ政治上ニモ殺害スルコトヲ得ヘク延ヒテ滿州ニ於ケル他方ノ利益ヲ喪失セシムヘシト思考ス(二)新鐵道ニ関シ貴説不明ナルモ齊洮鐵道ノ齊齊哈爾ニ達スルコトハ結局利害ノ衝突ヲ免

編註 二月廿二日會談要領ハ二〇六文書付記一参照

四二三 三月二十日 在ハルビン天羽總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

イワノフ一行ノ旅行日程等ニ関シ報告ノ件 (三月二十一日接受)

第七〇号
東支鐵道管理局長「イワノフ」ハ商業部員「チェルコフ」
「ドーゴルコフスキー」英語通訳「スカルスト」日本語通訳「ネズナイコ」ヲ隨員トシテ二十三日朝当地発二十四日奉天二十五日營口二十八日大連ヲ經テ四月一日上海ニ到リ同地ヨリ日本ニ渡航ノ為メ査証方願出タルカ邦語通訳ノ館員ニ語リタル所ニ依レハ上海以後ノ日程ハ未タ確定シ居ラス旅行目的ハ各地ニ在ル商業部出張所視察ナリト云フモ当地鐵道中ニハ莫斯科ニ召還セラルル前提ナリト伝ヘ居レリ

四二四 四月五日 在奉天吉田總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

イワノフノ訪日延期等当地ソ連邦總領事館員ノ内話報告ノ件

一三 東支鐵道問題 四二三 四二四 四二五

レサルヘシ滿州ハ広大ナリト雖モ南滿鐵道ト東支鐵道ノ問題ヲ調整スルコト必要ナリ然ラサレハ円滑ヲ欠クヤ必セリ予ハ今具體的案ヲ有セス何等申述ヘ難キモ右ニ付差當リ討議ヲ行フハ有利ナルコトト思考スルモノナリト云ヒ

次官ハ
本日ハ他ニ約束アリ余ス時間少キ次第ナルカ(一)支那ハ複雜ナル国ナリ會議問題ニ付テハ予ハ唯今何等約束スル能ハサルモ仮ニ云ハンニ支那政府トハ如何張作霖アリ北京交通部アリ昨今ハ又中央政府モ渾沌タル状態ニアルニアラスヤ此点次回迄ニ御考慮アリタシ(二)齊洮鐵道ハ東支ニ損害ヲ与フルコトトハナラサルヘシト思考ス(三)齊洮鐵道ハ此秋ニハ完成シテ東支ト連絡スルニ至ラン右ニ對シ貴方ハ反對セントセラルルヤ貴見如何余ハ次回ニ讓ラントスト述フ

大使ハ
鐵道ハ第三国ノ領土ヲ走り居リ且ツ支那ノ事態ハ複雑ナリ隨テ形式上如何ナル事ニ就キ話スヘキヤ困難ナル問題ナリ要スルニ(一)南滿東支ノ整調(二)新設鐵道問題はナリ齊洮ト東支トノ關係ニ関シテハ次回迄ニ考ヘ置クヘシト答ヘタリ (島田領事記)

第一二三号

当地「ソビエト」總領事館秘書長「ポドルスキー」ノ内山ニ語ル所ニ依レハ
(一)予テ転任ノ噂アリタル總領事「クラコバスキー」ハ去ル三日離任ニ応北京ニ赴キタルニ依リ同日付ヲ以テ「ポ」氏「カラハン」ヨリ總領事代理ヲ命セラレタルカ後任總領事及「ク」ノ転任先ハ未定ナリ

(二)「イワノフ」ハ多分本日本大連發哈爾濱ニ引返スヘク日本行ハ暫ク見合トナルヘシ
(三)哈爾濱市政回収問題ニ関シテハ未タ当地總領事ヨリハ何等支那側ニ申入ヲ為サス右ハ列国ニ關スル一般ノ問題ナルヲ以テ同地領事團ニ於テ処置スヘキモノト思考セラ

四二五 四月十六日 在ハルビン天羽總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ガカラハン大使ノ特權否認ノ通告ヲナ

五一九

シタル旨ノ新聞記事報告ノ件

第一〇九号

(四月十七日接受)

十五日自系露字新聞ハ張作霖ノ「カラハン」大使特権否認問題ニ関スル四月二日付奉天労働総領事代理「ポドリスキ」一「発交渉署長高清和宛公文及同月十二日付高署長ノ回答文ヲ發表シ次テ十六日ノ諸新聞ハ奉天十四日發東方電報トシテ十四日張作霖ハ公文ヲ以テ奉天労働総領事ニ対シ「カラハン」大使特権否認ノ通告ヲ為シタル旨ノ記事ヲ掲載シタル為非常ナル「センセーション」ヲ起セリ

尚右公文ハ在奉天「ホルワツト」將軍ノ許ニ在ル「メタレフスキー」ナル者カ十四日奉天ヨリ持参シ支那官憲ノ許可ヲ得テ發表シタルモノノ由

委細公信 在露大使、在支公使、奉天へ転電セリ

四二六 四月十八日 在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東支理事會ガイワノフノ辭職トエムジャーノ
フノ管理局長就任ト承認シタル旨報告ノ件

第一一〇号

十七日東支理事會ハ「イワノフ」ノ辭職ト「エムジャーノ

フ」ノ管理局長就任ト承認シタリ同日夜劉督弁及「セレブリヤコフ」ハ奉天ニ向ヘリ

在露大使、在支公使、奉天、浦潮、在西比利亞各領事、満州里、長春、齊齊哈爾へ転電セリ

四二七 四月十九日 在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ガカラハンニ対シ強硬ナル態度ニ出ツ
ルニ至リタル事情等ニツキ報告ノ件

付記 四月五日鎌田滿鉄奉天公所長ヨリ入江滿鉄理事宛電報
カラハンニ対スル態度ニ関スル張總司令ノ談話報告ノ件

第一三一号

「カラハン」大使否認ニ関スル奉露交渉ノ經過ハ十五日付機密第二九一号及十九日付同第二九九号拙信ノ通ナルカ露亜銀行代表「グラデー」ノ内山ニ語ル処ニ抛レハ今回奉天側カ本件ニ関シ強硬ノ態度ニ出スルニ至リシハ在外使臣カ其駐在国ノ内政ヲ紊乱スル場合ハ之カ召還ヲ本国政府ニ請求シ得ヘキ事ヲ米領事館側ニ確カメタル結果ト国民軍ノ

必敗ニ見込ヲ付ケ東支鐵道運行停止問題當時ニ於ケル「カラハン」ノ最後の通牒ニ対シ昔日ノ復讐ヲ為シタルモノニシテ奉天側ハ表面「カラハン」及当地總領事代理「ポドロスキー」ノ遣口ハ莫斯科政府ノ真意ヲ代表スルモノニ非スト解釈シ何処迄モ個人トシテ兩人ヲ排斥シ之ニ依リ内外ニ対シ赤化討伐ノ実ヲ標榜セントスル底意ニアルカ如ク現ニ「イワノフ」ノ辭職ヲ土産トシテ張作霖ノ態度ヲ緩和スル

為ニ來奉セル「セレブリヤコフ」ニ対シテハ却テ親善ノ態度ヲ示シ「セ」ハ本十九日午後一時「カラハン」問題等商議ノ為張作霖ニ面会スヘク又今夜開催ノ「セ」歓迎ノ宴会ニハ支那側ノ要路者ハ全部之ヲ網羅シ居ルトノ事ナリ從テ労働側カ大局ノ利害ニ鑑ミ奉天側ト宜敷カラサル「カラハン」系一味ノ自発的更迭ヲ実行スルニ於テハ張ハ必スシモ莫斯科政府ニ反対スルモノニハ非サルヘシ又「ポドロスキ」ハ内山ニ対シ四月十二日付支那側ノ照会ハ国際禮讓ヲ無視シタルモノニ付本日之ヲ交渉署ニ返還シタリトノ事ナルカ「グラデー」ノ觀察ニ依レハ同人ハ「カラハン」ト同様国民軍ノ勝利ヲ予期シ奉天側ニ対シ積極的政策ニ出スヘキ事ヲ主張シタル關係上東支運行停止問題ニ関シ「カラハ

ン」ヲ出シ抜キ莫斯科ノ訓令ニ依リ支那側ト妥協ヲ敢テシタル「クラコベツキー」總領事トハ折合宜シカラス旁々支那側モ同人ヲ相手ニセサル状況ナルヲ以テ恰モ帰任ノ途ニアリタル「クツネツオッフ」カ当地ニ暫時滞在スル事ト為レルカ如キハ「ク」カ奉露協定締結ノ当事者ナルニ顧ミ同人ヲシテ支那側ト折衝セシメントスル莫斯科政府ノ内命ニ基クモノト思考スト

在支公使、哈爾濱、浦潮、齊齊哈爾、満州里へ暗送セリ

(付記)

四月五日鎌田滿鉄奉天公所長ヨリ入江滿鉄理事宛電報
カラハンニ対スル態度ニ関スル張總司令ノ談話報告ノ件

張總司令ノ談 過般カラハンハ總司令宛電報ニテ「從來自分ハ全ク觀察ヲ誤リ居リ之カ為極力国民軍ヲ支持セシモ今後ハ飽ク迄貴下ト協調ヲ保チ凡ユル援助ヲ吝マサルノミナラス懸案中ノ諸問題モ速ニ解決シテ親善ノ実ヲ挙クヘシ」トノ意味ヲ寄セ來レリ之ニ対シ總司令ハ反対ニ当地總領事クラコウエスキイヲ介シ労働政府ハ至急カラハンヲ更迭シ且満州ニ於ケル各領事館ノ撤去ヲ要求シタリカラハンハ北京方面ニ於ケル宣伝カ悉ク失敗ニ帰セシ事実ニ鑑ミ從來ノ

方針ヲ變更シ將來專ラ滿州方面ニ手ヲ延ハサントスルモノ
ニテ殊更ニ斯ノ如キ兇戲ノ手段ヲ弄セシニ過キス目下哈爾
濱ニ於テ各國領事トノ間ニ問題トナレル市會ノ如キハ誠ニ
已ムヲ不得処置ニ出ルモノニテ赤化防止ヲ完全ニ実行セン
トスルニハ勢ヒ之ヲ我手ニ握ルノ要アリ然ラサレハ真ノ取
締リハ絶対不可能ナリ現ニ哈爾濱ニアル各學校ノ如キ總テ
宣伝ノ機關ニアラサルハナシ昨今「ク」總領事ハ奉露協約
ニ関シ頻リニ會議ヲ開カントヲ督促シ來レルモ張ハカラ
ハンカ北京ニ在ル間ハ縱令如何ナル問題ニモ手ヲ触レスト
拒絶シタリト小職ハ東支鐵道問題ニ関シ總領事ト或種ノ協
定ヲ遂ケタリトノ説アリ事實如何ト訊セシニ總司令ハ全然
之ヲ否定シ其ハ何カノ誤伝タラント語レリ

四二八 四月二十日 在ハルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

セレブリヤコフ滯哈中ニ於ケル東支鐵道諸問
題善後交渉ノ経緯報告ノ件

機密第二八四号

(四月二十八日接受)

大正十五年四月二十日

在哈爾濱

總領事 天羽 英二(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

「セレブリヤコフ」ノ滯哈中ニ於ケル東支

善後交渉ノ経緯ニ関スル件

東支鐵道問題善後交渉使「セレブリヤコフ」ノ來哈ニ関シ
テハ本月六日付機密第二四六号拙信ヲ以テ當時不取敢及報
告置キタル処同人ハ着哈後「ゲツケル」東支理事宅ニ居
定メ直チニ東支係争諸問題ニ関シ当地勞農幹部ト凝議ノ上
先ツ副理事長「ソヴラソフ」ヲシテ支那側東支理事ト數回
ニ亙リ會見セシメ一方自ラ親シク特別区長官張煥相ヲ訪問
シテ只管支那側ノ歛心ヲ買ヒツツ東支諸懸案ノ處理ニ努メ
ツツアリシカ十三日東支督弁劉尚清ノ奉天ヨリ帰哈スルヤ
交渉ハ急激ニ進展シ十七日遂ニ二十八日付機密第二七三号拙
信報告ノ通り東支管理局長ノ更迭トナレルヲ以テ「セレブ
リヤコフ」ハ同日夜ノ列車ニテ劉督弁ト共ニ奉天ニ向ヘリ
今同人ノ滯哈十三日間支那側幹部トノ間ニ行レタル協議経
緯ニ就キ杉原書記生カ各方面ヨリ得タル情報御参考迄左ノ
通り

「ソ」連邦政府ハ最近支那ノ政情殊ニ奉天側ノ對露態度ノ

極メテ硬化セルノ事實ニ鑑ミ急ニ從來奉天側ニ對シ採リ來
レル積極的敵對方針ヲ變シ少クトモ外觀ハ飽ク迄協調的ニ
出テムトシ先ツ第一ニ利害關係最モ大ナル東支鐵道ニ於ケ
ル露支兩幹部間諸係争問題ノ禍根ヲ斷タムカ為ニ「セレブ
リヤコフ」ヲ交渉使トシテ派遣シ來レルナリ而シテ最初莫
斯科政府ニ於テハ内心從來ノ對東支方針ヲ今後ト雖モ成ル
可ク變更スルコトナク依然同鐵道ニ對シ優越ナル地位ヲ保
持スル意向ヲ以テ交渉ヲ行ハシメ万一支那側ノ態度ヲ軟化
セシムルコト容易ナラサル場合ニハ痛ク支那側ノ感情ヲ害
セル一部幹部ノ更迭ヲ提議シ以テ自分側ニ有利ナル情勢ヲ
作ラムトシ為ニ客月二十七日莫斯科政府各機關紙官報欄ニ
掲載セラレタル「イワノフ」及「エムシャノフ」ノ局長免任
ニ関スル政府命令ヲ東支理事会ノ許可前ナリトノ口実ヲ以
テ翌日取消シタル程ナルカ「セレブリヤコフ」ノ一度当地
ニ乘込ミ支那側ト折衝ヲ開始スルヤ支那側ノ要求ハ単ナル
人員ノ更迭ニ止マラス此機會ニ於テ飽クマテ奉露協定ヲ楯
ニ平等ノ權利ヲ主張シテ讓ラス即チ「ソヴィエト」側トシ
テハ「セレブリヤコフ」ノ同伴シ來レル「エムシャノフ」
ヲ以テ「イワノフ」ト交代セシメ且支那側ト氷炭相容レサ

ル副局長「エイスマンド」經濟局長「ヂーキイ」等「イワ
ノフ」派分子ヲ一切退カシムルニ止メ「エムシャノフ」ヲ
局長候補トスルニ異存ナキヤ否ヤヲ確メタルニ支那側ハ仮
令人員ヲ更迭スルモ之レ何等將來ノ紛擾ヲ予防シ得ルモノ
ニ非ス少クトモ局長「ソヴィエト」側副局長ノ權限ヲ縮少
シ先ツ局長ノ免スル布告及其他ノ文書ニシテ支那側副局長
ノ署名ナキモノハ全然無効トスルコト局長ハ理事会ノ裁可
ナクシテハ勝手ニ契約ヲ締結スルノ權利無ク用品購入ニ就
テモ其價格カ一定ノ範圍ヲ超過スル時ハ一々理事会ノ許可
ヲ求ムルヲ要シ而モ理事会ハ支那副局長ノ賛成セル場合ノ
ミ局長ノ提案ヲ受理審議ス可キコトトナシ現在ノ如ク局長
カ絶ヘス理事会ノ存在ヲ無視セルノ弊ヲ矯メ且職員ノ順序
ハ現在局長「ソヴィエト」側副局長ノ次ニ支那側副局長ア
リテ事實上「ソヴィエト」側カ実權ヲ握リ居レルニ對シ今
後ハ支那側副局長ヲ局長ノ次位ニ置クコト及課長席ヲ初メ
各職務ヲ兩國人間ニ等分スヘキコトヲ要求シ次テ從來東支
ノ收入資金(約一千四百万留)ハ之ヲ全部極東銀行ニ預金
シ局長カ突然其引出ヲ必要トスルカ如キ場合アルヤヲモ考
慮スル事ナク專ラ莫斯科ノ命ニ依リテ極東銀行ノ運轉資本

トシテ哈府及浦潮ノ金融界ニ利用セラレ居タル事実ニ鑑ミ支那側ハ今後其ノ半額ヲ支那官銀行ニ預入セシムヘキコトヲ主張肉迫シ来レル為「セレブリヤコフ」ハ事ノ余リニ意外ナルニ驚キシモ一方奉露協定ノ第八・十・十四条ノ規定ニ鑑ミ主義トシテハ之ヲ認ムル意ヲ伝ヘタル上莫斯科ニ之カ詳細ナル報告ヲ為シテ訓令ヲ仰クト共ニ他方支那側ノ真意ヲ確ムル為劉督弁ノ帰哈ヲ促シ十三日督弁ノ帰哈スルヤ莫斯科ノ回訓ニ基キ直接「セレブリヤコフ」ト劉トノ間ニ會議開カレタルカ劉ハ支那側幹部ノ要求ハ之レ奉露協定ノ範圍内ノモノトシテ一步モ譲ラス只「イワノフ」ノ後任者問題ニ就テハ張煥相ト「セレブリヤコフ」会见談ニ関スル本月十二日発拙電第一〇六号ノ如ク之ヲ第二意義的問題ト看做シテ不干渉ノ態度ヲ持シ單ニ将来局長タルモノハ須ラク理事會ニ服従スルノ誠意アリ且自ラ鐵道職員タルヲ以テ任シ斷シテ莫斯科ノ外交代表タルカ如キ行為ヲ敢テセサルモノナラハ何人ヲモ歡迎シ從テ局長権限決定セハ「イワノフ」ノ留任スルモ差支ナシト声明セルヲ以テ「セレブリヤコフ」モ遂ニ支那側ノ要求ハ尤モナルモノアリ且ツ自分トシテハ奉露協定作成ニ参加セル關係上本協定ノ精神ヲ擁護

ノノ如シ而シテ一方「イワノフ」ハ十六日ノ交渉ノ結果莫斯科ハ大讓歩ヲ為シ其権限縮少サレントスル形勢ヲ看取スルヤ嘗テ之ニ関シ歴代ノ副理事長「キセリヨーフ」「ポゾデーエフ」ト衝突シ「カラハン」ノ後援ニ依リ彼等ヲ斥ケタル關係上耐ヘサル所トナシ遂ニ辭職スルニ至レリト云フ右報告ス

本信写送付先

在露大使、在支公使、在奉天、浦潮、哈府各總領事、在長春、齊齊哈爾、滿州里各領事

編註 「セレブリヤコフ」ハベルム鐵道長官「エムシャーノフ」及ビ秘書「シュープ」、**「ザリン」**、「イワノフスカヤ」等ヲ帶同シ四月五日着哈シタ

四二九 四月二十一日(着) 在ハルビン天羽總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

東支鐵道ニ対スルソ連側ノ態度変化ニ拘ラズ 同鐵道ハ依然中ソ間ノ難問ト觀測サレル旨報

告ノ件

第一一一号

東支管理局長ノ更迭ト同時ニ露國側ハ支那側要求ノ諸条項

セサル可ラサル位置ニアリト指摘シタル後右要求ハ莫斯科ニ於テモ概ネ之ヲ満足セシムヘキヲ以テ支那側ニ於テハ協定ニ基ク義務即チ支那籍従業員ニ関スル義務ヲ果ス可シトノ交換条件ヲ持チ出シ互譲ヲ求メタル由ナリ元來支那籍露國人ノ件ニ関シテハ「カラハン」大使ハ再三支那官憲ニ對シ支那側殊ニ奉天官憲カ北京及奉露兩協定ノ規定ニ拘ラス依然トシテ支那各機關就中奉天軍ニ旧露人ノ採用セラレ居ルノ事実ヲ指摘交渉セルニ對シ奉天側ハ常ニ右露人ハ何レモ支那国籍ヲ所得セルモノナリト反駁セル処ナルカ「ソヴィエト」側トシテハ職業同盟等ニ對スル關係モアリ何等カノ機會ニ於テ支那側ヲ讓歩セシメントシ這般ノ東支事件ヲ初メ過去一年半ニ於ケル「ソ」支兩幹部間ノ衝突ノ責ヲ何レモ支那国籍並無国籍露人ニ転嫁シ大ニ之カ貫徹ニ努メタルモ劉ハ本問題ニ對スル奉天ノ態度ハ過去数次ノ聲明通りニシテ如何トモシ難シトナシ「セレブリヤコフ」亦然ラハ東支職員等分ニ際シ「ソヴィエト」側ハ支那国籍露人ヲ度外視セサル可ラスト応酬シ遂ニ双方間ニ一致点ヲ見出し得ス政治的意義ヲ有スル本件ヲ奉天ニ移シ同地ニ於テ之ヲ審議シ且東支職務規定ヲ立案スルコト二十六日議決シタルモ

(管理局長権限縮小理事会及ヒ管理局ニ於ケル露支兩國人權利平等其ノ他)ヲ承認シタルトノ情報伝ハリタル為メ東支内部ニ動カラス動揺ヲ来タセルカ右勞農側ノ讓歩ハ未タ確定的ノモノニ非サル由闡込メルモ十七日東支理事會開催前督弁劉尚清他用本官ヲ來訪ノ際支那側ハ「イワノフ」ノ更迭ヲ要求セルカ近ク実現ス可ク又「セレブリヤコフ」ハ數日前劉督弁ニ對シ勞農政府ハ東支ヲ外交部ヨリ交通部ノ管轄ニ移シ專ラ露支親善ヲ主眼トシ商業的ニ經營スル方針ナリト(脱)ヲ内話シタル事アリ他方從來日支兩國ニ毒付キタリシ勞農機關紙「エーホ」ノ論調カ最近著シク變リテ日露支ノ親善ヲ唱ヘ殊ニ二十八日ノ論調ニ於テ勞農カ東支問題其他ニ於テ讓歩スルハ日露親善ノ為メナリト論セルカ如キハ最近勞農側ノ東支政策ノ一端ヲ表スモノト云フヘク勞農ハ最近日本ヲ初メ支那各地ニ於ケル政情ノ變転ニ從ヒ暫ク隱忍穩和政策ヲ以テ支那側ノ歛心ヲ繫キ後日ノ機會ヲ待タントスルモノノ如シ他方勞農側ハ如何ナル讓歩ヲ以テセハ東支側ノ満足ヲ得ヘキヤ東支ニ関スル支那側ノ要求ハ大体三月二十二日付機密第二〇三号拙信列挙八項ヲ出テサル可キカ只今支那側ノ鼻息ヲ以テスレハ恐ラクハ東支回収以

外如何ナル讓歩ニモ満足スルコトナカル可ク勞農側政策ノ變更ニ拘ラス東支ハ依然露支間ノ難問題タル可キカト觀測セラル

在露大使、在支公使、奉天へ転電シ長春へ暗送セリ

四三〇 四月二十三日 在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

セレブリヤコフト張作霖トノ会見ニ関スル于

冲漢ノ内話報告ノ件

第一四三号

(四月二十四日接受)

往電第一四一号ニ関シ

「セレブリヤコフ」張作霖会見内容ニ関シ鎌田ノ于冲漢ニ付内探スル処ニ依レハ従来対支外交ニ付露国外務省ト交通省トハ見解ヲ異ニシ来リ交通省ハ東支鐵道ヲ全然經濟的經營ト為サントスルニ反シ外務省側ハ対支外交ノ武器トシテ東支鐵道ヲ利用セントシ遂ニ外務省側ノ失敗ニ帰シタルヲ以テ交通次長ノ来奉トナレル次第ナルカ「セ」ハ張ニ対シ「カラハン」一派ノ政策ハ全然失敗セルニ付自分ヨリ多年ノ理想トスル露支ノ親善實現ノ為来奉セルモノニテ東支鐵道ヲ政治的ニ悪用セサルコト奉天側ニ好感ヲ有スル「クラ

在哈爾濱

総領事 天羽 英二(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

「セレブリヤコフ」ノ「ステートメント」ニ関

スル件

「ソヴィエト」連邦交通人民委員長代理「セレブリヤコフ」ノ東支問題善後活動ニ関シテハ四月二十日付機密第二八四号拙信ヲ以テ報告致置キタル処本二十七日発刊東支機關雜誌「ヴェストニツク・マンヂユリー」(英露両文)第三一四号中ニ大要左ノ如キ同代理ノ「ステートメント」記載セラレタリ

一、来哈ノ使命ハ交通委員部代表トシテ東支ニ関スル異常ナル状態ヲ除去シ以テ東支ニ於ケル「ソ」支両国代表間ノ協調ヲ計ラムトスルニアリ

一、「ソ」連邦ハ「ソ」奉協定ヲ遵守ス又滿州若クハ東支沿線ニ於テ侵略政策ヲ行フノ意志無ク東支ヲ純然タル商業機關ト看做ス東支ハ「ソ」支両国ノ友誼ヲ阻害スル機關タラシメス其ノ楔タラサル可ラス

一、東支南滿及烏蘇里ノ三鐵道ハ相互ニ協調シ無用ノ競争

コベツキー」総領事ノ復任ニ尽力スヘク又「カラハン」ノ更迭ハ内定シ居ルモ支那側ハ暫時隱忍シ過激的追窮ハ避ケラレ度ク従来ノ懸案ハ北京ヨリ帰来ノ上解決スヘシト述ヘタルカ右ニ関シ于冲漢ハ「カラハン」ハ着任以来赤化運動ノ為約八千万円ヲ注^ツギ込ミ居レリト云ヘハ「セ」ノ入京說得ニ依リ直ニ退去スルヤ否ヤ疑ハシク何等カノ口実ヲ設ケ曖昧裡ニ葬リ去ラントスルノ恐レアリ故ニ支那トシテハ「セ」ノ再来ヲ俟チ東支局長ノ権限従業員ノ配分鐵道收入保管等ノ三問題ヲ是非トモ解決スルノ要アルコトヲ前記会見ニ参加セル東支財政処副処長劉沢榮ニ忠告シ置ケル趣ナリ委細郵報

北京、哈爾濱ニ転電シ長春、莫斯科、齊齊哈爾、滿州里ニ暗送セリ

四三一 四月二十七日 在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛

ハルビン来訪ノ目的等ニ就テノセレブリヤコ

フノステートメントニ関スル件

普通第三〇六号

(五月七日接受)

大正十五年四月二十七日

ヲナス可ラス

一、滿州ニ於ケル日「ソ」支ノ關係ニ就キ種々ノ風説アルモ「ソ」政府ハ極東ニ於テハ侵略政策ヲ行ハス日支兩國ト協調セムト努メツアルヲ以テ近キ将来此等三國ノ關係ハ共通利益ノ為愈親善化スヘシ

一、滿州ニ於ケル「ソ」連邦市民ノ地位問題ハ重大ナルカ「ソ」連邦市民ハ支那領ニ居住スル關係上支那ノ主權ニ對シテハ相当ノ尊敬ヲ払フト同時ニ「ツアー」時代ノ如キ殖民的觀念ヲ放棄スル必要アリ又「ソ」連邦市民ハ治外法權ヲ放棄セルカ故ニ支那ノ行政權ニ服スヘキハ勿論ナルモ支那人ヨリ劣レル待遇ヲ受ケサル保証ヲ得ルコト肝要ナリ

右御参考迄別紙^(省略)原英文添付報告差進ス

本信写送付先 在露大使、在支公使、在奉天総領事

四三二 四月二十七日 在滿州里田中領事ヨリ
幣原外務大臣宛

イワノフ帰国通過ニ関シ報告ノ件

公第一一一号

(五月六日接受)

大正十五年四月二十七日

在滿州里

領事 田中 文一郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

「イワノフ」帰国通過ノ件

前東支鉄道管理局長「イワノフ」ハ家族同伴本二十七日哈爾濱ヨリ来滿即日連絡ノ急行列車ニテ莫斯科へ向ヒタリ「イワノフ」当地通過ニ付「ソウイェト」側官憲及労働者代表者ハ同人ヲ出迎へ駅食堂ニ送別会ヲ催シ頗ル誠意ヲ披握シ「イワノフ」モ亦例ト異リ簡單ニ従業員ノ一致団結シテ事ニ当リタルヲ謝シタル趣ナリ
同人通過ニ対シ支那側ニ於テハ全然無関係ノ状態ナリキ右報告申進ス

四三三 四月二十八日 幣原外務大臣ヨリ
在米田松平大使宛(電報)

ソ連邦ノ中国ニ対スル態度緩和ニツキ通報ノ

第九七号

本年一月東支南線運行停止問題ハ露国側ノ最後通牒發送ニ依リテ一段落ヲ告ケタルモ(往電合第三二号合第三五号)右ハ張作霖側ニ於テ張郭戦後ニ於ケル東三省ノ事態ニ鑑ミ

ト共ニ露国政府ニ近ク自発的ニ「カ」ヲ召還スルコトニ妥協成立シタル趣ニシテ露国ノ対支態度東支南線問題当時ニ比シ格段ノ相異アルヲ認メ得ヘシ
在英大使及ヒ紐育總領事ハ電報シ在英大使ヲシテ在欧各大使へ転電在欧各公使へ郵送セシメラレ度シ

四三四 五月六日 在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東支鉄道問題ヲ繞ル奉ソ会議ニツイテノ于冲

漢ノ談話要領報告ノ件

第一五六号

于冲漢ノ天羽總領事ニ対スル談話要領左ノ如シ
「セレブリヤコフ」四日北京ヨリ帰来シ六日交通銀行ニ於テ東支問題ニ関スル会議開催セラレ勞農側ヨリ「セ」「クゾネツオフ」「クラコベツキー」東支理事「ダニエルブスキー」又支那側ヨリ劉督弁呂副理事長等参加セルカ支那側ノ主ナル主張ハ

(一)東支管理局長ノ権限ヲ縮小シ其ノ行動ハ總テ理事会ノ承認ヲ經ルコト

(二)東支收入ハ之ヲ理事会ニ於テ保管スルコト

已ムヲ得ス露国ノ強圧的態度ニ忍從シタル結果ニシテ近時支那政局ニ於ケル国民軍ノ威力衰減ニ傾キ四囲ノ形勢再ヒ張側ニ有利ニ展開スルヤ其ノ對露態度ニモ自ラ変調ヲ来シ三月三十日東省特別区長官張煥相ハ哈爾濱市政参与ニ関スル外国人ノ条約上ノ權利ヲ無視シ突然哈爾濱市會ヲ解散シ支那人委員十二名ヲ自治臨時委員ニ任命シ爾來關係国領事トノ間ニ交渉中ノ処右ハ固ヨリ一面ニ於テ利権回収運動ノ一端ト目セラルヘキモ他面張側ニ於テ露国ノ勢力ヲ一掃セントノ魂胆ニ出テタルコト東三省官憲カ外国人ノ既得權尊重方ニ付テハ他意ナク外国側ト協議ノ上新ニ市自治會總則ヲ制定スヘキモ露国人ノ市政参与ハ断然之ヲ認ムルヲ得サル旨言明シ居ルニ徴スルモ疑ヲ容レズ更ニ本月初メニ至ルヤ張作霖ハ内政干渉赤化宣傳理由トシ奉天勞農總領事館ヲ通シ「カラハン」ノ召還ヲ要求シタルカ如ク又他方東支鉄道ニ関シテモ支那側ノ勢力擴張ノタメ職制改革ニ関シ露国ト交渉中ナル旨報道セラレ先般來露国交通次長ノ奉天並北京ヲ訪問シツアルハ右兩件ニ関スル用向ヲ帶フルモノト伝ヘラレ居タル処「イワノフ」ハ四月十七日辭職シ又「カラハン」ノ召還ニ関シテハ張側ニ於テ其ノ要求ヲ撤回スル

(三)露支兩國人ヲ公平ニ使用スルコト

等ニシテ「セ」ハ張作霖ト會見セル際極メテ巧言ヲ弄シ「カラハン」トノ事務打合ト称シ北京ニ赴キタルモノナルカ恐ラク彼ハ第三奉直戰爭ノ再開ヲ予想シ露支會議ヲ延期セシムル底意カト思料セラル

北京、浦潮、哈爾濱、滿州里へ転電セリ

四三五 五月七日 在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

セレブリヤコフノ訪日目的及ヒ北滿鉄道ノゲ

ーシ問題等ニ関スルチェリンノ談話報告ノ

件

第一六六号

(五月八日接受)

「チチェリン」ハ病略々全快シ六日外務部ノ外交団招待ニ出席シタルカ此ノ際「コップ」夫妻ハ健康勝レサル為新任參事官到着次第暫ク休暇ヲ与フルコトナルヘク又「セレブリヤコフ」ノ日本訪問ノ機會ニ於テ滿州ノ鉄道問題ヲ講セシムル積リナリ同人ハ交通部ヨリ派遣サレタル者ナルモ鉄道ノ専門の事項以外一般問題ヲ話シ差支無キ權限ヲ有スルニ依リ日本政府ニ於テモ腹藏無ク応接セラレンコトヲ望

ムト述ヘタルニ依リ右ハ至極結構ナルヘシト述ヘ置キタリ
尚東支鐵道ノ北部ニ於テ東支ト「ゲージ」ヲ異ニスル鐵道
ヲ敷設サルコトハ露國ノ利益ニ對シ大ナル脅威ナルニ依
リ此ノ問題モ何トカ解決セサルヘカラスト述ヘタルニ依リ
滿州ニ於ケル鐵道ノ「ゲージ」問題ハ純然タル支那ノ国内
問題ニシテ日本トシテハ如何トモ致シ難カルヘシ露國力支
那ト商議シテ解決サルコトハ随意ナルモ日本トシテハ東
支ノ北部ニ露國ノ「ゲージ」ヲ採用スヘシトスル理由ヲ発
見シ難シト酬ヒ置キタリ

編註

「セレブリヤコフ」ハ「クヅネツオフ」ト共ニ五月十日
午後二時奉天發安奉線ニテ渡日ノ途ニ就イタ

四三六 五月十一日

出淵次官、木村亜細亜局長
大平滿鐵副社長 會談

滿蒙鐵道敷設方針ニ関スル會談要領

大正十五年五月十一日滿蒙鐵道敷設方針ニ関スル出淵

次官木村亜細亜局長ト大平滿鐵副社長トノ會談要領

○先ツ木村局長ヨリ(イ)大正十三年八月所謂滿蒙五鐵道計画
ニ付キ滿鐵中心主義ノ下ニ閣議決定ノ次第アリタルコト(ロ)
爾來滿鐵ノ敷設事業ハ着々進捗シ洮齊線ハ既ニ完成セムト

ツテ相助ケテ共ニ滿州開發ニ資スルニ至ルヘシト述ヘ可然
応酬シ居レル次第ナリ我方將來北滿ニ發展スルコトニハ
異議ナシトスルモ其ノ順序方法ニ付テハ慎重考慮ヲ要スル
モノアリ先ツ南滿ニ於ケル予定線ヲ實現シタル既徐ニ北滿
ニ進出スルコト可然ト認ム要スルニ北滿ニ於ケル鐵道敷設
ニ付テハ政府ノ政策ト密接ナル關係アルヲ以テ滿鐵側ニ於
テモ予メ良ク政府ト連絡ヲ取り最後ノ瀬戸際ニ至リテ其ノ
計画ヲ明カスカ如キコトナキ様致シ度殊ニ主ナル鐵道ノ敷
設ニ付テハ予メ閣議ノ決定ヲ要スルコトト思考ス尚自分ノ
考ニ依レハ前述大正十三年ノ鐵道敷設計画ハ其後着々發展
シ来リタルニ依リ今ヤ當ニ第二期敷設計画ノ決定ヲ要スヘ
キ時機ニ到達セルモノト認メラル從テ其ノ以前篤ト滿鐵側
ノ計画ニ付承知シ度処一々社長ノ上京ヲ促スコトモ如何カ
ト思考セラルルニ依リ現ニ貴社内ニ於テ此種ノ事務ヲ担任
セラレツツアル大藏理事ノ上京ヲ求メ具体的問題ニ付協議
スルコトト致度云々

○右ニ對シ大平滿鐵副社長ハ

今迄承ル処ニ依リニ政府ノ考慮セラルル処ハ大体自分カ社
内ニ於テ聞知スル所ト異ラサルヤニ思考ス

シ吉敦線ハ既ニ着手セラレ今ヤ長大線・白開線(奉海線ハ
支那側ニテ敷設スルコトナリ居レリ)等ノ敷設ヲ促進ス
ヘキ狀況ニアルコト(ハ)如此從來ノ計画ニ付テハ政府滿鐵間
ニ良ク諒解アリテ何等ノ行違ヒナカリシカ最近不幸ニシテ
意見ノ疎通ヲ欠キタル事例ヲ生シタリトテ寶黒線ノ一部タ
ル松呼線呼綏線ノ行違ヒ起リタルコト等ヲ詳述シ同時ニ最
近張作霖ヨリ申込ミ來レル索倫線ニ関シソレトナク警告ヲ
加ヘタル上滿州殊ニ北滿ニ於ケル鐵道敷設事業ノ對露關係
ニ及ホス影響並將來政府ト滿鐵トノ連絡問題ニ関シ左ノ通
述フル所アリタリ

露國ニ於テハ今尚旧勢力範圍時代ノ觀念ヲ捨テサルモノノ
如ク滿州殊ニ北滿ニ於ケル鐵道敷設問題ニ付テハ其ノ感触
殊ニ鋭敏ナルモノアリ「コップ」大使モ屢々大臣・次官ヲ
來訪シ滿州ニ於ケル鐵道問題ニ付日露間ニ一定ノ協定ヲ遂
ケンコトヲ申出テ來リ右ニ對シ大臣・次官ヨリハ露國側ノ
申出ニシテ滿州ニ於ケル勢力範圍ノ復活ヲ意味スルモノナ
ラハ到底賛成シ難キト共ニ支那ヨリ其ノ領土内ニ鐵道ヲ敷
設スルニ對シ妄リニ他國ノ容喙ヲ許ササルノミナラス広大
ナル滿州ノ野ニ鐵道ノ増設アルモ互ニ衝突スルコトナク却

(一)吉会線敷設ニ関シテハ現在計画ノ吉敦線以上之ヲ延長ス
ルコトハ營業上ノ見地ヨリ滿鐵側ニ於テ之カ實現ノ意向ナ
シ若シ吉会線ノ敷設ヲ必要トスルトキハ別ニ方法ヲ講セラ
レムコトヲ希望ス之ニ對シ滿鐵トシテ何等反對ノ意向ナシ
(二)長大線ノ重要ナルコトニ付テハ滿鐵側モ政府ト其見解ヲ
同シクスルモノニシテ其建設促進ニハ全然同感ナリ

(三)寶黒線ハ滿鐵側ニ於テ重要視セス今回其第二段呼綏線ノ
材料供給契約ヲ黑龍江省側ト締結セルハ寶黒線ト露國トノ
關係ハ單ナル借款契約ナリト思ヘルト(此ノ時木村局長ヨ
リ材料供給ノ点モ契約上規定シ居ル旨指摘セリ)又寶黒線
完成スレハ將來洮齊線カ墨爾根ニ延長サルル場合之ト連絡
シテ其用ヲ為スヘシト認メタルニ過キササルモノナリ尚右契
約ノ締結ニ関シテハ社長ニ於テ外務省側ノ了解ヲ得ル要ア
リト認メ過般上京ノ節御話ノ通意見ノ齟齬アリタルモ兎ニ
角外務省側ノ了解ヲ得タリト思考セル次第ナリ

(四)索倫鐵道ニ関シテハ張作霖ヨリ滿鐵側ニ借款申込アリタ
ルモ社長不在ナレハ交渉ニ応シ難シトテ断リタルト同時ニ
詮議ノ上右借款ニハ応セサルコトニ社議決定シ居レリ

(五)大藏理事ノ上京ヲ求メ外務省側ト協議ノ件ニハ至極賛成

ナリ如斯滿蒙鉄道問題ニ付外務省側ト滿鉄側トノ間ニ大ナル意見ノ差異ナク又現在滿鉄社内ニテハ外務省側ト協議セムトスルノ空氣甚タ濃厚ナルモノアルコトニ留意セラレムコトヲ望ムト答ヘタリ

○依テ出淵次官木村局長ヨリ交々

滿鉄幹部ノ意向ハ大体御話ノ通ナルヘキモ社員中功ヲ急キ事務ニ熱心ナルノ余リ不知不識ノ間政府トノ連絡ヲ怠ルニ至ルコトモアリ得ヘキヲ以テ今後右ノ点ニ御留意アリタキト共ニ凡ソ北滿ノ開發ニハ南滿ノ開發ヲ前提トシ南滿ヲ開發充實セシメタル上ニテ其溢ルルカヲ北滿ニ注クコト可然又現在露國ノ勢力滿州ニ及ハサル隙ニ乘シテ北滿侵入ヲ企ツルトキハ結局過去ニ於ケル躁急外交ノ失敗ヲ繰返ス惧アルノミナラス北滿ニ於ケル鐵道建設ノ順序方法ヲ誤リテ無益ニ露國ノ感情ヲ害スルトキハ露國ト雖無限ニ讓歩スルコト能ハサルヘク騎虎ノ勢遂ニ意外ノ事端ヲ醸スコトナシトセス如此ハ國策上甚タ執ラサル所ナルヲ以テ滿鉄側ニ於テモ良ク此辺ニ思ヲ致サレ度ト述ヘタルニ

○大平副社長ハ

全然御同感ナリ御話ニ依リ大ニ啓発スル所アリト答ヘテ辭

誤解ノ原因タリシニ鑑ミ兩國ノ利益ナル可シト見ヘ透キタル挨拶ヲナシ更ニ北京ノ情勢ハ張カ手ヲ引キテ滿州ニ去リ呉カ主人公トナルカ如シ斯克セハ支那ハ暫ク靜穩ニ歸スヘシ張カ滿州ヲ留守ニシテ他方面ニ手ヲ延スハ滿州ノ治安及發展ノ為メ好マシカラスト述ヘタルニ依リ貴國ニ取リテハ張ノ存在カ好マシカラサルニ非サヤト反問セルニ然リ斯克考ヘタル時モアリ然シ現在ニテハ妥協出来難シト思ハス「セレブリヤコフ」ノ使命モ之ニ存ス日本モ張ノ對露態度緩和ニ助力セラレハ幸ナリト述ヘタルニ依リ三國ノ利益トナル事ナラハ日本モ尽力ヲ辭セサル可キ旨適宜挨拶シ置ケリ 在支公使ヘ転電セリ

四三八 五月十五日 在ハルビン天羽總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

東支・滿鉄兩鐵道ノ運賃問題ニ関スル東支鉄道ジキー經濟局長トノ会谈ニツキ報告ノ件 第一二七号

東支經濟局長ニシテ從來運賃政策決定上最モ有力ナル「ジキー」ハ十四日日本官ヲ來訪東支諸問題ニ付会谈ノ際東支ト南滿兩鐵道カ激烈ナル競争ヲ続クルハ双方ノ不利益ナル

去シタリ

(大正十五年五月十二日 谷課長口述 井日記)

四三七 五月十二日 在ソ連邦田中大使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

セレブリヤコフノ訪日使命等ニ関スルチエリントノ対談内容報告ノ件

第一七七号

(五月十三日接受)

十二日「チチエリン」ヲ往訪先方ヨリ更ニ往電第一六六号「セレブリヤコフ」ノ渡日ニ言及シ之ニ重キヲ置ク口振りナリシニ依リ同人ノ会谈スル事ハ如何ナル問題カ主ナリヤト聞キタルニ往電第一六六号「ゲージ」問題及東支以北ニ鐵道建設ヲナササルコト其他種々アリト云ヒタルモ洩奇鐵道ヲ持チ出サス思フニ東支以北ヘノ侵入防禦ヲ考ヘ居ルモノノ如シ本使ハ之等ヲ聞キ流シ置キ「イワノフ」ノ運賃政策ハ我滿鉄ニ多大ノ不利ヲ与ヘタリ之等モ解決ノ要アルヘシト述ヘタルニ「イワノフ」ハ實際遣リ過キタリ併シ滿鉄カ運賃協定ヲ潜リ貨物吸収ヲ企テタルニ余儀ナクセラレタル点モアリ今後ハ彼我誠實ニ協調スルヲ希望スト云ヒ更ニ語ヲ転シ馮玉祥ハ当地ニ到着セリ同人カ從來日露間無用ノ

ノミナラス日露ノ關係ヲ疎隔スルモノナリトテ公平ナル運賃制定ノ必要ヲ懇進シタルニ「ジキー」ハ東支側ニ於テモ同様ノ意見ヲ有シ「エムシヤノフ」長官モ大藏理事ト運賃問題ニ付隔意ナキ意見ノ交換ヲ希望シ其ノ時期ハ諸般ノ事情ヨリ考察シテ五月下旬又ハ六月上旬ヲ最モ適當ト思考スル旨ヲ述ヘタリ大藏理事ハ本年一月來哈ノ際「イワノフ」トユツクリ会谈スル機会ヲ得ス支那側理事ニ運賃問題ヲ話シ掛ケタル経緯モアリ今直ニ露國側ト会谈シ得ヘキヤ聊カ考慮ヲ要スルモ最近東支ノ政策變更ノ傾向アルニ乘シ運賃問題交渉ノ機会ヲ促進スル必要アルヘク只今滿鉄当局トモ打合せ中「セレブリヤコフ」東京ニ於テ我要路訪問ノ新聞電報アリタルニ付御参考迄

莫斯科ヘ転電セリ 四三九 五月十五日 出淵外務次官 在本邦コップソ連邦大使・セレブリヤコフ交通次長

滿州問題ノ意見交換ニ関スル件

五月十五日出淵次官トコップ大使及セレブリヤコフ交通次長トノ会見要領 セレブリヤコフ

只今大臣ト会見ノ際滿州問題ニ付意見交換ノ希望ヲ述ヘタルトコロ大臣ハ私カ予メ次官ト非公式ニ相談シタル上更ニ大臣ト会見シ話ヲ纏ムル様御話シアリテ其ノ手順ニ依ルコトトセリ

次官

何レ大臣ト相談シタル上会見ノ時日ヲ御知ラセスルコトトスヘシ

コツプ

最近次官ト会見シタル際大体意見ノ交換ヲ了シ「セレブリヤコフ」氏来日後更ニ具体的ニ相談スルコトトナリ居ルコトハ「セレブリヤコフ」氏モ承知シ居ラルルニ付テハ其ノ話ヲ継続セラルルコトトナルヘシ

次官

右意見ノ交換ニハ大使参加セラルルヤ

コツプ

私ノ参加ヲ妨ケナシトセラルルナラハ……

次官

一国ノ代表タル大使ハ勿論参加セラルルヲ可ナリト思フ先般ノ如ク大使館ニテ茶ヲヨハレナカラ意見ノ交換ヲ為スコ

トヲ得ハ結構ナリ

大使

丁度私ヨリ申出テタシト思ヒシトコロナリ御来館ヲ望ム

次官

月曜日ニハ先約アルモ火曜日ナラハ差支ナシト思フ何レ更ニ御知ラセスヘシ

(大正十五年五月十五日山口領事記)

四四〇 五月十七日 幣原外務大臣 會談
在本邦汪中国公使

顔内閣ノ援助及ビセレブリヤコフノ訪日等ニ

關スル會談要領

顔惠慶内閣及「セ」交通次長来朝ニ關スル幣原

外相ト汪公使トノ會談要領

十七日午前在本邦支那公使汪榮宝氏ハ幣原外相ヲ来訪シ特ニ二個ノ重要事項ニ關シテ外相ノ意見並ニ考慮ヲ求ムル次第ナリト前提シテ

一最近愈々顔惠慶氏カ内閣ヲ組織シ曹錕前大統領ハ下野ノ通電ヲ發シテ職ヲ離レ顔内閣ハ支那ノ政務ヲ撰行スルコトトナレル処右撰行内閣ニ對シ日本政府ノ同情ト援助ヲ

求ムト述ヘタルニ付幣原外相ハ右ニ對スル意見ヲ述フルコトヲ避ケ撰行内閣成立後果シテ支那ノ政局ハ安定シ得ルヤ否ヤト質問シタルニ汪公使ハ民国十五年ノ歴史ニ徴シ之ニ依ツテ支那ノ政情カ直ニ安定シ得トハ断定シ難キモ尠クトモ之ニ依ツテ最近ノ支那ノ政情ニ一段落ヲ付ケタルモノト認ムルコトヲ得ト答ヘタリ依テ外相ハ更ニ顔内閣ノ成立ハ張吳ノ合作ニ基キタルモノト認メラレ居ル処最近ノ情報ニ依レハ張吳ノ間ニ内閣ノ組織及南口攻撃ニ關シ了解充分ナラス更ニ其ノ間隙ニ乘シ国民軍ハ何等カ策動スル処アリ殊ニ田維鈞ニ對シ果シテ連合攻撃ニ参加スルヤ否ヤヲ質問シ参加セサルニ於テハ国民軍ノ友軍ト看做ス旨宣言シタル趣ナル処張吳間ノ關係ハ果シテ円満ナルヤ否ヤ疑無キ能ハスト質問シタルニ汪公使ハ張吳兩者ノ間ニハ尠クトモ中央政府ノ問題ニ就テハ吳佩孚ニ一任スル旨堅キ約束成立シ居ル故表面上ハ中央政府ニ關シ兩者間ニ意見ノ衝突等アルコトナシ乍然裏面ノ關係ニ關シテハ自分ハ何等確實ナル情報ヲ有セスト答ヘタリ

二、汪公使ハ更ニ第二ノ問題トシテ最近露國交通次長「セレブリヤコフ」氏カ特別ノ使命ヲ帶ヒテ来朝シ貴外相ト

特殊ノ協議ヲ為シタル趣新聞ニ報道セラレ居ル処其ノ真相ニ關シ何等承知スヘキコトヲ得ヘキカト質問シタルニ付外相ハ実ハ「セ」本月十五日「コツプ」大使ト共ニ来訪シ当日ハ單ニ着京ノ挨拶迄ニ止メ来週ヨリ協議ヲ開始スルコトニシタキ旨申述ヘタル処協議事項ニ付テハ予テ何等諒解アリシ次第ニハ非サルヲ以テ外相ヨリ「セ」ニ於テ如何ナル事項ヲ協議セラレムトスル考ナリヤト問ヒタルニ「セ」ハ滿州ニ於ケル日露兩國ノ利害調節ノ方法ニ就キ日本政府ト協議シタキ旨答ヘタルヲ以テ外相ハ直ニ滿州ノ問題ニ關シテハ支那ノ領土内ノ問題ナルヲ以テ支那ヲ除外シテ日露兩國間ニ於テ何等協定ヲ結フコトハ不可能ナリ只日露兩國ハ互ニ相敵視スルモノニ非ラサルヲ以テ相互ニ胸襟ヲ開キ各自予テヨリ考慮スル点ニ就キ非公式ニ意見ノ交換ヲ為スノミナラハ拒ムヘキ次第ニ非サルヲ以テ右ノ意味ニ於テ目下出淵次官ト意見ノ交換ヲ行ハシムルコトトセリ要スルニ支那ノ主權ニ關スルコトニ就キ支那ノ参加ナクシテ日露ノ間ニ何等ノ協定ヲ取結フカ如キコトハ不可能ナルヲ以テ絕對ニカカルコト無シト答ヘタル処汪公使ハ之ヲ聞キ非常ニ喜ヒテ最近日支ノ

關係ハ非常ニ密接ヲ加ヘ現ニ支那ヨリ各地總商會ノ代表者六十余名來朝シ日支國民間ノ意思疎通ヲ企ツルカ如キ事情故外相ノ言明ノ如キ日本政府ノ方針ハ支那國民ノ意向ト全然合致スルモノト信スル旨ヲ述ヘ之ヲ感謝シテ辭去セリ

四四一 五月十八日

出淵次官・木村重細亜局長
在本邦コップ連邦大使・セレ
ブリヤコフ交通次長他 會談

滿蒙ニ於ケル鐵道問題ニ關スル日ソ間ノ會談

要領(第一回會議)

滿蒙ニ於ケル鐵道問題ニ關スル日露間ノ會談要領

(一) 第一回會議

日時 大正十五年五月十八日午後二時

場所 東京露國大使館

出席者 日本側 出淵外務次官 木村重細亜局長 山口領事

露國側 在本邦「コップ」露國大使 「セレ

フリヤコフ」露國交通次長 「スパ

ルビン」大使館書記官

「コップ」大使、出淵次官ト自分ト間ニ往來打合せヲ遂

但該鐵道カ北ニ延長シ東支線ニ近ツクコトハ露國ニトリ望マシカラス右ハ洮昂線ニ付テモ同様ニシテ之ヲ北ニ延長シ更ニ東支線ノ以北ニ及フカ如キニハ反對ナリ

出淵次官、吉敦線ニ対スル先日ノ「コップ」大使ノ反對カ

此際撤回セラレタルコトヲ了承ス乍然吉敦線ニセヨ洮昂

線ニセヨ皆支那ノ鐵道ニシテ日本ノ鐵道ニ非ス現在支那

政府滿鉄間ノ契約ニ依レハ洮昂線ハ昂昂溪迄ノ工事請負

ニ止ル之ヲ其以北迄延長スルヤ否ヤハ目下ノ処承知セサ

ルモノハ別問題トシテ後ニ一般問題ト共ニ御話致度シ現

在洮昂線ニ關シ露國側ハ何等異議アリヤ

「セ」氏、洮昂線ノ場合モ吉敦線ト同様北方ニ延長セラレ

サルニ於テハ反對セス延長セラルレハ反對セサルヲ得ス

出淵次官、聞ク所ニ依レハ洮昂線終点昂昂溪駅ハ東支線ヨ

リ四基米南ナル由ナルカ露國側ハ之ト東支線トノ連絡ニ

反對セラルルヤ否ヤ

「セ」氏、該連絡カ機宜ニ適スルモノナレハ右ハ東支線ト

洮昂線トノ間ニ協定シテ之ヲ決定スヘキモノナリ

「コ」大使、(出淵次官カ為念右連絡ノ仔細ヲ確メタルニ對

シ) 洮昂線ト東支線トノ連絡ニ關シテハ何人ニ依リ如何

ケタル談合ヲ基礎トシテ今日之ヨリ協議ヲ致度シ其要点ハ双方情報ヲ交換シ互ニ他方ニトリテ面白カラサル事態ノ發生ヲ除去セントスルニ存スルカ前回次官トハ左ノ三点ニ付協議シタリ

一、洮昂線ニ付テハ出淵次官ハ右線路ハ昂昂溪ニ止リ其以上ニハ延長セスト述ヘラレ

二、又間島方面ニ於ケル鐵道港灣設備ノ問題ニ付テハ今日迄日本ハ浦潮方面ニ對シ何等ノ計畫ナク現在會寧清津間

ニハ輕便鐵道アルノミナリトノ次官ヨリノ明答ヲ得タリ

三、殘ル所ハ吉敦線ノ問題ナルカ右ニ付テハ更ニ御話シス

ルコトヲ約束シ置ケリ

而シテ今日特ニ承知シ度ハ日本ニ於テハ東支鐵道ノ利益

圈内ニ於テ如何ナル計畫ヲ有セラルルヤノ点ナリ

出淵次官、「コップ」大使ノ言ハルルカ如キ一般の問題ニ

入ル前ニ自分ノ伺ヒ度ハ所謂吉敦線ハ果シテ露國側ノ利

益ヲ害ストノ御見込ナリヤ否ヤノ点ナリ

「コ」大使、今日ハ「セレフリヤコフ」氏モ同席セルヲ以

テ右ノ点ヲ明確ニスルヲ得ヘシ

「セレフリヤコフ」氏、吉敦線ニハ反對セサルコトトセリ

ナル方法ヲ以テ之ヲナスカハ總テ將來東支洮昂間ニ協定セラルヘシ(トテ暗ニ東支鐵道カ自己ノ手ニ依リ其齊齊哈爾駅ヨリ昂昂溪迄連絡線ヲ布設シ度意向ヲ洩セリ)

「セ」氏、聞ク所ニ依レハ洮南ヨリ海拉爾ニ至ル新線布設

ノ計畫アル由ナルカ該線ハ軍事上以外ニ意味無ク從テ目

下斯ル線ノ布設ノ要ナシト信ス

出淵次官、所謂洮海線ナルモノハ何人カ計畫セルモノナリ

ヤ未タ之ヲ聞知セス右ハ技術上ヨリ見ルモ興安嶺ヲ越ヘ

ムトスル難工事ナルヲ以テ容易ニ實現セサルヘシ少クト

モ日本側ニ於テハ斯ル計畫ヲ考ヘ居ラスト思考ス今日ハ

如斯漠然タル計畫ニ關スルコトハ談話ノ外ニ置キ今少シ

具体的問題ニ付御話致度シ

「コ」大使、漠然タル計畫ト云ハルルモ抑々滿州ニ於ケル

鐵道計畫ニハ長キ歴史アリテ昔時ハ外務省以外ノ他ノ勢

力モ相当ニ活動シ種々鐵道計畫ヲナセリトモ聞キ及ヘリ

現在ハ出淵次官モ云ハルル通り日本政府ノ態度ハ甚タ明

白ナルヘキモ露國側トシテハ右歴史ニモ鑑ミ滿州ニ於ケ

ル鐵道計畫ノ問題ニ付テハ不安ノ念無キ能ハス

出淵次官、如何ニモ滿州ニ關シテハ個人ノ間ニハ種々鐵道

計画ニ付意見モアルヘク又之ヲ新聞雜誌等ニ発表セルモノモアルヘキカ元來滿州ハ支那ノ領土ニシテ他國ノ領土内ニ勝手ニ鐵道計画ヲ立ツルトモ実行シ得ヘキモノニ非ス

「セ」氏、滿州ニ於テ利害ヲ有スル日露兩國カ互ニ胸襟ヲ開キテ腹藏無キ意見並ニ正確ナル情報ヲ交換シ何等カノ話合ヲナスハ不当ニ非ス支那ニ對シテハ其後ニ話合ヲスルコトトセハ可ナリ

主タル点ハ近來滿州方面ニ於テ新線計画ニ付種々風説行ハレ之カ為日露間ノ感情ヲ害シ益々兩者ノ關係ヲ複雑ナラシメ居ルコトナリ兩國ノ平和ノ為スル風説ヲ一掃シ度ク洮海線ニ關シテハ次官カ無稽ノ風説ナリト云ハレタルヲ聞キ大ニ安心セリ

尚洮昂線ニ付テハ之ヲ北ニ延長スル場合ハ予メ日露間ニ協議シタル上実行スル様致度齊齊哈爾省城及東支線齊齊哈爾駅間ニハ既ニ輕便鐵道アリ右ハ支那ノ鐵道ナルカ滿鉄ハ之ヲ買収シ或ハ之ヲ經營スヘシトノ風説モアリ右ニシテ実現スルカ如キ場合ニハ折角此席ニテ御話セシコトモ全然無意義ニ終ルヘシ

コトハ目下無シトノ点ニ付双方了解ニ到達セリト思考ス右了解ヲ日露間ニ拘束の効力アルモノト致度尚又東支、烏蘇里、南滿三鐵道當業者間ニ鐵道ニ關シ會議ヲ開キ友好的關係ヲ定メ互ニ競争ヲ避クルコトト致度

出淵次官、「セ」氏ノ御話中第一ノ点ニ付テハ後ニ意見ヲ述フヘシ第二ノ点ハ之亦重要ナル問題ニシテ各鐵道間ニ友好的態度ヲ以テ協議ヲ遂ケ無益ノ競争ヲ避クルコトニハ全然同感ナリ但右協議ニハ支那ヲ加フル必要アルヘシ「セ」氏、元來東支鐵道ニハ支那側代表者モ加リ居ルヲ以テ右三鐵道會議ニハ自然支那側モ代表セラルルコトナルモノナリ

出淵次官、自分ノ伺ヒ度点ハ右會議ニハ果シテ支那人自ら之ニ参加スルヤ否ヤノ点ナリ
「コ」大使、東支線ハ露支双方大体半々位ニテ組織セララルモノナレハ之ヲ代表シテ會議ニ列スル場合ハ自然支那代表モ出席スルコトナルヘシ

出淵次官、洮昂、吉敦其他ノ線ヲ北方ニ延スコトニ付予メ日露間ニ協議スルコトトシ此点ニ付双方ニ拘束力アル了解ヲ遂ケ度トノ提議ニ付テハ之ニ御答ヘスル前ニ先ツ從

出淵次官、洮昂線ニ就キ支那側ニ於テハ將來之ヲ北方ニ延長スルヤ否ヤヲ考慮セルヤモ知レサルカ日本ハ之ヲ関知セス少クトモ洮昂線契約ニハ之無シ

木村局長、齊齊哈爾省城及齊齊哈爾駅間ノ輕便鐵道ヲ本線ニ改造スル計画ハ支那側ニ於テハ古クヨリ之アリ右ハ開ク所ニ依レハ更ニ延長シテ黑河迄到ラシムルモノナルヤノ趣ナリ

「セ」氏、自分ノ曩ニ述ヘタルハ右輕便鐵道ヲ滿鉄カ借受ケ之ヲ広軌ニ改造セントノ計画ノコトナリ
木村局長、右計画ハ未タ承知セス該輕便線ヲ広軌ニ改造スルニ付果シテ貴説ノ如ク滿鉄カ請負フヤ又ハ支那人カ為スカ或ハ露國人カ引受クルヤ其実行方法ノ詳細ニ付テハ今日迄何等聞及ハス

出淵次官、右ノ外個々ノ鐵道計画ニ付尚同フヘキコトアリヤ
「セ」氏、無シ、出淵次官ノ御説明ニ依リ種々ナル風説即露國ノ意外トスル各種ノ計画ナルモノニ對スル疑問氷解セリ今日ノ御話ニ依リ大体從來露國ヲシテ不安ノ念ヲ感セシメタリシ洮昂吉敦其他ノ線ニ付之ヲ北方ニ延長スル

來日本ノ採リ來レル主義ヲ明白ニシ置クコト此際肝要ナルヘシ
即今後新線布設ノ場合ハ予メ日露間ニ相談ヲスヘシトノ提議ハ先日「コップ」大使トノ會談ノ際モ之アリ其節ハ何等決定セスシテ御別レシタルカ今日ハ自分一個ノ意見ヲ腹藏無ク率直ニ陳述スヘシ
(一)「コ」大使及「セ」氏ノ說ヲ綜合スルニ滿州ニ於ケル鐵道ニ關シ何等カ利益範圍ヲ設定セントスルカ如キ御考ノ想像セラルルル処先此点ニ付率直ニ意見ヲ述フヘシ

昔日日露間ニ戰爭アリ戦後モ兩國ノ感情一時良好ナラス双方共互ニ他方ノ戰意ヲ疑ヒ不安ノ念アリシ為兩國間ノ衝突ヲ避クル為了解ヲ遂ケルコトトシ其結果御承知ノ通り密約ニ依リ日露間ニ勢力範圍ヲ画定セルカ今日ニ於テハ往時ト異リ日本ハ「ソヴェット」連邦ト國交ヲ恢復シ新ニ善隣ノ關係ヲ開ク為北京ニ於テ基本協定ヲ締結セル次第ナルカ今日日本ニ於テ「ソヴェット」ト戰爭アルヘシトハ何人モ考ヘ居ラス又「ソヴェット」側モ同様ノ意見ナルヘシト信ス露國ニ於テハ滿蒙ニ關シテハ帝政時代ト異リ専ラ經濟的商業的見地ヨリノミ之ヲ見從テ東支線

ヲモ全然商業的目的 Commercial Purpose ノ為ニ経営スヘキコトヲ天下ニ声明セラレタリ日本モ亦鐵道ニ付専ラ平和的經濟の見地ヨリノミ之ヲ考慮シ滿蒙ニ於テ商工業上ノ機會均等主義ヲ確立シ之ヲ華府會議ニ於テモ声明シタル次第ナリ北滿ヲ露、南滿ヲ日本ノ勢力範圍又ハ利益範圍トスルカ如キハ最早時代遅レナリ日本ハ南北滿州ヲ通シ機會均等主義ニ依リ進ムコトヲ最モ正シト信ス

(二) 滿蒙ハ申ス迄モ無ク支那ノ領土ニシテ支那ノ主權ハ完全ニ行ハル此点ハ支那ノ他ノ部分ト異ルナシト信ス然ルニ同地方ニ於ケル鐵道ノ布設ハ直ニ支那ノ領土ニ關係ヲ生スルモノナレハ日露兩國間ノミニテ相談シ之カ計画又ハ実行ヲ決定スルヲ得ス要之滿蒙ニ於ケル鐵道ノ布設ハ支那ノ考ニ依ルモノナレハ何人ニモ充分了解セラルル明白ナル理由ナキ限り日露兩國共之ニ干渉スルヲ得ス前述ノ如ク滿蒙ニ於テ支那ノ主權完全ニ行ハルル以上今日ハ昔日ノ如ク力ヲ以テ支那ヲ圧迫シ鐵道ヲ布設シ得ス今日殘存セル東支南滿ノ如キ特殊ノ鐵道ヲ今後滿蒙ニ布設スルハ至難ナリ今後滿蒙ノ鐵道ニ對シ日露カ支那ヲ助クル途ハ借款、建設請負又ハ材料供給ノ三ヲ出テサルヘシ從テ

メ日露間ニ協議シ度シト述ヘラレタルカ右延長ヲ決定シ得ルハ日本ニ非スシテ支那官憲ナレハ之ヲ予メ日露間ニ協定セントスルハ至難ナリ

又之等ノ延長線又ハ他ノ新線ニ関シ日本ノ個人又ハ会社カ借款工事請負又ハ材料供給ヲナス場合予メ右契約締結前ニ第三国又ハ第三者ニ協議スルハ商業ノ實際上ヨリ云フモ不可能ナリ例ハ一ノ鐵道ニ對スル材料売込ヲナス場合ニ露國側ニ予メ相談スルコトハ商業上ノ活動ニ付商機ヲ逸セシムルモノニシテ之ヲ強制スルコトハ到底不可能ナリ乍然日本ハ露國ノ既得權利利益ヲ侵害スル考ナキニ付日本ノ個人又ハ会社カスル契約ヲナシタル場合右契約決定後ニ腹藏無ク協議シ若シ露國資本家カ合同ヲ利益ナリト考フル場合ハ合同スルモ可又材料売込ニ付其一部ヲ適當ノ条件ニ依リ露國側ヨリ取引スルモ可能ナルヘシ終リニ一言付ケ加ヘ置キ度ハ日本ハ支那政府ニ對スル借款ニ付テハ四国借款團ノ規約ニ拘束セラルルコト之ナリ從テ滿蒙ニ付テモ若干ノ留保線アルモ主義上ハ右規約ノ適用ヲ受クルヲ以テ日本トシテハ常ニ四国借款團ノ關係ヲ考慮セサルヘカラサルモノナルヲ御承知置アリ度

滿蒙ニ於ケル鐵道計画又ハ布設ニ付日露ノミニテ取極ヲナスカ如キハ日本トシテハ到底同意シ難シ但此際「コ」大使並「セ」氏ノ御了解ヲ得置キ度ハ日本ハ滿蒙ニ於ケル鐵道ニ對スル露國ノ既得權利利益ヲ犯ス考少シモ無ク飽迄モ友好的關係ヲ兩國間ニ保持シ度ト考フ從テ前述ノ如ク兩國ノ關係スル鐵道ノ運輸連絡、運賃協定、貨物吸集等ノ方法ニ付テハ無用ノ競争ヲ避ケ純然タル經濟上ノ見地ヨリ提携ヲ辭セサル考ナリ

(三) 滿蒙ニハ支那ノ主權完全ニ行ハレ如何ナル鐵道ヲ如何ナル方法ニテ布設スルヤハ専ラ支那ノ決定スル所ニシテ其計画セル線路ヲ建設運用スルヲ如何ナル方法ニ依リ資金ヲ調達スルカ如何ナル人又ハ会社ヨリ材料供給ヲ受クルヤ等モ専ラ支那政府ノ決定スヘキモノナリ日本ノ個人又ハ会社カ借款、工事請負又ハ材料供給ニ関シ支那官憲ト種々ナル約束ヲナスコトアルヘク露國側ノ個人会社等モ亦然リ如此純然タル經濟的商業的基礎ニ於テ行ハルルモノニ對テハ機會均等主義ニ依リ個人又ハ会社ノ自由競争ニ一任スル外無カルヘシ

「コ」大使、出淵次官ノ率直明瞭ナル意見ノ陳述ニ對シ深ク感謝ノ意ヲ表ス

(一) 先勢力範圍ニ付一言致度シ或ハ先刻ノ自分ノ説明ニ付誤解アリシヤモ知レサルカ自分ハ勢力範圍等ハ今日存在シ得ヘカラスト信ス露國ハ滿州ニ於ケル支那ノ主權ヲ尊重スルコト論無ク既ニ「ソヴェート」政府ハ其既得權ヲモ支那ニ還付シタルモノニシテ今モ尚右見解ヲ保持スルモノナレハ今更該權利ヲ恢復スル考無シ故ニ勢力範圍ノ設定スヘカラサルコト及支那ノ主權ノ尊重ニ付テハ日露間完全ナル了解存在スト信ス乍然支那ノ参加無クトモ日露間ニ滿州問題ニ付話合ヲナスコト差支無ク現ニ今日ノ此會議ノ如キモ支那人之ニ参加スルトモ少シモ隱スヘキ点無シト自分ハ考フ第三国ノ問題ニ付日露兩國間ニ話合ヲナスコト少シモ差支無キハ例ハ支那關稅特別會議ニ付米國全權ハ予メ幣原外務大臣ト会见シ了解ヲ遂ケタルカ如シ

(二) 次官ノ御意見ハ余リニ形式的議論ナル処自分ハ今少シ具体的實質的ニ御話致度ト考フ露國ハ支那ノ主權ヲ害スル意無ク從ツテ滿州ニ於テ如何ナル鐵道ヲ布設又ハ

計畫スルヤハ支那自ラ之ヲ決定スヘキモノナリトノ点ニ付何等疑ナシ又滿州問題ニ関シテハ政治的見地ヨリ之ヲ見ス専ラ經濟的見地ニ立脚シテ考慮スヘキモノナリトノ意見ニモ同感ナリ滿州ノ鐵道ニ付予メ日露兩國間ニ具體的の了解ヲ遂クルト云フコトモ専ラ經濟的見地ヨリ必要ナリ

「セ」氏ノ提議ノ一事項タル運賃協定、運輸連絡、貨物吸集ニ付東支烏蘇里及南滿三鐵道当事者間ニ協定ヲ遂ケ無用ノ競争ヲ避クルコトニ關シテハ既ニ出淵次官モ贊同セラレタルカ既ニ既設鐵道ニ付協定スルコト差支無ケレハ未來ノ鐵道計畫ニ付テモ同様ノ協定ヲ妨ケサルヘシ滿州ニ於ケル鐵道ノ經濟的競争ハ自然政治的競争ニ變スル恐アリ從テ日露間ノ競争ヲ防止スル為ニハ經濟的競争ニ付テモ之ヲ避クル為協定スルコト必要ナリ先年ノ日露戦争モ經濟的競争ニ端ヲ發シ之カ政治的競争トナリシモノナリ斯ル危險ナル競争ヲ避クル為ニハ「セ」氏ノ新線計畫ニ對スル協議ノ提案ノ如ク問題發生前日露間ニ協議スルコト必要ナリ少クトモ相方ノ誤解ヲ解キ無用ノ競争ヲ避クル為鐵道問題ニ關シ互

行スヘシト思考ス「セ」氏提案ノ趣旨モ此点ニ存ス鐵道布設ノ問題ハ支那ノ主權ニ關スルモ此問題ニ付日露兩國間ニ話合ヲナスハ少シモ主權ヲ害セス

滿鉄カ新ニ線路計畫ヲ定メ東支鐵道ヲ横斷シ又ハ北方ニ延長線ヲ作ルコトハ露国カ南方ニ延長線又ハ支線ヲ作ルト同様互ニ他ノ利益ヲ侵害スルモノナリ此点ハ独リ鐵道ノ布設ノミナラス借款、材料供給又ハ工事請負等如何ナル方法ニ依ルモ結局兩者ノ經濟的競争タルヲ免レス而シテ右經濟的競争カ政治的競争ヲ導クハ新線布設ノ場合ニ同シ露国トシテハ文化遅レタル國ニ相当ノ援助ヲ与フルニ吝ナラス今後滿州ニ於テ地方開發ノ為鐵道ヲ布設シ其鐵道網ヲ益々濃厚ナラシムルコトハ支那ニトリテ重要ナルノミナラス日露兩國ニモ利益ナリ故ニ右鐵道網ヲ合理的ニ計畫シ其間利害ノ衝突並複雜ナル關係ヲ除去スル為支那ノ利益ヲ害セスシテ日露兩國間ニ協議スルコトヲ得ヘシト信ス

出淵次官、「コ」大使ヨリ露國ハ勢力範圍ノ画定ニハ反對ナルコト並滿蒙ニ於テハ支那ノ主權完全ニ行ハレ從テ其地方ニ於ケル鐵道布設ハ支那自ラ之ヲ決定スヘキモノニ

ニ情報並意見ノ交換ヲナスコト有益ナルヘシ次官ノ御話ニ依レハ日本人モ露國人モ支那側ニ對シ獨立自由ニ契約ノ当事者タリ得ヘク又兩國政府トシテハ契約締結後之ヲ知ルノ順序トナルモノナリトノ御議論ニ帰着スルカ如キ処右ハ余リニ形式的見地ヨリ立論セラレタルモノナリ滿鉄ハ形式上ハ私設会社ナルモ少クトモ實質上ハ日本政府ノ機關ト密接ナル關係アリ日本政府ハ滿鉄ノ活動ニ付何等責任ナシトハ云ヒ難キカ如シ故ニ形式的ニハ次官ノ御話ノ如キモ此席ニ於テハ専ラ前述ノ如キ實際的見地ヨリ御話致度シ

又支那ノ參加無シニハ日露間ニ協定ヲ遂ケ得スト云ハルルカ如キモ右協定ヲ遂ケタル後支那ヲ參加セシメ協議シテモ差支ナキ理ナリ

又日本政府ハ滿鉄ヲ通シテ滿州ニ於ケル鐵道其他ノ問題ニ付情報ヲ有シ得ヘキ地位ニアリ從テ日露兩國政府ノ有スル正確ナル情報ヲ交換スルコトヲ得ヘキ処右ハ何等支那主權ヲ害スル問題ニ非ルヘシ

如此予メ相互ノ競争ヲ避ケ紛争ヲ予防スルノ見地ヨリ意見並情報ノ交換ヲ行ヘハ總テカ円満ニ且友好的ニ進シテ第三國カ之ヲ干渉スヘキニアラサルコトノ二点ニ付明白ナル聲明ヲ聞キ深ク満足ス

「コ」大使、不干渉ト云フコトハ用語トシテハ差支ナキモ支那ノ看板ノ下ニ隠レテ實際ハ第三國カ鐵道ヲ布設スルカ如キ場合ハ自ラ其趣ヲ異ニス此場合ニハ不干渉ナル用語ノ為ニ黙視スルヲ得ス

出淵次官、「コ」大使ノ只今ノ御話ハ其意味ヲ明確ニ了解シ難キモ大体主義上ノ論トシテ鐵道布設問題ハ支那側ノ自由意思ニ依リ決定スヘキコトヲ首肯シ乍ラ右鐵道計畫ニ付第三者タル日露ノ間ニ之カ協議ヲスヘシト云フカ如キハ矛盾スルカ如ク思ハル將又既設鐵道間ノ連絡ニ付協定シ得ヘクハ同様ニ未成線ニ付テモ協定シ得ヘシトノ論斷モ了解シ難シ如何ナル地方ニ如何ナル鐵道カ布設セラレルヤ不明ナルニ其未定ノモノノ間ニ協議ヲナスカ如キハ實際上不可能ニアラスヤ

「コ」大使、今述ヘラレタル二問題ハ相互ニ相関連スルモノナルカ第一ニ支那カ自ラ決定スヘキ鐵道計畫ニ付日露間相互ニ了解ヲ遂ケ難シトノ議論ハ首肯シ難シ例ヘハ右ハ支那關稅問題ニ付第三者タル列國間ニ話合ヲナスモ少

シモ妨ケサルト同一ナリ(トテ右最後ノ点ニ付テハ日露双方ノ間ニ押問答アリタルモ互ニ其意味合ニ付了解ヲ遂ケ得サリシ為右ノ点ニ関シテハ更ニ次回ニ議論ヲ闊ハスコトトシ本問題ハ未決ノ儘散会シタリ)

(大正十五年五月二十日木村局長述岡崎記)

四四二 五月二十一日 出淵次官・木村亜細亜局長他
在本邦コップン連邦大使・セレブリヤコフ交通次長他 会談

滿蒙ニ於ケル鉄道問題ニ関スル日ソ間ノ会談

要領(第二回會議)

滿蒙ニ於ケル鉄道問題ニ関スル日露間ノ会談要領

(一) 第二回會議

日時 大正十五年五月二十一日午後

場所 東京露国大使館

出席者 日本側 出淵外務次官、木村亜細亜局長、山口

領事

露国側 在本邦「コップ」露国大使、「セレフ

リヤコフ」露国交通次長、「スパルビ

ン」大使館書記官

斯ノ如キ問題ニ就キテハ日露兩國ノミノ間ニ於テ之ヲ考慮協定致度即右ニ関シテハ支那カ其領土内ニ布設スヘキ鉄道ニ関シ如何ナルコトヲ為シ得ルヤ等ノ問題ニ触ルルコトナク単ニ日露兩國ハ各々滿州ニ於ケル鉄道ニ対シ何ヲ為シ得ルカト云フ問題ニノミニ止メ置キ之ニ付日露相互間ニ協議スルコトト致度

出淵次官、事態ヲ明白ニスル為御尋ネスルモ右ハ例ハ支那カ黒竜江ニ至ル迄ノ鉄道ヲ布設セントスルニ際シ外国(日本ヲ含ム)ヨリ材料又ハ資金ノ供給ヲ受クルニ対シテモ露国ハ之ヲ黙視シ得ストノ意味ナリヤ

「コ」大使、露国国境ニ至ル鉄道ヲ布設スルコトハ戰略上ノ問題ナルカ之ハ露支兩國ニ關係スルモノニシテ別問題ナリ

木村局長、然ラハ一層具体的ニ事實ニ就キ質問致度、寶黒鉄道ノ布設契約ハ既定ノ事實ナリ右契約ニ対シ露国ハ反對セラルルヤ又右布設ニ要スル資金ニ関シ日本正金銀行ハ之ニ参加スルコトトナリ居レルカ右参加ニ対シテモ露国側ハ反対セラルルヤ

「セレフリヤコフ」次長、右ニ関シテハ先ツ該鉄道ノ「ゲ

「コップ」大使、引続キ會談ヲ始ムル前ニ前回會議ニ於ケル談論中多少誤解アリタル様見受ケラルル点ニ付之ヲ訂正シ置ク必要アルヘシ即

(一)露国ハ滿州ニ於ケル支那ノ主權ヲ尊重スルモノニシテ何等之ニ干渉スルノ意思無シ

(二)露国ハ滿州ニ於テ何等勢力範圍又ハ利益圈ヲ設定スルノ意思無シ

唯露国側ニ於テハ日露將來ノ平和確保ノ為ニハ日露支三國間ニ協議スヘキ事項多々アルヘキコトヲ信シ先ツ滿州ニ於ケル鉄道問題ニ関シ日露兩國各々如何ナルコトヲナスヘキヤノ点ニ付予メ協定シ置カントスルニ外ナラス茲ニ仮定ノ一例ヲ挙ケテ日露兩國ノミノ間ニ協議シ大ニ考慮スヘキ問題アルコトヲ明示セントス

即若シ露国カ奉天ヨリ朝鮮國境ニ至ル鉄道ヲ布設シタリトセハ右ハ昔日露戰後ノ発端タリシ鴨綠江ニ於ケル「アドヴェンチュアール」ト同一ノ結果ヲ来スヘシ同様ニ若シ日本カ北滿ニ於テ「ブラゴウエシチエンスク」ニ達スル鉄道ヲ布設シタリトセハ右ハ如何ナル形式ノ下ニ実行セラルルトモ政治上重大問題タルヲ免レス

「ゲ」、布設ノ目的、其通過スル地方等ノ点ニ付承知スルニ非サレハ意見ヲ述ル能ハス

木村局長、本問題ヲ將來ノ布設計画ノ如ク解シ居ラルルカ如キモ右ハ既定ノ事實ナリ該契約ハ支那中央政府ト露国銀行トノ間ニ正確ニ記憶セサルモ多分一九一二年頃正式ニ締結セラレ一九一六年頃ニハ正金銀行ハ露亞トノ契約ニ依リ「シンヂケート」ノ一員トシテ右鉄道ニ關スル資金供給ニ参加スルコトトナリ居レリ從テ本件ハ支那カ右契約ノ実行ヲ決心スレハ直クニモ實現セラルヘキ問題ナリ

「コ」大使、北京ニ於テ締結セラレタル露支基本協定ニ依レハ露支間ノスヘテノ契約ハ改メテ之ヲ考慮スルコトトナリ居レルカ他方露亜銀行ハ半官半民ノ銀行ナル処「ソヴェット」政府ニ於テハ帝政時代ニ露国カ滿州ニ於テ有セシ權利及財産ハスヘテ之ヲ継統セリ要之露亜銀行契約ノ現在ノ法律上ノ「ステータス」ハ研究ノ上ナラテハ明確ナラサルモ大体右ハ露支基本協定ニ依リ解決セラルヘキモノト思考セラル

乍然自分等ノ此會議ヲ始メタル目的ハ斯ル個々ノ問題ノ

解決ニアラスシテ日露兩國ノ滿州ニ於テ有スヘキ利害ニ
關シ一般的協定ヲ遂ケントスルニアリ

木村局長、前回會議以來或ハ一般論ニ入り或ハ具體的個々
ノ問題ニ入りテ意見ノ交換ヲナシタルカ自分ハ問題ノ帰
着点カ何処ニアルカヲ了解スルニ苦シムモノナリ乍然露
國側トノ今日迄ノ話合ヲ綜合スルニ露國側ノ希望並主張
ハ或ハ大体左ノ二点ニ在リト了解シテ差支ナキヤニモ思
考セラル

(一)東支鐵道以北ニ於ケル鐵道計畫又ハ其布設ハ其目的方
法ノ如何ヲ問ハス露國ニ於テ予メ右ヲ承知スルニ非サ
レハ之ニ反對ナリ

(二)前記ノ如キ鐵道計畫ニ關シテハ支那カ之ヲ決定且布設
スル場合ト雖モ外國人(日本人ヲ含ム)カ借款ノ如キ
銀行業務ノ方法ニ依リ又ハ材料売込、工事請負ノ如キ
商業ノ方法ニ依リ右ニ参加スルニ對シテハ露國ニ於テ
予メ右ヲ承知シ且之ニ同意スルニ非レハ之カ実行ニ反
對ナリ

出淵次官、木村局長ノ挙ケタル第一点ニ關シ「コップ」大
使ハ単ニ國境ニ至ル鐵道ニ對シテノミ反對ナリヤ或ハ之

ハ一種ノ勢力範圍又ハ利益圍ヲ設定スルコトトナル処之
ハ次官カ前回會議ニ於テ説明シタル日本ノ滿州ニ對スル
政策方針ノ第一点即勢力範圍設定ニ反對スル主義ト全ク
一致セス

第二点ニ關シテハ「コップ」大使ハ形式上支那ノ鐵道ナ
ルモノニ對シ資金又ハ材料ヲ供給スル場合ニ於テハ該鐵
道ハ實際上ハ右資金又ハ材料ヲ供給スルモノニ依リ支配
管理セラルルニ至ルモノニシテ斯ル行為ハ之ヲ純然タル
銀行的又ハ商業的意義ノミヲ有スルモノトシテ見ルヲ得
スト主張セラルルモノナルモ凡ソ或ル企業ニ對スル商契
約ニ付「コップ」大使ノ如ク初メヨリ疑念ヲ以テ之ヲ見
レハ或ハ政治的意義アリトモ見ラレ或ハ侵略的意義アリ
トモ想像セラレ到底際限無キモノナリ乍然常識ヲ以テ冷
靜ニ判斷スレハ資金ノ貸与、材料ノ売込又ハ工事ノ請負
等ハ純然タル商工業上ノ活動即商行為ニ外ナラス

露國ニ於テハ特別ノ事情アルヲ以テ總テノ商行為カ政治
的意味ヲ有スルヤモ知レサルカ世界ノ他ノ國ニ於テハ商
工業ノ活動即商行為並契約自由ノ原則確立セリ
日本政府トシテハ右ニ關シテモ尚且北滿ニ於テハ予メ契

ニ反シ例ハ哈爾濱又ハ齊齊哈爾ヨリ墨爾根(嫩江)ニ至
ル線即國境ニハ達セサルモ北滿ノ中央迄迄至ル鐵道ニ對
シテモ反對ナリヤ此点ヲ明ニシ度

「コ」大使並「セ」次長、右二者ヲ含ムスヘテノ線ニ對シ
反對ナリ

「コ」大使、自分ハ本問題ニ關シ何等カ他ノ形式ニ於テ露
國側ノ意向ヲ明瞭ニセンコトヲ考慮シ居タルカ只今木村
局長ノ提示セラレタル「フラーミユラ」ハ自分ノ考フル
所ト大体同一ナルヲ以テ右「フラーミユラ」ニ付討論ス
ルコトニ同意ス

(休憩)

木村局長、自分ノ提出シタル「フラーミユラ」ニ依リ只今
迄才互ニ討論シタル問題ノ帰着点明瞭トナリシヲ以テ之
ニ對スル意見ヲ述ヘタシ
先ツ第一点ニ付テハ露國側ニ於テ如何ナル説明ヲ加ヘラ
ルトモ露國側ノ意向ハ結局北滿ニ於テ一定ノ地域ヲ限
リ其範圍内ニ於テ露國ニ於テ予メ相談ヲ受ケ又ハ同意ヲ
与フルニ非サレハ如何ナル鐵道ノ計畫又ハ布設ヲモ許サ
スト云フ排他的專屬的地域ヲ設定スルコトニ帰着ス即右

約当事者以外ノ第三國タル露國側ニ通告シテ其同意又ハ
承諾ヲ求ムヘキコトヲ命令スルカ如キハ國內法上ヨリ云
フモ或ハ又商行為自由ナル天下ノ原則ヨリ云フモ不可能
ノ事ニ屬ス將又契約ノ相手方タル支那側ニ於テハ如此日
露間ノ協定並露國ニ對シ予メ協議スルヲ要ストノ制限ニ
對シテモ反對ナルコト勿論ナルヘシ何レニスルモ第二点
ニ關スル露國側ノ意向ハ出淵次官ノ前回會議ニ於テ述ヘ
タル日本ノ滿州ニ對スル確定方針ノ第二点即南北滿州ヲ
通シテ商工業上ノ機會均等主義ヲ維持セントスル主義ニ
反ス

殊ニ斯ルコトヲ支那ノ参加無シニ日露間ニ協議セントス
ルハ德義上ヨリ云フモ、政治上ヨリ云フモ將又商工業上
ノ活動ノ自由ナル經濟的見地ヨリ云フモ面白カラス
最後ニ「ゲージ」ノ問題ニ付私見ヲ述ヘ度

露國側殊ニ東支側ニ於テハ北滿ニ於ケル東支鐵道ト接続
スル鐵道ニ付テハ五呎軌幅ヲ希望セラルルカ如キ処右ハ
日本ノ干涉スル限ニハ非ルモ斯ル希望ノ實現ハ至難ナリ
ト信ス何トナレハ一九一六、七年頃ノ支那交通部會議ニ
於ケル決議事項並最近交通部発表ノ支那鐵道網ニ關スル

計画綱領ナル「パンフレット」ニ依ルモ總テ今後支那ニ於ケル鐵道ノ施設ニ関シテハ其軌制ヲ統一スルコト即 Unification ノ主義ヲ確立セリ

北滿ノ鐵道モ亦支那ノ布設スル支那鐵道ナル以上支那側カ之ニ付他ノ支那鐵道ト同様ノ標準即「スタンダード、ゲージ」ニ依ランコトヲ欲スルハ自然ノ傾向ナリト信ス右ハ單ニ自分カ支那鐵道ニ関シテ從來見聞スル所並研究セル所ヨリ得タル感想ヲ本會議ノ趣旨ニ鑑ミ率直ニ且忌憚ナク開陳シ御参考ニ供スルモノニ過キス

「コ」大使、木村局長ノ意見ハ明瞭ニ了解セリ乍然自分ノ述ヘタル所ハ露國側ニ於テ何等カノ利益圈ヲ設定セントスルニアリト誤解セラレ居ルハ甚迷惑ナリ試ミニ問ハン日本ハ果シテ南滿ニ於テ利益圈ヲ有セサルカ又之ヲ設定スル意思無キカ

木村局長、日本ハ南滿ニ於テ何等第三者(他國人)ヲ排斥スル自己專屬ノ利益圈又ハ勢力範圍ヲ設定シ居ラス又之ヲ設定スル意思無シ

「コ」大使、華府會議ニ於テモ日本ノ御方針ハ貴説ノ如シト自分モ承知ス乍然日本ハ南滿ニ於テ特別ノ利益又ハ利害ニ對シ特殊ノ權利ヲ有スル等ノ關係上同地方ニ於テ露國カ特別ノ利益ヲ有スルコトハ日本モ之ヲ認ム乍然此特別利益ヲ理由トシテ利益圈又ハ勢力範圍ヲ設定シ日本其他ノ第三者ヲ排斥スルコトニ對シテハ日本ハ之ヲ承認シ得ス

「コ」大使、日本ハ露國カ東支鐵道ニ関シ特別ナル利害關係ヲ有スルコトヲ了解セルコトヲ聞キ大ニ満足ス

右特別ナル利益ナルモノハ自然の事實ヨリ来ルモノニシテ專ラ国防上ノ理由ニ出ツ之カ為第三者殊ニ日本人ノ北滿ニ於ケル活動ヲ排斥セントスルノ意思毛頭無キコトヲ言明ス

之ヨリ更ニ自分ト木村局長トノ間ニ意見ノ異ル点ヲ明ニシ度ト思考ス

先ツ木村局長ハ鐵道ニ對スル投資及材料ノ供給ハステ純然タル商工業上ノ活動ナリト云ハルルモ隣接国内ニ於テ自己ノ國境ニ至ル鐵道ノ布設ヲ計画スルコトハ後者ニトリテ国防上政治上重大ナル問題ニシテ單純ナル商工業上ノ活動ト見得サルコトハ國際法上モ自明ノ理ニシテ此鐵道ノ為ニハ從來屢々重大ナル政治上ノ衝突戦争等ヲモ

害ヲ有セサルヤ既ニ帝國議會ニ於ケル日本政府ノ声明ニ依ルモ滿州ニ於テ日本ハ特殊ノ利害ヲ有シ特殊ノ地位ヲ有スルコトヲ主張シ居ラルル様見受ケラルルカ如何

木村局長、特別ノ利益ヲ有スルコトハ勢力範圍ヲ設定スルコトト全然異ル日本ハ滿蒙ニ於テ現ニ南滿鐵道其他ノ既得權ヲ有スルノミナラス多數ノ日本人ココニ居住シ莫大ノ資本投セラレ居ル等各般ノ關係上該地方ニ對シ特別ノ利益ヲ有ス乍然日本ハ斯ル特別利益ヲ有スルヲ理由トシテ同地方ニ於テ排他的專屬の範圍ヲ画定シ所謂勢力範圍又ハ利益圈ヲ設定シ居ラス又設定セントスルモノニモ非ス之日本カ斯ル特別利益特殊ノ權利等ヲ有スルニモ拘ラス滿州ニ於テ商工業上ノ機會均等主義ヲ確立セル所以ナリ利益圈設定ト機會均等主義トハ矛盾スルモノ特別ノ利益ヲ有スルコトト機會均等主義トハ矛盾セス

「コ」大使、御説明誠ニ明白ナリ問題解釈上ニ於テハ何等異議無シ乍然日本カ南滿ニ於テ特別利益ヲ有スルカ如何露國モ北滿ニ於テ特別ノ利益ヲ有スルコトヲ同一ニ認ムルヲ得サルヤ

木村局長、露國カ北滿ニ於テ支那ト國境ヲ接シ且東支鐵道惹起セリ此ノ点ヲ木村局長カ承認セサルコトヲ遺憾トス曩ニ自分カ仮定的例トシテ奉天ヨリ日本ノ國境ニ至ル鐵道ニ對シ他國カ資本ヲ投スルカ如キ場合日本ハ之ヲ默許スルヤ否ヤトノ質問ニ對シ日本側ニ於テ之ニ注意ヲ払ハレサリシヲ遺憾トス自分ハ之等ノ点ヲ考慮シ形式上ノ議論ヲ避ケ實際問題トシテ斯ル問題ニ付從來日露間ニ採リ来レル平和の親善關係ヲ完全ニシ利害ノ衝突ヲ予防スル為此種鐵道計画ニ付互ニ情報ヲ交換シ誤解ヲ避クルコトヲ要ストノ意見ヲ有スルモノナリ

北滿州ニ於テ日本カ黑河ニ至ル線ヲ布設スルコトハ曩ニ自分カ仮定的ニ述ヘタル吉敦線ニ於ケルト同様ノ關係ニ於テ露國側ノ不快トスルモノナルコトヲ日本側ニ於テ了解シ得サルヤ右黑河ニ至ル鐵道計画ハ正シク侵略的ノ行為ニシテ右ニ關シテハ單ナル商工業上ノ活動トシテ機會均等主義ニ依リ押進ミ得ス

又如此鐵道ハ國境ヲ接スル國ニトリテ国防上政治上一種特別ノ利害關係アルモノナルヲ以テ右ニ付接壤國ハ一種ノ利益圈ヲ有スルモノト考ヘ得サルヤ

露國ハ日本カ南滿ニ於テ此種ノ特別ナル利害關係ヲ有ス

ルコト從テ之カ為特別ノ利益圈ヲ有スルコトニ付痛切ニ同情スルモノナルカ日本ハ露國カ北滿ニ於テ同様ノ利害關係ヲ有スルコトニ付同情スルコトヲ得サルヤ

尚誤解ヲ防ク為一言明白ニ露國ノ態度ヲ明ニシ度北滿ニ於テハ露國モ亦機會均等主義ヲ奉スルモノニシテ日本ノ商工業上ノ活動ニ對シテハ之ヲ妨クルノ意思ナシ將又南

北滿州ニ於テ露國ハ日本ト友誼的且平和的ニ活動センコトヲ希望スルモノニシテ其他何等他意ナシ

最後ニ木村局長ノ指摘セラレタル「ゲーヂ」ノ問題ニ付テハ別ニ意見アレトモ之ハ全ク第二義的ノ問題ナレハ今日ハ之ヲ批評セス

木村局長、只今ノ「コップ」大使ノ御質問ニ對シ御答ヘスル前ニ同大使カ最後ニ述ヘラレタル露國ノ北滿ニ於ケル態度方針ニ関スル明快ナル宣言ヲ聞キ大ニ満足スル所ナルコトヲ言明ス今迄自分カ種々ノ点ニ付論及シタル結論モ正ニ之ト同一ナルコトヲ誤解無キ様茲ニ申上ク

尚自分ノ意見ヲ述フル前ニ今一度明ニシタキハ「コップ」大使ハ國境ニ接続スル鐵道ノミニ付質問ヲ掲ケラレタルカ曩ニ出淵次官カ述ヘタル國境ニ至ラサル中途迄ノ鐵道

國境ニ達スル迄ハソレカ十哩手前ノ場合モ五十哩手前ノ場合モ皆一樣ニ別問題ナリトスルハ當ヲ得ス右ハ恰モ他人カ自己ノ毛髮ヲ一本抜キ二本抜キ三本抜ク迄ハ勘忍出來ルモノ本抜ク時ハ我慢出來スト云フト等シク結局程度ノ問題ナレハナリ

次ニ木村局長ハ鐵道布設ノコトカ決定セラレタル後初メテ材料売込、工事請負又ハ資金供給ノ問題等カ起ルモノナリト云ハルルモ凡ソ鐵道線ノ布設計画ハ資金又ハ材料供給ノ相談ト同時ニ決定セラルルモノナリ木村局長ノ話ハ此實際的ノ点ヲ故意ニ避ケ成ル可ク之ニ触レサラントスル空想的ノ議論ナリ

第三ニ木村氏ハ頻リニ此問題ヲ商工業上經濟上ノ点ヨリノミ論セラレ其政治上ノ価値ニ付テハ之ニ触レテ話スヲ避ケラレタリ

木村氏トハ大分議論ヲ闘セタルカ自分ノ右所見ニ對スル出淵次官ノ意見ヲ伺ヒ度シ

出淵次官 「コップ」大使ノ北滿ニ関スル露國ノ態度宣明ニ對シテハ自分モ満足ノ意ヲ表ス

乍然今後北滿ニ於テ布設セラルル鐵道ハスヘテ支那ノ鉄

殊ニ北滿ノ最モ豊富ナル穀類産地ノ開發ヲ目的トスル鐵道ニ對シテハ「コップ」大使ノ最後ニ宣明セラレタル原則適用セラルルモノト信ス從テ之ハ問題外トシ右ニ関シテハ改メテ意見ヲ述フル必要無キ次第ト思考ス

故ニ今國境ニ達スル鐵道ノミニ関シ御質問ニ答ヘンニ凡ソ接壤國間ニ於テハ國境接続鐵道カ重大ナル意義ヲ有スルコトニ異論無シ乍然斯ノ如キ國境接続鐵道ヲ布設スヘキヤ否ヤ及此種鐵道ヲ如何ナル計画ノ下ニ實現スヘキヤ等即該鐵道ノ計画及布設ノ問題ハ接壤國間ニ於テ其都度決定セラルヘキ問題ニシテ何等第三國ノ關係スヘキモノニアラス

斯ノ如キ鐵道ノ布設カ接壤國間ニ決定セラレタル時之ニ對スル資金ノ供給材料ノ売込又ハ工事請負等ヲ第三國ノ商人企業家等カ商契約ニ依リ実行スルコトハ全ク別問題ニシテ右ハ純然タル商工業ノ自由ノ範圍ニ屬スヘキモノト信ス

「コ」大使 木村局長ノ議論ハ國境ニ至ル鐵道ノミニ問題ヲ限定シ居ラルルカ國境ニ向ヒ其途中ニ終ル線ニ付テモ問題ハ同様ナリ

道ナルヘテ從テ之ヲ決定布設スルハ支那ニシテ日本モ露國モ勝手ニ之ヲ計画又ハ布設シ得ス「コップ」大使ハ頻リニ日本独リカ北滿ニ於テ勝手ニ鐵道ヲ布設シ又ハ其資金材料等ヲ供給スルモノト解シテ議論セラルルカ如キモノ右ハ全然誤解ナリ

又「コップ」大使ハ北滿ニ於ケル一般ノ鋳業林業其他ノ商工業上ノ活動ニ付テハ第三國殊ニ日本ノ活動ヲ妨ケスト言明セラレ乍ラ独リ鐵道ノミニ對シテハ日本カ之ニ投資シ又ハ材料売込ヲナスニ反對セラレ鐵道ヲ他ノ企業ト離シ全ク別個ノモノトセラルルハ了解シ難シ曩ニ述ヘタルカ如ク鋳業林業他ノ商工業ノミナラス鐵道企業ニ付テモ其契約ヲ一々締結前又ハ商談中ニ露國側ニ通告シ相談スヘシトノ提議ハ単ニ商機上ノ点ヨリ云フモ不可能ナリ然モ右契約予告ヲ日露兩國ノミノ間ニ於テ協議スルハ實際上ニモ益ナシ何トナレハ例ハ賓黑線ニ對シ米國カ投資ヲ行フカ如キ場合露國ハ之ニ反對シ得サルヘキヲ以テナリ故ニ斯ル協定ヲ日露間ニナスコトニ付テハ木村局長モ自分モ絶對ニ反對ナリ從テ此点ニ付テハ明日「コップ」大使カ幣原大臣ト会谈セラルル際ニ於テ最後ノ決定ヲナ

サレンコトヲ希望ス

最後ニ日本ハ北滿ニ於テ露國ノ利益ヲ飽迄尊重スルモノナルコト並ニ滿州ニ於ケル經濟上ノ活動ニ付テハ滿州開發ノ目的ヲ以テ機會均等主義ノ下ニ充分露國ト友誼的協力ヲサントスルモノナルコトノ二点ヲ明白ニ言明シ置キ度シ

「コツプ」大使ハ頻リニ北滿ニ於ケル鐵道ニ關シ軍事上政治上ノ議論ヲ試ミラレタルカ此種ノ議論ヲ繰返ヘセハ實際ナシ日本ハ最早露國カ滿州ニ於テ軍事上又ハ政治上ノ野心ヲ抱カサルモノト確信ス日本モ亦同様北滿ニ於テ軍事上政治上侵略の野心ヲ毛頭有セス此点ハ誤解ナキヲ要ス從テ右ノ点ニ付露國側ニ於テ何等危惧ノ念ヲ抱カレサランコトヲ希望ス

前日来御互ニ誤解ヲ解キ了解ニ達シタル点即滿州ニ於テハ日露兩國共ニ支那ノ主權ヲ尊重スルコト、商工業上ニ於テハ機會均等主義ヲトルコト並ニ滿州ノ平和的經濟的開發ノ為日露兩國相協力セントスルコトノ三点ニ付テハ「セ」次長ニ於テモ歸國ノ上ハ之ヲ本國政府ニ伝ヘラレシコトヲ希望ス

の見地ノミヨリ論セラレタルモノニシテ他方實際上ハ滿鐵会社カ北滿ニ於テ勝手ニ計畫ヲ立テ鐵道布設ヲナスノ事實ハ之ヲ看過シ得ス又鐵道計畫ニ關スル實際上ノ問題トシテハ右布設ニ關スル實際上ノ力ハ何人カ之ヲ有スルヤノ点ヲ計算ニ入レテ話スヲ必要トス

「セ」次長 日本側ニ於テハ滿州ニ於ケル鐵道布設計畫並ニ右ニ對スル日本側ノ参加ニ付契約締結前露國側ト相談スルヲ得スト云ハルル処自分ノ來朝ノ目的ハ實ニ滿州ニ於ケル鐵道問題殊ニ其計畫Planニ付予メ日露間ニ相談シ互ノ不利益トナラサルヤ否ヤヲ研究スル為意見ノ交換ヲナスニアリタリ露國トシテハ北滿ニ於テ露國國境ニ達スル鐵道ヲ日本カ布設スル場合之ヲ如何ニ考フルヤヲ該鐵道計畫決定前ニ卒直ニ日本側ニ對シ話スコトハオ互ニトリテ利益ナリト考ヘタリ然ルニ日本ハ露國カ何等北滿ニ於テ日本ノ利益ヲ害スルノ意思無キコトヲ了解セラレ乍ラ日本カ北滿ニ於テ如何ナル鐵道計畫ヲ有セラルルヤノ点ヲ意見ノ交換ニ依リ明ニセシメラレサリシコトヲ遺憾トス東支鐵道以北ニ於テ露國國境ニ向フカ如キ日本ノ鐵道計畫カ實現スル場合ニハ露國ト意見ノ衝突ヲ來タササ

重ネテ申上クルカ日本ハ何等露國ノ利益ヲ妨害セス又軍事上政治上侵略の意圖ヲ有セサルモ勢力範圍又ハ利益圈ノ設定ノ如キ古キ考ハ此際オ互ニ之ヲ棄テ度キモノナリ「コ」大使 既ニ御話ハ之ニテ尽キタルモノノ如シ終リニ誤解ヲ正ス為尚一言センニ

(一)次官ノ御説明ノ末段即日本ハ滿州ニ於テ露國ノ利益ヲ妨害スルカ如キ何等侵略の意思又ハ企圖無シトノ言明ニ對シ深く感謝ス

(二)滿州ニ於テ日露兩國ハ互ニ相信賴シ合ヒ協同シテ滿州開發ニ努メサルヘカラストノ点ニハ全然同感ナルカ唯日本ノ外務省以外ノ分子ハ果シテ同様ニ考ヘ居ルヤ否ヤ從來疑無キ能ハサル処ナリシカ今日責任アル人々ヨリ此言明ヲ聞キ全ク安心セリ

(三)自分ハ本會議ニ於テ實際上ノ問題ヨリ大ニ議論スル考ナリシカ例ハ出淵次官ハ滿州ニ於ケル鐵道布設ハ支那カ決定スヘキモノニシテ日本カ勝手ニ之ヲ計畫実行シ得スト云ハレ又木村局長ハ支那カ右鐵道布設ヲ決定シタル後初メテ資本家又ハ商人等ニ對シ資材材料等ノ提供ニ付相談スルモノナリト云ハルルモ右ハ兩氏共單ニ形式的法律

ル様子メ右ニ付相談セラレテモヨキモノト思考セラル露國ハ常ニ斯ル計畫カ日本ニ依リ實現セラルルコトナキヤニ付不安ノ念ヲ抱クモノナリ而シテ右ハ實現セラレテ後相談ヲ受クルトモ何等実効ナキモノナリ

木村局長、「コツプ」大使並「セ」次長ハ共ニ我々ノ意見ヲ形式的法律的ニシテ實際ニ触レ居ラスト云ハルルカ今「セ」次長ノ最後ノ御話並「コツプ」大使ノ所謂實際上ノ事實トシテ御話アリシ点ヨリ考ヘ初メテ露國側ノ不安トスル点ノ何ナルカカ明瞭トナレリ即右露國側ノ不安ハ要スルニ滿鐵カ北滿ニ於テ種々ナル鐵道計畫ヲ立案シツツアリト云フコトニ歸着スルカ如シ然ルニ一ノ鐵道会社カ自己ノ鐵道ノ利益ノ為ニ殊ニ運輸、貨物吸集ノ見地ヨリ平常ヨリ机上ニ於テ種々理想的ノ線ヲ考慮立案スルハ職務上当然ノコトニシテ東支鐵道ニ於テモ右ト同様鐵道當事者並技術者等ハ種々ノ線ヲ計畫シ居ルナルヘシ現ニ自分ノ知ル処ノミニテモ例ハ海林ヲ中心トシ北露國國境ニ向フ線即牡丹江流域ノ貨物吸集策ノ為ノ線及南寧古塔ヲ經テ吉林ノ中心ニ至ル線ノ計畫アリ又北滿ニ於ケル穀物產地ノ中心点タル安達ヨリ北方及南方ニ至ル線モ計畫

サレ更ニ齊奇哈爾又ハ哈爾濱ヲ中心トシ東支線ニ利益ナル幾多ノ線ノ計画モアルヤニ関及ヘリ

乍然之等鐵道計画ニ関スル兩者間ノ競争モ要スルニ東支南滿兩鐵道間ノ運賃並貨物吸集ニ関スル歴史の激烈ナル競争ノ発露ニ過キササル処右競争ハ曩ニ「イワノフ」氏カ東支側ノ政策ヲ更新シテ以来一層激烈ナルニ至レルモノナリ從テ東支南滿兩鐵道カ共存共栄ノ見地ヨリ互讓妥協ノ精神ヲ以テ協定ヲ遂ケ右兩鐵道間ノ激烈ニシテ且無用ノ競争ヲ避クル方法ヲ確定スレハ鐵道当事者並技術家ノ鐵道計画上ノ競争モ自然消滅シ兩鐵道相互間ノ不安疑念等モ去ルヘク更ニ進テハ兩鐵道間ニ何等カ協力ノ方法モ發見シ得ルニ至ルヘシ「セ」次長モ態々極東迄来ラレシモノナレハ此機會ニ於テ大連ニ赴キ東支鐵道当事者技術家等ヲモ招集シ滿鉄トノ間ニ此歴史の激烈ナル競争ヲ寛和スル為特別ナル協定ヲ遂ケラルルニ於テハ我々ノ間ニ於ケル此長キ議論ノ根本的原因タリシ露國側ノ不安モ自然消滅スヘク之コソ真ノ實際の問題ナリト思考ス「セ」次長、日露兩國政府間ニ先ツ協定ヲ遂ケサレハ仮令滿鉄ト話合ヲ遂クルトモ問題ハ後日ニ残ルヘシ少クトモ

滿鉄ノ北滿ニ於ケル侵略の行動計画等ハ不明ノ中ニ其儘残ルヘシ

乍然日本政府ニ於テ滿鉄ニ対シヨク友好的の精神ヲ以テ東支トノ間ニ互讓妥協ノ途ヲ開ク様話合ヲナスヘキ旨ヲ指図セララルルハ甚タ結構ナリ

出淵次官、至極同感ナリ滿鉄ニ対シテハ当方ヨリヨク指図スヘシ但シ露國側ニ於テモ同様東支ニ対シヨク御指図アリタシ

(以上ヲ以テ本會談終ル)

(大正十五年五月二十二日木村局長述 岡崎記)

四四三 五月二十二日

幣原外務大臣・出淵次官
在本邦コツプソ連邦大使
セレブリヤコフ交通次長 會談

滿州鐵道問題ニ関スル會見要領

付記 五月十七日亞細亞局作成調書

セレブリヤコフノ來朝ト滿州ニ於ケル鐵道敷設
問題ニ關スル件

五月二十二日滿州鐵道問題ニ関シ幣原大臣及出淵次官トコツプ大使及セレブリヤコフ交通次長

トノ會見要領

コツプ

出淵次官等トノ會見ニ於テ滿州鐵道問題ニ関シ意見ノ交換ヲ為シタルトコロ其ノ内容ニ付テハ既ニ御承知ノ事ト存スルカ之ニ関スル御意見ヲ承リタシ

大臣

意見ヲ述フルニ先チ申述ヘタキハ去ル土曜日大使及交通次長ト會見ヲ為シタル後月曜日ニ至リ支那公使來訪シ新聞ノ報スルトコロニ依レハ露國交通次長ハ滿州鐵道問題ニ関シ日本政府ト協議スル由ナルカ右ハ事實ナルヤ元來滿州鐵道問題ニ関シテハ支那ノ參加ナク決定セララルコトナシト確信スルモノナルカ如何ト問ヒタルニ付同公使ニ對シテハ土曜日御來訪ノ節御答ヘシタルト同シク支那ノ參加ナク日露間ニ何等ノ協定ヲ為スノ意思ナシトノ保証ヲ与ヘタルニ同公使ハ満足シテ帰レリ之ニ依ルモ支那カ滿州問題ニ関シ日露間ニ於ケル意見ノ交換ヲ神經過敏ニ見テ居ルコトハ考慮ニ入レ置カサルヘカラスト思フ

コツプ

スルカ如キコトヲ為サス商工業上機會均等主義門戶開放主義ヲ維持スルノ方針ナリ故ニ間接ト直接トヲ問ハス苟クモ右ノ政策ニ反スル処置ヲ為スコトニハ賛成スルコト能ハサルコトヲ了解セラレタシ

日本ハ滿州ニ對シテモ亦露國ニ對シテモ何等侵略の政策ヲ執ラサルコトハ其ノ根本政策ナレハ此点ニ付テハ安心セラレタシ

私共ノ御話スルコトニ付テハ此根本原則ニ抵触セサル範圍内ニ於テ意見ヲ交換スルノ外ナシト承知セラレタシ

シ此主義ハ機会カ一般ニ如何ナル形ニ於テ利用セララルヤヲ語ラス殊ニ機会カ他方ノ緊切ナル利害ニ損害ヲ来スヘキ方面ニ於テ利用セラレ得ヘシトハ語リ居ラス

大臣

日露兩國ハ将来東支鐵道ヤ南滿鐵道ノ如キモノヲ新ニ布設スルコトハ不可能ニシテ斯ル機会ハ今ヤ残り居ラス而シテ其ノ残り居ルハ一、借款ニ応スルコトニ、工事ノ請負三、鐵道材料ノ売込ニシテ此三点ニハ機會アリ且其ノ機會ハ均等ナリ

之ヨリ考フレハ日露カ滿州ニ於テ将来自己ノ鐵道ヲ布設シ得ヘシトセハソレハ緊切ナル利害關係ナルヘキモ最早斯ルコトハ起リ得ヘカラサルヘク故ニ右三点タケニテハ何レノ國ノ緊切ナル利益ヲモ侵犯スルコトナカルヘシ

コツプ

形式論ヨリスレハ大臣ノ御説ハ御尤ニシテ何等非難スヘキ点ナク形式上ハ反對スルコトヲ得サレト政治界實際社界ニ於テハ形式ノミニテ問題ヲ決定スルコト能ハサルヲ遺憾トス

私ノ詳細ナル研究ニ依リ日本ノ意向(例ヘハ議會ニ於ケ

ルハ之ヲ充分明白ニ示スヲ得ヘシ北滿ニ於ケル南滿鐵道ノ計画ハ一例ヲ挙クレハ齊齊哈爾―黒河線ノ如シ

次官

齊―黒線ノ計画ヲ聞キタルコトアリヤ

コツプ

賓黒線ノ計画ノコトナリ(トテ前言ヲ正セリ)地図ナキニ付明示シ難キモ其ノ計画アルコトヲ茲ニ確言ス

大臣

仮令南滿鐵道ニ斯ル計画アリトスルモ南滿鐵道ハ之ヲ実行スルコト能ハサルヘシ併シ支那ハ之ヲ布設スルコトヲ得ヘシ

黒竜江省長吳俊陞カ紐育「トリビューン」ノ「マヂン」ニ語レル新聞記事中ニ左ノ文句アリ

Heilungkiang province from now will be developed by Chinese for Chinese and with Chinese capital.

之ハ吳氏ノ確信ヲ言ヒタルモノニシテ總テノ支那人モ亦同様ノ確信ヲ有スヘシト思ハル

南滿鐵道カ滿州ニ於テ新ニ鐵道ヲ布設シ且之ヲ經營スルコトハ今後到底有リ得ヘキコトニアラス南滿鐵道カ賓黒

ル)及新聞ノ論調ハ北滿ニ於ケル露國國境ニ至ル鐵道布設ニ日本ノ資本ノ参加ヲ純然タル經濟的問題ト見做サス明白ニ政治的意義ヲ有スルモノト唱ヘ居リ毫モ隱蔽スルトコロナシ

故ニ北滿ニ於ケル滿鉄ノ鐵道布設計画ハ政治的意義ヲ有シ単ニ之ヲ機會均等主義ニ依ルモノナリトスルハ余リニ形式論ニ馳セタルモノナリ

露國又ハ米國カ機會均等主義ニ依リ例ヘハ奉天―朝鮮鐵道布設ノ計画ヲ立テタリトセンカ必スヤ日本ハ之ヲ以テ機會均等主義ト見スシテ政治的意義ヲ有スルモノト見ルヘシ

故ニ右例ヲ熟考セラレテ我方ノ見地ヲ了解セラレムコトヲ希望ス

大臣

南滿鐵道ノ北滿ニ於ケル鐵道布設計画アリトノコトナルカソレハ如何ナル計画ヲ指スヤ又北滿ノ如何ナル方面ニ於テナルヤ

コツプ

地理學的術語ヲ以テ示スコトヲ困難トスルカ地図ニヨレ

線ヲ布設スル計画ノ如キハ到底實現セララルコトナカルヘシ併シ支那ハ之ヲ布設スルヤモ知レス

故ニ露國ハ結局具體的ニ言ハハ日本政府ニ対シ何ヲ求めムトセラルルヤ伺ヒタシ

コツプ

私モ新聞ニ於テ吳ノ言ヲ讀ミ注意ヲ払ヒタル次第ナルカ露國ハ支那ノ行フコトニ付テハ支那ト相談スヘシ併シ鐵道計画ハ支那ノ紙上ニ書キアルトモ計画其ノ物ハ支那ノ計画ニアラスシテ南滿鐵道ノ計画ナリ

滿州ニ於ケル鐵道經濟問題ハ日露支三国ニ於テ協定スヘキモノナリトノ意見ハ露國政府ノ保持スルコロロニシテスル協定ハ早晚實現セララルコトトナルヘク且其ノ協定ノ早ク行ハレムコトヲ希望ス

私ハ日本政府トノ間ニ滿州鐵道問題ニ関シ互ニ報道ヲ交換シ如何ナル計画アルヤヲ互ニ通知スルハ双方ニトリ極メテ有益ノコトナリト認ム

私ハ支那ヲ尊重シツツ斯ル報道ノ交換相互ノ計画ノ通知ヲ為シ以テ日露兩國間ニ紛争ノ起生ヲ防カムコトヲ計ル為メ日本政府ト協議セムト欲スルモノナリ根拠ヲ有セサ

ル風説ニ基キ判断スルコトハ公正ニアラス岐路ニ入ルコトアルヘシ故ニ大臣ハ實際上斯ル報道ノ交換ヲ有益又ハ可能ト認メラルルヤ否ヤヲ伺ヒタシ

大臣

報道ハ日露支三国間ニ交換セントスル意ナルヤ

コツプ

然リ

大臣

然ラハ支那ハ承諾セサルヘシ支那ハ滿州ニ於ケル鐵道施設ハ支那ノ仕事ナルコトヲ信シ居ルニ依リ三国間ニ報道ノ交換ヲ為スコトヲ承諾セサルヘシ

コツプ

支那ノ態度ニ付テハ暫ク措キ御伺ヒシタキハ日本ハ機會均等主義ヲ利用セムコトヲ希望スル限リ露國ノ利害ニ関スル問題ニ付テモ報道ヲ与ヘ得ルヤ

大臣

三国間ニ意見ノ交換ヲ為サムトスルモノナラハソレハ實際ニ行ハルルコトニアラス若シ日露間ニ鐵道問題ニ関シ予メ報道ヲ交換スル協定成立シタリトセハ支那ハ之ヲ如

天ノ落ちタル場合ノ如キ架空の問題ニアラス

支那ハ滿州問題ニ関スル日露間ノ平和維持ニハ利害關係ヲ有スト思フ

大臣

支那ニトリテハ或ハ日露間ノ競争反目カ自國ノ為有利ナリト考フルヤモ知レス日露間ニ於ケル報道交換ノ協定ヲ支那ヲシテ認メシメムトセハ支那ハ認ムヘシト思ハルルナラハソレハ誤リニシテ支那ハ決シテ之ヲ承諾スルコトナカルヘク天カ落ちタル場合ト同シク不可能事ナリ

コツプ

私ハ支那ニモ何人ニモ強制スルノ意思ヲ有セス私ハ滿州ニ於ケル平和維持ニ付日露支三国ニ有益ナル形式ヲ見出サムト欲スルニアルコトヲ考量セラレタシ

終リニ臨ミ「ソヴィエト」政府ハ旧帝政政府ト異リヨク滿州ニ於ケル日本ノ利害關係ヲ了解シ日本ト相提携シテ極東ニ於ケル永久的平和ヲ維持スルニ熱心ナルコトヲ声明シ同シク日本モ亦露國ニ対シスクアラムコトヲ望ム

大臣

滿州ニ於テ日露間ノ争鬭ヲ避ケ親善關係ヲ保持スルノ必

何ニ考フヘキヤ

支那カ實黒線布設計画ニ付日本ノ参加ヲ求ムル場合日本ニ於テ之ニ答フルニ先チ露國ト協議スルナラハ支那ハ日露カ支那ノ計画ヲ掣肘スルモノナリト認ムヘシ其ノ結果鐵道施設ニ要スル資本ノ供給、材料ノ売込、工事ノ請負ニ付テハ支那ハ日露ノ掣肘ヲ免レムカ為日露以外ノ国例ヘハ英米等ニ申込ムニ至ルヘク然ラハ予メ報道ノ交換ヲ為スコト協定ハ遂ニ其ノ目的ヲ達セサルノミナラス偶々第三國ノ活動ヲ促スコト結果トナルコト明瞭ナリ

コツプ

大臣ノ言ヲ了解セリ

矯激ニシテ確定的言語ヲ用ヒ或ハ大臣ノ御立腹ナキヤヤ恐ルルモ若シ支那カ承諾スレハ日本ハ斯ル報道ノ交換ヲ為サルルヤ否ヤ

大臣

ソレハ天カ落ちタラハ之ヲ拾フヤ否ヤト言フカ如キ間ニテ之ニ答フルハ何等ノ益ナキコトト思フ

コツプ

要ヲ痛切ニ感シ居ルトコロナリ併シ大使ノ述ヘラレタル方法即支那ノ鐵道計画ニ参加スルノ問題ニ関シ予メ露國ト相談セムトスルノ提議ハ三国間ノ誤解ヲ一掃シ平和ヲ確保スルニハ有効ナラス他ニ何カ考ヘサルヘカラスト思フ

コツプ

大臣ノ言ヲ歓迎ス

兩國ノ政治家ハ之ヲ考ヘサルヘカラスト思フ支那ヲ除外シテ兩國間ニ相談セムトスルカ如キコトハ之ヲ提議セス又実情之ヲ許スモノニアラス鐵道布設計画ニ付テハ支那ノ承諾シタル後ニ於テノミ相談ヲ為シ得ヘシ報道交換ノ實現ニ付テノ詳細ニハ這入ラサルヘシ

只大臣ノ注意ヲ願ヒタキハ私ハ日露カ支那ヲ除外シテ何等カヲ計画スルノ意ニアラサルコトヲ明白ニシタキコトニアリ私ハ何等支那除外ノ如キ提議ヲ為サス

今回ノ意見交換ニハ「セレブリヤコフ」氏モ参加シタルニ依リ同氏ハ莫斯科ニ歸リタル上日本ハ我方ノ見地ヲヨク了解シ極東ニ於テ兩國ノ平和的生活ニ實際到達スヘキ途ヲ求ムルニ熱心ナルコトヲ莫斯科政府ニ報告スヘシ

大臣

大使ノ提議ハ或ハ誤解シ居ルヤモ知レサルカ滿州ニ於テ支那カ鐵道ヲ布設スル場合日本カ之ニ要スル資本ノ供給、材料ノ売込、工事ノ請負ヲ引受ケタルトキハ露政府ニ予告スル約束ヲ為シ支那ノ同意ヲ求メムトスル提議ナリシヤ之ヲ明ニシ置キタシ
コツプ

只今明確ナル formula ヲ与フルコトハ困難トスルカ私ハ「セレブリヤコフ」氏ノ意見ヲ提出シタルモノニテ滿州ニ於ケル鐵道布設問題ニ付互ニ利害關係ヲ有スル場合三國間ニ相談シタシト云フニアリテ何日、誰カ、如何ニ相談スルカト言フ其ノ Procedure ハ重要ナリト雖右根本的思想ヲ定メタル後ニ於テ為スヘキコトト思フ

大臣

ヨク了解シ得サルカ例之吳氏カ賓黒鐵道布設ノ計画ヲ為シ返リニ其ノ一部ノ材料購入、工事ノ請負ヲ日本ノ会社ニ申込ムコトアリタリトセハ日露支間ニ打合せヲ為スト
言フ話ナリヤ
コツプ

鐵道モ同様ノ態度ニ出ツル様大臣ノ御援助ヲ切望ス

大臣

喜ムテ援助スヘシ
先日南滿鐵道副總裁ニ対シ僅ニ貨客ノ奪合ニ付互ニ不要ナル競争ヲ為シ喧嘩ヲ為スコトハ良シカラス之ハ甚タ醜態ナリトテ之ヲ避クル様勸告シタルトコロ副總裁ハヨク了解セリ就テハ東支、烏鉄ニ対シテモ同様競争ヲ避クル様勸告セラレタシ

東支カ東支ノ南部支線ヲ利用シテ貨物ノ吸収ニ極端ナル手段ヲ執リタルニ依リ南滿鐵道ハ之カ對抗策ヲ講セサルヘカラサルニ至リシモノナリ

東支鐵道モ南滿鐵道モ之ヨリ新規葺キ直シヲ為シ新シキ好意の基礎ニ於テ双方間ニ協定ヲ為スコトトシタク東支カ運賃政策ヲ以テ貨物ノ吸収ヲ計リ以テ南滿ト不必要ナル競争ヲ為スカ如キコトナカラムコトヲ希望ス滿鉄ニ関スル限り「セレブリヤコフ」氏ノ希望ヲ伝フヘシ

セレブリヤコフ

承知セリ

コツプ

其ノ意ナリ北滿ニ於ケル鐵道布設計画ニ日本カ例ヘハ南滿州鐵道カ参加スルトセハ勿論スル計画ニハ三國間ニ相談ヲ為スコトトシタシト言フニアリテ之ヲ具體的ニ如何ニ為スヘキヤニ付テハ言ヒ居ラス
大臣

ヨク考ヘサレハ頭ニ入ラサルカ例ヘハ日本カ露國ニ通知スルト共ニ支那モ亦露國ニ通知スルヲ要スル義務アリトセラルルヤ若シ然ラハ支那ハ承知セサルヘシ併シ具體的 formula ニ付テハ考フヘシ誠心誠意日露兩國及支那トノ平和政策ヲ保持シ不必要ナル争鬭ヲ避ケントスルコトハ日本政府ノ確定セル方針ニシテ私共ハ之カ達成ニ努力スルモノナルニ依リ「セレブリヤコフ」氏ハ莫斯科政府ニ其ノ趣旨ヲ伝ヘラレムコトヲ希望ス
コツプ

双方ニ於テ考フルコトトスヘシ
セレブリヤコフ

大臣ノ沢山ノ時間ヲツブシタルコトハ御宥恕アリタシ私ハ東支及烏鉄ノ当局ト相談シテ南滿鐵道トノ間ニ於ケル緊急問題ヲ良好ニ解決スルコトニ努力スヘキニ依リ南滿

私ハ滿州ニ於ケル鐵道問題ニ付テハ敢テ東支特ニ「イワノフ」ノ行為ヲ弁護セムトスルモノニアラス併シ滿鉄ニモ亦罪アリ今後ハ兩鐵道トモ好意の態度ヲ以テ協定スルヲ可ナリト思フ

大臣

同感ナリ

(山口領事記)

編註 「滿州ニ於ケル鐵道問題ニ關スル日ソ間会谈要領」ハ六月一日付並一機密合第六四三号ヲ以テ幣原外務大臣ヨリ在米、在英、在仏各大使宛ニ送付サレタ

(付記)

セレブリヤコフノ来朝ト滿州ニ於ケル鐵道敷設問題ニ關スル件

甲「セ」来朝ノ使命

一、「セレブリヤコフ」来朝ノ使命ニ付テハ從來「コツプ」大使屢次来訪ノ行懸ニ顧ミ將又田中大使ノ電報ニ依リ大體滿州ニ於ケル鐵道敷設問題ニ關シ我方ト討議ノ結果一定ノ協定若ハ諒解ヲ遂ケムトスルニ在ルコト想像ニ難カラサル処其ノ来朝ヲ早カラシメタルモノハ最近支那ニ於ケル露國勢力逆転ノ大勢殊ニ張作霖ノ東支沿線ニ於ケル

露国勢力駆逐策着々其ノ効ヲ奏セムトスル折柄洮昂線ノ
 齊齊哈爾ニ至ル延長問題並賓黒線ノ一部工事開始等ニ刺
 戟セラレタルモノト認メラル而シテ露国政府カ特ニ交通
 次長タル「セ」ヲ派遣シタル所以ノモノハ「カラハン」「イ
 ワノフ」ノ積極政策失敗ノ兆歴然タルニ顧ミ従来ノ方針
 ヲ変更シ經濟交通上ノ見地ヨリ滿州ニ於ケル日本及支那
 トノ關係ヲ調整セムカ為ナリト伝ヘラルル処田中大使ニ
 対スル「チチエリン」ノ応酬振ニ徴スルニ或ハ東支ノ北部
 ニ於テ之ト「ゲージ」ヲ異ニスル鉄道ヲ敷設スルハ露国
 ノ利益ニ対スル大ナル脅威ナリト云ヒ或ハ「セ」ヲシテ
 右「ゲージ」問題ト共ニ東支以北ニ鉄道建設ヲ為ササル
 コトヲ議セシメ度シト云ヒ明ニ東支線ヲ堺トシ其ノ以北
 ヲ一種自國ノ勢力範圍ト目シ之カ擁護ノ目的ヲ以テ「セ」
 ヲシテ我方ト一定ノ勢力範圍協定ヲ遂ケシメムト欲スル
 モノノ如シ即チ露国政府ハ「カラハン」「イワノフ」ノ
 積極的行動ニ依リ達成シ得サリシ所ヲ消極的ニ談議協商
 ニ依リ達成セムト欲スルモノニ外ナラスト観測セララル

二、大正十五年五月十五日在本邦「コツプ」露国大使ハ露
 国交通次長「セレブリアコフ」ヲ帯同シ挨拶旁々幣原外

務大臣及出淵外務次官ヲ来訪シ「コツプ」大使ヨリ予テ
 同大使及日本外務省側間ニ懇談ヲ行ヒ居タル滿州ニ於ケ
 ル日露間ノ關係ニ付「セレブリアコフ」滯京中何等カ解
 決ヲ得度キ旨ヲ述ヘタルニ付幣原大臣ハ右ハ何ヲ指サヤ
 ト尋ネタルニ「コツプ」大使ハ右ハ滿州ニ於ケル日露兩
 國ノ利害ノ調節ヲ目的トスル協定又ハ了解ニ到達センコ
 トヲ期スルモノナリト答ヘタルヲ以テ之ニ對シ幣原大臣
 ハ実ハ「セ」交通次長ノ来朝ニ関シテハ既ニ支那側ニ於
 テ右ノ結果東京ニ於テ滿州問題ニ関シ日露秘密協定行ハ
 ルヘシ等疑惑危惧ノ念ヲ抱キ居ル処滿州問題ニ関シ支那
 ヲ差置キ日露兩國間ニ私カニ協定ヲ遂クルカ如キハ國際
 信義上不得策ナルノミナラス仮令之ヲナストモ右ハ支那
 側ノ同意ナクシテハ実行不可能ナルヘク此際斯ノ如キ協
 定又ハ了解ヲ遂クルコトハ有害無益ニ終ルヘシト思考セ
 ラル故ニ此際ハ単ニ日露間ノ諸問題ニ関シ意見ヲ交換ス
 ルニ止メラレ度シト述ヘタルニ「コツプ」大使並「セ」
 交通次長モ之ニ同意シテ辞去シタリ

(乙)右ニ對スル我方ノ態度及方針

一、滿蒙ニ於ケル日露勢力範圍ノ確定問題ニ對スル我方ノ
 態度及方針ハ当初ニ於テ之ヲ左ノ趣旨ニ依リ宣明スルコ
 トヲ可ナリトス

一、滿蒙ニ於ケル日露勢力範圍ノ確定問題ニ對スル我方ノ

シムルヨリ外無ク同鉄道布設ニ對シテモ今後外國ハ借
 款、工事請負、材料供給等ニヨリテノミ之ヲ援助シ得
 ヘシ

(イ)日露戰爭後日露兩國ハ互ニ衝突ヲ避ケムカ為勢力範圍
 等ヲ協定スルノ要アリタルモ今日ノ日露關係ニ鑑ミ相
 互ニ戰爭ヲ想像スルノ要モナク又日本ハ少クトモ勢力
 範圍ノ政策ハ之ヲ捨テ正當ナル商工業ノ活動ニ就テハ
 機會均等主義ヲ確立シ華府會議ニ於テモ之ヲ宣言シタ
 リ恐ク露国ニ於テモ同意見ナルヘシト信ス從テ此主義
 ニ抵触スルカ如キ措置ニ對シテハ日本ハ之ニ同意シ難
 シ

二、鉄道軌幅問題

(ロ)滿蒙ハ支那ノ領土ナルコト一点ノ疑無キヲ以テ同地方
 ニ於ケル一切ノ事ニ就キ支那ノ主權ニ重キヲ置キ其ノ
 意思ヲ尊重セサルヲ得ス鉄道計画ト雖何人モ首肯シ得
 ル重大明白ナル理由無キ限り日露兩國共之ニ干渉スル
 コトヲ得サルヘシ

從テ將來滿州ニ於テ東支又ハ南滿鐵道ノ如キ外國ノ專
 屬的管理 exclusive administration ノ下ニアル鐵道
 ノ布設ハ到底予想シ得ス今後ハ結局支那本土ニ於ケル
 ト同様支那ノ鐵道トシテ支那自身ノ意思ノ下ニ布設セ

果シテ然ラハ「ゲージ」問題ニ付テモ右ハ全ク支那ノ意
 思如何ニヨルモノニシテ日露等外國ノ容喙シ得サル処ナ
 ルノミナラス忌憚ナク云ヘハ支那全土ニ於テ東支ヲ除キ
 悉ク標準軌幅鐵道布設セラレ居ルニ鑑ミ今更五呎軌幅ヲ
 支那ニ強制スルカ如キハ不自然不利益ニシテ假令東支鉄
 道給養線ト雖支那カ布設スル場合之ヲ標準軌幅トナスハ
 当然ノコトニシテ右ニ對シ外國ノ干渉スヘキ筋合ニ非ス
 現ニ先年支那ノ交通部會議ハ支那鐵道軌制統一ノ主義ヲ
 確立セリ

三、日露ノ鐵道ニ関スル相互利益尊重問題

露国側ニ於テ滿州ニ於ケル日露兩國ノ有スル鐵道ニ関シ互ニ其利益ヲ尊重スルノ主義ヲ確立セシムコトヲ提議スル場合主義上互ニ其利益ヲ尊重シ非友誼的行動ニ出テサルヘキハ当然ノコトニシテ之ニ反対スヘキ理由ナシ然リト雖モ右ニ就キテハ更ニ一步ヲ進メ具体的ニ如何ナル鐵道計画カ各自ノ利益ニ反スルヤノ問題ニ触ルルニ非スンハ予メ適確ニ意見ヲ發表スルコト困難ナリ乍然各自ノ将来希望スル鐵道計画ヲ明確ニシ互ニ之ヲ相犯ササルコトヲ約スルカ如キハ結局實際上勢力範圍ヲ画定スルモノトナル処右ハ前項(一)ニ述ヘタルカ如ク現時ノ國際政局ノ趨勢ニ鑑ミ將又支那ノ國論ニ徴シ日本政府ノ到底同意シ難キ処ナリ加之支那ニ於テハ最近鐵道国有ノ原則ヲ樹テ其布設スル鐵道ニ対シ外國ノ援助ヲ求ムル場合ニ於テモ右ハ單ニ資金材料若ハ技術上ノ点ニ止ムルノ決意ヲ有スルニモ鑑ミ支那ノ意向ヲ無視シテ日露間ニ支那領土タル滿州ニ於ケル鐵道ノ位置布設ノ順序等所謂鐵道計画ニ付予メ一定ノ協定ヲナスカ如キハ國際信義上不可ナルノミナラス事實上実行不可能ナリ蓋シ仮ニ右ニ付日露間ニ

テハ契約及商行為ノ自由ヲ束縛スルコトトナリ政府ト雖モ命令的ニ之ヲ実行セシムルコトヲ得サルノミナラス他ノ方面ニ活動スル日本國民若クハ会社ニ対スル關係上不公平ニ失スルコトナクシテ鐵道ニ対シテノミ之ヲ取締ルコト能ハス要スルニ東支南滿ノ活動上利害ノ衝突アリトセハ運輸連絡、運賃又ハ貨物吸集ニ関スル競争ニ帰着スヘシ右ハ兩鐵道當業者間ニ於テ共存共榮並ニ協力ノ精神ヲ以テ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヘハ其ノ利益ノ調節ノミナラス相互扶助ノ方法ヲモ容易ニ発見シ得ヘシト信ス右ノ点ニ付テハ東支鐵道側及南滿鐵道側ニ於テハ從來寧ロ東支南線ニ依リ北行及南行貨物ノ吸集ニ関シ不利益且不自然ナル競争ヲナシツツアル状態ナルニ照シ双方ニ於テ從來ノ誤解及行懸ヲ一掃シテ独り東支南線ノミナラス他ノ諸鐵道ニ對シテモ速ニ日露支三国ノ鐵道當業者間ニ運賃協定及鐵道連絡會議等ヲ開始スレハ容易ニ相互ノ利益調節ノ途ヲ発見シ得ヘシト確信ス

五、賓黑線問題

賓黑鐵道呼海線ニ関シ露国側ニ於テ何等異議ヲ申立ツル

協定ヲ遂ケタリトスルモ支那カ之ト異ル鐵道計画ヲ樹ツルニ於テハ日露兩國ト雖モ右ヲ制禦スルニ由ナキ他方支那ノ現状ニ照シスル協定ニ對シ予メ支那ノ諒解ヲ求ムルコト不可能ナレハナリ

四、鐵道ニ関スル契約ノ予告

露国側ニ於テ滿州ニ於ケル鐵道ニ對スル資金材料ノ供給又ハ工事請負ニ付支那及日露ノ個人又ハ会社間ニ契約商議中若ハ締結前予メ他方ノ政府ニ予告シ協議シ以テ利害ノ衝突ヲ避クルコトヲ提議スル場合アルヘシ

右ニ付テハ日露兩國ノ個人又ハ会社カ支那側ト契約締結後相互ニ(例ハ滿州ニ於ケル鐵道ニ関シ最モ利害關係ヲ有スル東支滿鉄間ニ連絡ヲトリ)之ニ付諒解ヲ遂ケ又ハ協同行為ヲ為スカ如キハ必スシモ不可能ニ非ルヘシ乍然右ノ如キ契約ニ関スル商談開始中又ハ契約締結前予メ右ニ付日露兩國政府若ハ兩國ノ個人又ハ会社間ニ協議スヘキヲ約スルカ如キハ單純ナル商行為ニ付一々予メ他國政府又ハ自己ト競争的地位ニアル他國商事会社等ニ之ヲ通報セシメントスルモノニシテ商機ヲ逸シ商事会社ノ活動ヲ不可能ナラシムルモノナリ右ハ少クトモ日本ニ於

コトアルヘシ乍然右ハ支那自身北滿開發ノ趣意ヨリ計画セルモノニシテ滿鉄ハ之ニ對シ材料供給ナル最モ單純ナル商行為ヲナセルニ過キササルノミナラス本鐵道ハ滿鉄ト連絡ナキモノナルニ付滿鉄カ自己ノ鐵道利益ノ為之ヲナセルニ非サルハ明ナリ將又該線路計画乃至東支線トノ接続關係ノ如キハ支那自身之ヲ考慮シ必要アラハ東支側トモ協議スヘキモノト信ス加之本線ハ元來東支鐵道ノ給養線トナルヘキモノニシテ右布設カ東支ノ利益ヲ侵害ストハ思考セラレス況ンヤ單ナル材料供給カ東支ノ緊切ナル利益ヲ害スルモノトハ想像シ得ス但シ若シ東支側ニ於テ之カ軌幅ヲ東支ト同様ニスルニ非スンハ東支ノ利益ヲ害スルモノナリトノ意見ナレハ右ハ第三項ニ詳述セル理由ニ依リ日本ハ東支側ノ主張ノ方無理ナラスヤト思考ス

六、洮齊線ノ東支鐵道橫斷問題

支那側ニ於テハ既ニ齊齊哈爾昂昂溪間輕便鐵道ヲ布設シ居レル処之ヲ標準軌幅ニ改メ且滿州ノ鐵道網完成ノ為右ヲ洮昂線ト連絡セントスルノ意思ヲ有スル場合日本トシテハ之ニ反対シ又ハ右ヲ差止ムル理由一モ無シ現ニ南滿鐵道ハ奉天ニ於テ京奉南滿兩鐵道ヲ交叉スル線ノ布設

ヲ承諾シタルモノ之ニ依リ何等ノ不自由ヲ生セサリキ而シテ右京奉線ハ奉海線ノ布設ト相俟チ南滿鐵道ノ兩側ノ交通ヲ完成スルコトナル処右ニ對シテモ滿鉄ハ何等異議ヲ挾マサルノミナラス之カ完成ヲ援助シ居レル次第ナリ

洮齊線ト東支鐵道トノ關係亦同様ナリト信ス
最後ニ滿州ニ於ケル支那ノ鐵道布設ニ對スル借款ノ問題ニ付テハ日本トシテハ滿蒙四鐵道中ノ所謂留保線以外ニ付借款ヲ引受ケタル場合ニハ之ヲ借款團ニ提供シ其ノ共同事業トナスノ義務アリ從テ日本ハ露國ト其ノ立場ヲ異ニシ借款團ヲ無視シテ露國トノミ特別ノ協定ヲ遂ケ得サル地位ニア

ルコトヲ此ノ機會ニ於テ明言スルコトノ必要ヲ信ス
(大正十五年五月十七日)

(欄外記入)

幣原外務大臣「セ」トノ會談ノ際ノ資料トシテ亜局ニ於テ作製シタルモノナリ 五月二十四日受之宮崎(印)

「セレブリヤコフ」ノ略歴

千八百八十八年ニ生ル、一労働者ニシテ帝政時代革命運動ノ為メ投獄セラルルコト十二回流刑ニ処セラルルコト五回ニ及ヘリ一九一七年ノ革命ノ際ハ專ラ国内ニ於テ活動シ莫

理事會ノ例会ニ上程スヘキ筋合ノ小問題ニシテ予備會議ハ宛然理事會場ヲ哈爾濱ヨリ奉天ニ移セルニ過キササルノ觀アリ即チ採決サレタル事項ハ

(一)理事會ノ監査課長後任ニ劉沢榮(前理財課長代理)ヲ採用スル件

(二)東鉄用語ヲ露支両語トスルノ件

(三)管理局及理事會ノ業務範圍問題ニシテ第一件ハ労働側ニ於テ主義トシテ同課長ニ支那人採用ヲ認メタルニ非スシテ単ニ他ニ適材見付カラサリシ為ナルカ故ニ劉課長辭職ノ際ハ当然先ツ「ソヴィエト」側ヨリ後任者ヲ物色スヘシトノ諒解成立シタリト謂フ

第二件ハ今後支那語モ露西亜語同様東鉄事務用語トシテ認メラルルモノ之ヲ直ニ実行センカ直ニ業務ノ渋滞ヲ来ス虞アルカ故ニ徐々ニ実行スルコトニ双方ノ意見一致シ

第三件ハ従来ノ通理事會ハ最高指導機關トシ管理局ハ其指令ノ執行機關トイフ原則ヲ事新シク双方ニ於テ確認シタルニ止リ權限規定中ニ何等ノ改変ヲ加ヘタルモノニ非ス次テ最後ノ第六回予備會議ハ予定ノ二十一日カ延期サレ二十四日ニ至リ漸ク開催サレタルカ同日ハ「セレブリ

斯科「ソヴィエト」幹部會員ニ擧ケラレ其後全露中央執行委員會幹部會員、露西亜共產党中央委員會書記交通人民委員部参与ニ歷任シ露支協定成立後東支鐵道副理事長ニ任命セラルヘシトノ噂アリタルカ實現セラルルニ至ラス現在ハ交通人民委員部次長兼全露中央執行委員會員タリ

四四四 六月一日 在ハルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

奉ソ會議ノ經過ニツキ報告ノ件

機密第四〇九号

大正十五年六月一日

在哈爾濱

總領事 天羽 英二(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

蘇奉會議ノ經過ニ関スル件

蘇奉會議ニ関シ杉原書記生ノ蒐集シタル各方面ヨリノ情報ヲ綜合スルニ今迄ノ經過概ネ左ノ如シ

蘇奉會議ノ予備會議ハ兩國委員カ客月十五日乃至十九日間哈爾濱ヲ往復シタル前三五回其後二一回都合六回開カレタルカ最初ノ五回ニ於テ討議決定サレタル事項ハ全ク

ヤコフヲ除ク他ノ正式會議參加ノ兩國委員全員即チ「ソヴィエト」側ハ委員「ソヴラゾフ」「イズマイロフ」及「クラコヴエツキー」秘書「ニルス」支那側ハ代表劉尚清委員呂榮寰・郭福綿・趙金麟・沈鴻烈・魏紹周(哈爾濱海關區監察官)馮維德(地畝局副局長)孫柏芳(特別區行政長官公署內務課長)及崔秘書等ノ顔合セヲ行ヒタル後正式本會後ニ上程スヘキ諸問題ノ下審議ヲ行フ委員會ノ設置及其規程ニ関スル件ヲ討議セルニ止マル而シテ翌二十五日ニハ赴日中ノ「セレブリヤコフ」代表婦奉セルヲ以テ二十六日愈兩國側全員出席ノ上正式會議開カレタルカ同日モ劉及「セ」兩代表ノ挨拶交換ノ後一同喫餐ヲ共ニシタルノミニテ次回會商ヲ二十八日ニ約シ散會セリ

惟フニ奉天ニ予備會議ノ開カルルコト前後六回之ニ要セル日子実ニ二十六日ニ及ヘルニモ拘ラス會議ノ目的トスル重要問題ハ一トシテ解決サレサルノミナラス審議ニモ上程サレスシテ會議ハ一見全ク停頓ノ状態ニアルハ一ニ支那側ノ態度強硬ナルト労働側ニ於テ故意ニ會議ヲ遷延セムトスル為ニ基クナルヘシ即チ最初「セ」カ莫斯科ヨ

リ来哈シテ「ソヴラソフ」ヲシテ支那側ト東支問題善後交渉ノ下打合せヲ為サシメタル当時ノ状況並「セ」カ東鐵機關誌「ヴェストニツク・マンヂユリー」乃至ハ新聞紙ヲ通シテ發表セル「ステートメント」ニ於テ自己ノ使命ハ主トシテ東支問題ノ解決ニアリト声明セル事實等ニ照シ支那側トシテハ奉天ニ開カルヘキ蘇奉會議ノ目的ハ一ニ東支問題ニ對シテ兩國当局ノ衝突ヲ醸セル懸案ヲ解決スルニ在リトノミ思考シイタル処「ソヴイエト」側ハ「セ」ノ赴燕「カラハン」トノ会见以來張・吳ノ關係ノ到底治マラサルヲ期待スル一方馮玉祥ノ再舉説・広東政府内ニ於ケル赤系勢力ノ復活セル事實等ヲ考慮ニ入レ出来得ル限り奉天會議ヲ遷延セシメントシ努メテ各種ノ問題ヲ持チ出スノ方針ニ出テタリ從テ「セ」カ日本ニ向ケ奉天ヲ去レル後ノ第三回予備會議ニ於テ双方ヨリ議案ヲ提出スルコトトナレル際支那側ハ前述ノ如キ觀測ノ下ニ純鐵道關係問題トシテ

- 一、管理局長権限並露支兩國従業員平等採用ニ關スル問題
- 二、軍隊輸送問題

八、「ソ」政府ニ屬スル車輛ノ返還並之カ使用料金ノ決濟問題

九、護路軍ニ對スル關係設定問題

一〇、「ソヴイエト」公民並機關ノ法律上ノ地位ニ關スル問題

一一、鐵道付屬地ノ教育問題

一二、「ソヴイエト」公民ノ文化並職業団体ノ要求ニ關スル問題

一三、露奉協定第十一条ノ実施問題（支那官庁ニ於ケル白系露人採用ニ關スル件）

一四、露支國境ニ於ケル馬賊ニ對スル共同防衛策問題

一五、「ソ」政府又ハ鐵道ニ屬スル財産ニシテ目下支那官庁ノ利用スルモノノ返還問題

一六、市会ニ於ケル「ソ」連邦公民ノ利益代表問題

一七、「ソ」連邦鐵道トノ旅客、貨物直通無乗換連絡問題

一八、露亜銀行ニ對スル損害賠償請求問題

等ニ亘レルヲ以テ支那側ハ奉露協定中直接東支ニ關スル問題ヲノミ審議スルニ止メ他ノ問題ハ更ニ政治方面ノ専門家ヲ加ヘテ審議ス可キモノナリト強硬ニ主張セルモ

一、護路軍經費問題

一、鐵道通貨トシテ大洋票ヲ採用スルノ問題

一、鐵道収益金保管問題

其他ノ外五、六個ノ秘密問題（此ノ中ニハ「オストロウーモフ」「ゴンダッチ」等拘禁ニ對スル交換条件トシテ「ソヴイエト」側ノ約セル讓歩問題ノ後始末ヲ含ムト謂フ）ヲ出セルニ對シ「ソヴイエト」側ノ提案ハ東支鐵道問題ノ範圍ヲ遙カニ越ヘ

一、鐵道所屬土地問題（營業ニ直接必要ナル土地ノ限定、不必要ト認ムル土地ヲ支那政府ニ返却スルニ對スル同政府ノ償還金問題等）

二、松花江航行問題及東支船舶問題

三、督弁公署廢止問題

四、鐵道ノ「ソ」政府ニ對スル債務ノ利息支払問題

五、「ソ」政府ニ於テ為ス鐵道稅関証券ニ對スル支払履行問題

六、東支鐵道ニ通スル地方鐵道及街道敷設並其資金調達

問題

七、徵稅問題ニ對スル相互關係設定

「ソ」側ハ奉露協定ヲ背景トスル會議タル以上東支問題ノミヲ切り離シ先キニ審議スルモ何等結果ヲ齎ラササル可ク其他ノ政治問題ヲモ合セ且同時ニ協議スヘシトノ主張ヲ固守シテ讓ラス支那側亦勞ラス之ニ応酬セル結果「ソ」側ハ遂ニ自方案ニシテ容レラレサルニ於テハ曩ニ「セ」カ哈爾濱ニテ与ヘタル主義的承認ハ無効タルヘシトノ最後通牒的言辭ヲ弄シタル為支那側ニ於テモ一考ノ上斯カル「ソ」側ノ態度ヲ甚タ不滿トスルモ一面此際奉露協定ヲ中心トスル政治問題ヲモ併セ審議シ置クハ殊更拒ム所ニ非サレト之カ為メニハ先ツ「セ」ノ中央ヨリ受ケ居ル権限ヲ確ムルノ要モアリ若シ「セ」ニシテ之等問題ノ審議ヲ為ス権限ヲ有スル場合ニハ「ソ」側ヲシテ東支問題ノ審議承諾ヲ先決問題タラシムヘシト主張スルコトニ腹ヲ定メ不本意ナカラ「セ」ノ帰奉迄重要問題ノ会商ヲ見合スコトトシタリ

右時節柄何等御参考迄報告ス

本信写送付先 在露大使 在支公使 在奉天總領事

四四五 六月五日(着)

在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東支・ウスリー・満鉄ノ三鉄道連合会議等ニ

関スルセレブリヤコフ談話及ビ同人ノ对中国

方針ニツイテノ呂榮實ノ内話報告ノ件

第一八三号

「セレブリヤコフ」ニ昨四日面談ノ処彼ハ日本ニ於ケル歡迎ヲ謝シタル後自分ハ北滿新鉄道布設ニ付日露ノ間ニ充分ノ了解ヲ得タキ希望ニテ渡日シ貴国要路ト面会大ニ得ル処アリ又労働側ノ意志モ帝国政府ノ了解ヲ得タリト信ス今後ハ一兩日中ニ出發シ哈爾濱經由浦潮ニ至リ東支「ウスリー」南滿三鉄道連絡ノ為メ連合会議ヲ開ク下準備ヲナサントス奉露協議ハ初メ進行円滑ナリシモ最近ハ支那側ヨリ兎角異論ノミ出テ会議稍々停顿ノ姿ナリ其内何トカナルヘキカ主ナル問題ハ東支鉄道内部ノ問題ニ関シ三鉄道連絡ニハ関係ナシ從來ハ兎モ角滿鉄トノ連絡ニ付テハ最モ熱心ニ考ヘ居ル次第ナリ云々

右談話ニ対シ呂榮實ノ内話ニ依レハ曩ニ「セ」カ極東ニ来リシ当初「カラハン」ノ対支外交ヲ全ク失敗トナシ方針一新ノ積リニテ先ツ奉天ニ於テ張作霖其他ト折衝セルニ其後北京ニ至リ「カラハン」等ノ話ヲ聞キ又労働政府モ馮玉祥

任ノ挨拶ヲナシ日本側ト協調ノ必要ヲ述ヘテ援助方希望シタルカ故ニ本官ハ東支南滿トカ漸次協調ノ必要ヲ感シ来リタルハ慶スヘク之カ協調ニ対シテハ出来ル丈ケ援助ヲナスヘシト応酬シ置キタリ九日本官同長官ヲ往訪ノ際「エムシヤ」ノフ「ハ今朝「セレブリヤコフ」奉天ヨリ着数日滞在ノ上浦潮ニ行キ再ヒ奉天ヘ引返スヘキ管ナルカ過般日本当局トノ会談ニ対シテ非常ナル好感ヲ抱ケリト外交辞令ヲ以テ程好ク挨拶シ次テ南滿ト協調ノ必要ヲ述ヘ大蔵理事来哈ノ新聞記事ハ事実ナリヤト問ヒ暗ニ同理事ノ来哈ヲ待チ居ルカ如キ口吻ヲ洩セリ大蔵理事ハ本月下旬滿鉄事務所ノ新築披露ノ為来哈ノ筈ナルカ故ニ自然ニ東支南滿幹部会談ノ機会アルヘキ処右「エムシヤ」ノフ」及往電第一二七号「ジキー」ノ口吻ヨリ察スルニ労働側ハ専ラ労働幹部会ニ対スル交渉ヲ希望シ支那側ハ専ラ支那側幹部会トケトノ談合ヲ期待シ居ルカ故ニ先ツ以テ此間ノ関係ヲ調節スル必要アリ客年九月十六日成立ノ南滿烏蘇里運送数量協定ニ東支ノ参加セザリシ一因モ亦右ノ如キ露支ノ関係ニ基クモノナル事實ニ鑑ミ此点ハ篤ト滿鉄幹部ノ考慮ヲ促スコトト致スヘシ露、北京、奉天ヘ転電シ浦潮、長春ヘ暗送セリ

ヨリ支那政情ヲ新シク種々聴取シ国民党ノ将来ニ付テモ了解スル処アリタル結果從來ノ対支方針ヲ直ニ改ムルノ非ヲ知ルニ至リ旁「セレブリヤコフ」ノ対支意見更ニ変シ嘗テ張作霖ニ対シシタル誓約ノ実行ヲ何トカシテ延ハサント試ミツツアルカ如シ此処ニ奉露協議停顿ヲ来シ「セ」ハ「サブラソフ」ヲ代理者トシテ当地ニ残シ一時身ヲ浦潮方面ニ避ケテ支那政局今後ノ動静ヲ見極ハメ徐ロニ対策ヲ講セント欲スルモノノ如シ云々

北京、吉林、浦潮ヘ転電セリ

編註

「セレブリヤコフ」ハ駐日ソ連邦大使館「クツネツオフ」一等書記官「シヨウペン」交通次長秘書ヲ帯同シ五月二十五日午後一時安奉線列車ニテ着奉シタ

四四六 六月九日

在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

新任エムシヤノフ東支管理局長トノ会談報

告ノ件

第一四〇号

(六月十日接受)

七日「エムシヤ」ノフ「東支長官来訪着任以来東支全線ヲ巡視シ本官亦南滿地方ニ旅行中ナリシ為延引シタリトテ新

四四七 六月十四日

在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛

奉ソ会議ノ停顿ニ至ル經過ニ関シ報告ノ件

機密第四五三号

(六月二十四日接受)

大正十五年六月十四日

在哈爾濱

総領事 天羽 英二(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

蘇奉會議經過ニ関スル件

本月一日付機密第四〇九号拙信報告以後ニ於ケル蘇奉會議經過ニ関シ杉原書記生ノ蒐集セル情報ヲ綜合スルニ左ノ如シ

五月二十七日 午後會議ヲ開キ「ソヴイエト」側ヨリ督弁公署廢止問題

支那側ヨリ局長権限縮小問題ヲ提出協議セルカ遂ニ意見ノ一致ヲ見ス

尚「セレブリヤコフ」ハ渡日後初メテ張作霖ヲ訪問挨拶旁「ソヴイエト」側提出ノ議案全般ニ就キ説明スルトコ

ロアリ

同二十八日 休会 支那側劉代表ハ昨日ノ「セ」対張会見ノ結果ニ基キ張ノ命ヲ受ケ「セ」ヲ訪問約二時間ニ亙リ支那側提出ノ各問題ニ対スル「ソヴイエト」側ノ最後の意向ヲ確メタル後「ソ」側ニシテ提案範圍ヲ幾分縮小スルニ於テハ稍妥協ノ余地アル口吻ヲ洩ラセリト謂フ「ソブラソフ」急遽離奉帰哈ス

同二十九日 休会

同三十日 休会(日曜日)

同三十一日 休会

「ソヴイエト」側秘書「ニルス」ノ手ニ依リ在滿「ソヴイエト」連邦人ノ法律的地位問題ニ関スル広汎ナル覺書作成サル同覺書ハ先ツ特別区市会ノ解散ニ対スル意見ヲ述ヘタル上司法問題(連邦人ノ裁判ニ於テハ本國法ヲ適用シ且連邦人法律顧問ヲ採用スルコト)市政問題「ソヴイエト」連邦人ノ職業同盟団体・文化施設問題ニ関スル特種ノ協定締結ノ必要ヲ説キ之カ同意ヲ支那側ニ求ムル趣旨ナリ

六月一日 「セ」ハ右「ニルス」作成ノ覺書ヲ携ヘテ再ヒ

劉ヲ訪問シ職員數ノ折半及職席ノ均等ヲ認メ而カモ支那側ノ要求スル通重要課長席並副課長席等合セテ二十九個ヲ讓ルヘキヲ確言シ其交換条件トシテ前記覺書ノ無修正承認並「カラハン」大使特權停止ノ撤廢ヲ要求シ最後ニ右以外ノ政治問題ハ凡テ之ヲ本會議ヨリ撤回シテモ可ナリトテ讓歩ノ態度ヲ示セリ

依テ支那側代表ハ爾後楊宇霆及交渉總署代表等ヲ加ヘテ協議ヲ重ネタル結果右ノ如ク「ソヴイエト」側ニ於テ職席折半均等主義ヲ承認スルモ實際ニ於テ支那人間ニ適材ヲ物色スルハ極メテ困難ナルヲ以テ仮令重要ナル課長副課長席ヲ支那人ニヨリ占ムルモ事實上常ニ「ソヴイエト」側ノ課長副課長ニ制肘セラレ結局飾人形ニ終ルヘキ虞アリ故ニ折半均等主義ヲ「ソヴイエト」側ニ認メシムルハ必要ナルモ之カ實施ハ徐々ニ行フノ他ナシト為シ其結果之カ交換条件トシテ露側ノ法律問題ヲ承認シ得サルハ勿論其審議ニモ応スル能ハスト云フニ議一致セリ尚此ノ間楊宇霆ハ假令今次ノ會議ニシテ決裂スルモ軍隊ノ輸送問題ハ軍事上ノ立場ヨリ何等カノ方途ヲ講シ解決シ置クヘシト主張セリ(尚巷間ニハ交渉總署側ハ此際審

議問題ノ性質ニ関スル紛争ヲ打切り一氣ニ東支回収問題ヲ提議シ之カ買収代金ハ留紙幣ヲ以テスヘク若シ其際「ソヴイエト」側ニシテ其對抗策トシテ革命當時支那軍憲並東鉄カ沒收使用スル旧露國所屬ノ多數車輛・船舶・土地・建物財産等ノ代償金ヲ多額ニ見積リ逆襲シ來ルモ尚勝算アリトテ提議セントノ意見ヲ有セシモ張ハ奉天政局ノ現状ニ鑑ミ斯カル國家の大問題ハ之ヲ後日ニ譲ル可シトテ之ヲ思ヒ止マラシメタリトノ風説行ハル)斯クテ八日

支那側ハ「セ」ニ対シ正式ニ右「ニルス」案ニ応シ難キ旨ヲ通告シ東支問題以外ノ審議ヲ拒絶セル為蘇奉會議ハ茲ニ再ヒ停頓シ「セ」ハ「シユープ」秘書ヲ同伴シ九日午前七時当地着帰哈シ十三日浦潮ニ向ヘリ伝フル所ニ拠レハ「セ」ノ浦潮行ハ極東ヲ去ル前ニ一応極東諸問題ヲ解決シ置クノ必要アル為ナリトノコトナルモ其実ハ前記「ソヴイエト」側提案中最重要ナルハ職業同盟ノ公認問題ナルカ之カ為ニ客月二十八日哈市該同盟代表「エシコフ」態々來奉シ其目的貫徹方ヲ極力要求セル關係モアリ又最近哈府ヨリ北京ニ直行セル当地「グラント」總領事カ奉天立寄リノ際同盟側要求ハ之ヲ一步モ讓ル可ラストノ「クビヤツク」

ノ内意ヲ伝ヘタル事實モアリ右同盟側ノ要求ヲ如何程マテニ緩和シ得ルヤニ就キ直接哈府当局ト協議シ以テ成ル可支那側ノ要求ニ接近セムトスルニ在ルカ如シト謂フ右御參考迄報告ス

本信写送付先 在露大使 在支公使 在奉天總領事

四四八 六月三十日 在ハルビン天羽總領事ヨリ 幣原外務大臣宛

日ソ間ノ対滿政策ニ関スルクラコウエツキー

總領事ト大藏滿鐵理事トノ會談要領送付ノ件

付屬書 六月三十日付大藏滿鐵理事ヨリ天羽總領事宛

大藏滿鐵理事・クラコウエツキー在奉天ソ連邦總領事トノ談話要領送付ノ件

機密第四九九号 (七月七日接受)

大正十五年六月三十日

在哈爾濱

總領事 天羽 英二(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

「クラコウエツキー」總領事、大藏理事談話

要領送付ノ件

往電第一五八号ニ関シ本月二十五日午後奉天癸二十六日朝

当地着滿鐵東支汽車中大蔵、「クラコウエツキイ」會談要領御參考迄送付ス

本信写送付先 在露大使 在支公使 在奉天總領事 在長春領事

(付屬書)

六月三十日付大蔵滿鐵理事ヨリ天羽總領事宛
大蔵滿鐵理事・クラコウエツキイ在奉天ソ連邦總領事トノ談話要領送付ノ件

大正十五年六月三十日

於哈爾濱

大蔵 理事

天羽總領事殿

勞農奉天總領事「クラコウエツキイ」ト小職トノ談話ノ要領別紙ノ通御送付申上ク

クラコウエツキイト大正十五年六月二十五日

奉天長春間十一列車ニテ會談

談話ノ要領

目下自分ハ色々支那側トノ交渉ニ從事シツアルカ支那側ノ猜疑深ク頑迷ナルニハ殆ント閉口シ居レリ先頃モ哈爾濱浦潮間ニ直通電話ヲ敷設セント德憑シタルカ右ハ支

那側ニ取ツテモ頗ル有利ニシテ殊ニ交通上便宜ノ事故贊成ヲ得ルコトト思ヒシニ一氣ニ斷ハラレタルコトアリ又東三省居住ノ露人ハ治外法權ヲ有セサルタメ總ユル自由ヲ奪ハレ誠ニ困難シ居レリ日本ノ如キハ治外法權ノ權利ヲ有シ羨シキ次第ニテ支那ノ如キ國ニ治外法權ヲ撤廢スルハ余程考ヘモノト思フ若シ自國政府ニ充分ノ金サヘアレハ多額ノ金ヲ出シテ支那官憲ヲ買収シ自國民ノ支那國內居住ニ対シ多大ノ便宜ヲ与フルコトモ可能ト思フカ如何ニセン勞農政府ハ目下財政上困難ヲ極メ居ルコト故何トモ仕難キハ残念ナリ

日本カ其國勢上又人口問題ノ上ヨリ且米國其ノ他ノ國ヨリ移民制限ヲ受ケ居ル關係ヨリ支那殊ニ滿州ニ其ノ力ヲ注ク必要アルコトハ自分モ之ヲ認ムルカ自分ノ不思議ニ感スルコトハ如上ノ必要アルニ不拘滿州ノ日本人ハ市民ノミ居リテ田舎ニ居住シ居ラス過去二十年間日本人ノ數ノ滿州ニ於テ比較的少キハ余程研究スヘキ事柄ト思フ現在ノ日本ノ勢力ハ滿州全体ニ行キ且リ居ラス僅ニ租借地及付屬地ニノミ限ラレアル有様ナルカ之ハ如何ナル原因カ承リタシ

(其ノトキ大蔵理事下ノ通り説明ス「右ハ自分ノ見ルトコロヲ以テスレハ日本人ノ国民性ニシテ露人ハ人民先ツ移住シテ政府之ニ伴フニ反シ日本人ハ政府先驅シテ人民之ニ伴フノ状態ニ在リ從テ土地商租等ノ問題解決セラレサル今日政府ノ保証ナシニ人民カ先驅スルコトハ困難ナル事情アリ更ニモ一ツノ原因ハ日支人間ノ經濟的競争ノ問題ニシテ是亦日本人カ独力支那ノ内地ニ入りテ競争シ得サル為メ自然日本人ハ日本資本ノ注集セラルル市街地ニ集ル次第テアル」東支ノ露西亜幹部カ從來支那側ニ採レル態度ハ自分トシテモ頗ル感心セサル処ニシテ「イワノフ」ノ如キハ身共產黨ニ屬スルモ其ノ遣方ハ絶対ニ帝國主義的ニシテ共產主義ニ相反シ居レリ同人ノ採レル鐵道政策カ滿鐵ト衝突ヲ来シタルカ如キコトハ怪シムニ足ラス自分ノ考ヘトシテハ前述ノ如ク日本カ所謂滿州ニ來ルコトモ充分理解シ居リ又露西亜トシテモ是非滿州ニ於テ昔ノ勢力ヲ維持スルコトヲ希望シテ居ル次第テアルカ今更日露間ノ滿州ニ於ケル勢力範圍ヲ協定スルナトト言ヒ出セハ諸人ハ之ヲ恐レ種々疑惑ノ念ヲ抱カシムルヲ以テ斯カル言葉ヲ用ヒス唯兩國間ニ於テ共同シ滿州ノ発

達ヲ計ルコトニシタシ一体露西亜カ北滿ニ來ルコトニ二ツノ理由アリ一ツハ露西亜ノ国民性ニ基クモノニシテ二、三百年ノ昔露國國民カ露國本國ニ於テ重税ニ堪ヘスシテ安逸ノ地ヲ求メ「ウラル」ニ移住シタルニ露國政府ハ懸テ又之ニ引続キ來リテ重税ヲ課シタルヲ以テ移住民ハ更ニ東漸シ斯クシテ遂ニハ北滿ヲ經テ浦潮マテ至リ茲ニ始メテ行詰リトナルト同時ニ海岸ヘノ出口ヲ見出シタル次第ナリ又第二ニハ北滿殊ニ東支鐵道ヲ非常ニ重要視スル理由トシテハ一体露支ノ國境ハ弓形ヲナシ國境ハ弓ニシテ東支鐵道ハ弦ナリ東支鐵道ヲ經スシテ露國カ沿海州ニ達スルニハ其ノ弦ヲ經サルヘカラス其距離ハ數百哩遠ク且不便ノミニテ結局北滿州乃至ハ東支鐵道ヨリ露國ヲ追出スコトハ露國ニ対シ沿海州ヨリ手ヲ引ケト云フコトニ外ナラス之レ露國ノ最モ承諾シ得サル所ナリ露國側トシテ素ヨリ滿州ニ鐵道ヲ敷クコトニ就テハ其必要ヲ感スル次第テアルカ然シ最近滿鐵カ実施シ若クハ計畫シ居ラルル如キ苟モ露國ノ中心機關タル東支鐵道ヲ無価値ニスル鐵道例ヘハ洩齊線賓州線ノ如キハ吾人ノ尤モ脅威ニ感スル所ニシテ此ノ鐵道完成セハ恐ラク東支鐵道ノ收入

ハ皆無トナル恐レアルヘシ就テハ自分トシテハ是非トモ日本又ハ滿鉄ト相談ノ上是等ノ東支鐵道ニ取ツテ大脅威ナル線路ニツキ予メ協議スルコトヲ希望スル次第ニテ其他ノ問題ノ如キハ殆ント言フニ足ラス

四四九 七月一日 在ハルビン天羽總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

ソ連邦側ハ新設鐵道ニ対シテノミ關心アル様ニ付
様ナル旨報告ノ件

第一五八号

六月二十五日「セレブリヤコフ」ハ浦潮「ハバロフスク」方面ヨリ当地ニ帰リ二十六日「クラコベツキ」總領事ハ大藏理事ト同車奉天ヨリ当地ニ來レリ車中「ク」ノ大藏ニ対スル談話ニ依リ勞農側ハ只タ新設鐵道ニ対シテノミ協議セントスル意向ナルコト明白トナリタルカ故ニ大藏ハ本官ト專ラ運賃問題ニ關係アル「エムシヤノフ」管理局長ト会见シ仮令新設鐵道ノ話出ツルモ一切之ニ触レサルコトニ打合ノ上二十八日及二十九日「エ」ト会谈シタルカ第一回ノ会见ニ於テ「エ」ハ鐵道問題ニ言及シタルモ運賃問題ニ触ルルヲ好マス第二回ハ全然世間話ニ終リ尚二十九日当館宴

ヲ再開スルコトニ決定セシ由ナリ(奉天報)

四五一 八月四日(着)

在中國堀臨時代理公使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

東三省交涉總署張參議ト中央政府トノ会谈ニ
関スル新聞報道転電ノ件

第四九二号

本官発在奉天總領事宛電報第三六号

八月三日ノ新聞報ニ抛レハ東三省交涉總署參議張壽增ハ數日前來京ノ上中央政府ト(一)東三省交涉總署ト外交部トノ關係(二)露支會議其ノ他ノ問題ニ関スル對露政策(三)勞農外交代表及勞農人民ノ赤化運動等ノ諸問題ニ付相談シタルカ其ノ結果奉天側要求ノ全部外交部ノ容認スル処トナリ即チ(一)ニ付テハ外交部ハ東三省ノ特殊ノ地位並ニ対日關係ノ直接密接ナルニ顧ミ東三省交涉總署ニ対シ自由活動ノ權利ヲ認メ同署ノ決定ニシテ張作霖ノ贊同ヲ得タルモノハ外交部所定ノ手續ヲ經ル事ナク直ニ効力ヲ發生スル事トシ但シ領事派遣ヲ許サス(二)ノ内露支會議ニ付テハ露支兩國ノ意見余リニ隔リ居ルヲ以テ外交部奉天側共ニ之カ進行ヲ欲セス其他ノ對露政策ノ問題ハ何レモ東支鐵道ニ関スルモノニシテ東

席上「サブラソフ」副理事長ハ大藏ニ盛ニ話シ掛ケタルモ只タ新設鐵道ニ対スル協議ヲ希望シ運賃問題カ出ツレハ話ヲ避ケタリ惟フニ勞農側ハ過般「セレブリヤコフ」ノ東京訪問ニ依リ我当局ノ新設鐵道ニ対スル意向ヲ知りタルカ故ニ此ノ際運賃問題ノミヲ持出ストキハ失フ所アリテ得ル所ナカルヘシト思ヒ居ルモノノ如ク從テ新設鐵道問題ヲ離レテ運賃問題ノミノ協議ニ応スルコトナカルヘシ「エム」及「サブ」ハ大藏ニ対シ「セレブリヤコフ」トノ会见ニ付聞キ居タル由ナルモ本月初メ奉天ニ於テ会见シタルコトモアレハ今回ハ会ハサルコトニシタリ大藏「エム」会见ノ概要ハ大藏ヨリ支那側呂榮寶ニ話シ置キタル筈大藏ハ七月(脱)日大連発海路上京親シク報告スル筈ナルモ御参考迄不取敢莫斯科、北京へ転電シ奉天、長春へ暗送セリ

四五〇 七月二十五日

斎藤閣東軍參謀長ヨリ 金谷參謀次長宛(電報)

奉ソ予備會議再開ニ決定セル由報告ノ件

閃電第三六一号

(七月二十七日外務省接受)

張煥相、蔡道尹及謝德蔭會計監督官ノ三名二十四日午後駐奉勞農領事館ヲ訪問シ露國側ト打合セノ結果奉露予備會議

三省当局ハ東支鐵道問題處理ノ全權ヲ有スル事トナレリ右ハ與張會議ノ際既ニ決定シタルモノナリト又(三)ニ付テハ露國人ノ赤化運動及其取締方法ニ付詳細討論シタル結果嚴重ナル取締方法ヲ設ケ赤化運動ヲ取締ル筈ナリト云フ右記事カ幾許ノ真相ヲ伝ヘ居ルヤハ当方ニ於テ内探中ナルモ貴方ニ於テ何等御聞込アラハ電報アリタシ 外務大臣へ転電セリ

四五二 八月二十六日(着)

在ハルビン天羽總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ノ東支鐵道船舶没収命令要領報告ノ件

第二〇〇号

往電第一九五号ニ関シ

二十四日夜長官及沈鴻烈等會議ノ結果近日沈司令ヨリ船舶没収ノ布告ヲ発スルコトニ決定シタル由ナルカ張作霖ノ命令要領左ノ如キモノナリト云フ 奉天官憲カ本年八月二十一日付ヲ以テ東支理事長ニ対シ民國十三年一月二十二日付東支船舶ノ支那國內航行禁止ノ命令内容ヲ通知セリ東支ノ船舶及設備ハ支那政府ノ關係スル東支収益ニ依リ建造セラレタルモノ也東支船舶ハ目下休航

ノ為廢止シツツアルノミナラス之カ維持ニ対シテモ多大ノ經費ヲ要スルカ故ニ之ヲ回收シ所屬各種船舶及付属設備即チ繋留場造船所江岸建物埠頭倉庫其他一切ノ動産及不動産ヲ東支理事長ノ指令ニ依リ東北艦隊司令官ニ引渡サシム可シ右ハ勞農政府カ浦潮「エゲルシエリド」東支埠頭及東支帆船十一隻ヲ没収シタル前例ニ則リタルモノ也将来本件ハ右「エゲルシエリド」埠頭及帆船ニ対スル勞農政府ノ没収船舶財産ノ実状及東支經營方針等ニ照ラシ解決セラル可シ在露大使、在支公使、奉天、浦潮へ転電セリ

四五三 八月二十八日(着) 在ハルビン天羽総領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

張煥相ガ特別区内教育權ヲ教育管理局ノ管轄

ニ移ス旨布告シタル件

第二〇二号

張煥相ハ張作霖ノ命ニ基キ二十二日行政長官ノ名ヲ以テ特別区内教育權ヲ教育管理局ノ管掌ニ移スヘキ旨ヲ布告シ同時ニ東支理事會ニ對シ奉露協約第二條ニ依リ教育行政ハ支那官憲ノ管轄ニ屬スヘキカ故ニ東支學務課ヲ教育管理局ノ管理ニ移スヘキ旨ヲ通達シ猶東支學務課經費(年額約百三

潮ニ向ケ出帆帰國ノ途ニ就イタ

四五五 九月三日 在ハルビン天羽総領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

船舶等ノ引渡要求ニ對スル東支鐵道側ノ対策

二関スル沈鴻烈等ノ内談報告ノ件

第二〇六号

九月一日沈鴻烈挨拶ノ為メ李學務管理局長ト共ニ來訪シタルカ其ノ際兩人ハ左ノ如キ内談ヲ試ミタリ
(一)船舶其ノ他關係財産ノ引渡ニ付テハ理事會ニ於テハ決定ヲ見サリシモ「エムシヤノフ」管理局長ト数次談合ノ結果八月三十一日汽船十一「バージ」三十二「モーターボート」六隻計四十九隻倉庫(主トシテ輸出用輸入用ノ二棟)及「ドック」埠頭等(船舶其ノ他關係筋同日ヨリ支那旗ヲ掲ク)引渡ノ為メ調査ヲ始メタリ右原価合計二百八十八万留ナルモ時価約其ノ半額ナルヘシ将来多分張作霖經營ノ乾通公司ヲシテ管理利用セシムヘシ

(二)東支學務課ノ廢止及經費ノ支出ニ對スル支那側ノ要求ハ未タ正式ニ理事會ニ付議セラレサルモ管理局長ヨリ反駁シ來レリ今年ノ東支教育費予算ハ約二百萬元ナルカ支那側約

十萬元)及鐵道警察費(約百萬元)ノ支出ヲ要求セリト言フ東支ハ二十六日ヨリ理事會ヲ開キ諸問題討論中ナルカ「エムシヤノフ」管理局長ハ同日滿鉄古沢ニ對シ支那側ノ諸要求ハ随分乱暴ナルモ只今ノ処屈從スル外ナカルヘシト歎息ヲ洩ラシタル由
莫斯科、北京、奉天へ転電シ長春、齊齊哈爾、滿州里へ暗送セリ

四五四 八月二十八日 在中国公使館付本庄陸軍武官ヨリ 金谷參謀次長宛(電報)

カラハンノ召還ニ関シ報告ノ件

支第五一一号

当方連絡者ノ密報ニ依レハ外交部ヨリ二十六日張作霖ニ宛左ノ要旨ノ電報ヲ發シタルト

「カラハン」召還ノ件ニ就キ露國駐在鄭代理大使ノ來電ニ依レハ「カラハン」ニ休暇ヲ与ヘ帰國セシムルコトトシ以テ体面ヲ保タントス其期日確定セハ更ニ通知スヘシ云々
關東、天津、奉天スミ

編註 カラハンノ帰國ハ九月四日發表サレ同月十一日諾威船スクライマー号ニテ上海ニ赴キ同二十六日ソ連汽船ニテ浦

五十萬元ヲ受クルニ過キササル故露奉協定ノ精神ニ基キ其ノ半額ヲ要求スル筈ナリ

(三)鐵路警察官ノ俸給ハ現在東支ヨリ支給セラレ居ルカ該提議ハ支那ノ官吏ナルカ故ニ支那官憲側ヨリ直接支給センカ為メニ東支ニ對シ俸給予算金額(年額百二十萬元)ノ前渡ヲ要求シ居ルモ未タ回答ナシ

(四)奉天ハ東支ノ經營スル哈爾濱及沿線市街ノ電話ヲ回收シ更ニ東支カ鐵道用以外ノ電信及電話(主ナルモノハ長哈間電話西伯利亞及浦潮無線電信等)ノ使用ヲ禁止セントスル意向アルカ右ハ久シク当地ニ來リ実状ヲ調査セル張東三省電政監督八月二十八日帰奉セシヲ以テ其ノ復命ノ結果決定セラルヘシ

北京、莫斯科、奉天へ転電シ浦潮、長春、齊齊哈爾、滿州里へ暗送セリ

四五六 九月四日 在ソ連邦田中大使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

東支鐵道船舶及ビ學務課等ニ對スル奉天側ノ

要求ニ對シソ連邦政府抗議ノ件

第三八五号

東支鐵道ニ對スル奉天側今回ノ要求ニ関スル當國輿論ノ大要ハ往電第三七七号ノ通りナル処九月四日外務部発表ニ依レハ「チチェリン」ハ八月三十一日在当地支那公使ニ對シ左記ノ抗議ヲ送り之ヲ支那政府及張作霖へ傳達方ヲ求メタル趣ナリ

東支ノ當該機關ヨリノ報道ニ依レハ張作霖ハ東支管理局ニ對シ千九百二十四年九月二十一日ノソ連邦東三省自治政府間協定ニ依リテ追補セラレタル同年五月三十一日ノ「ソ」連邦支那間協定ノ規定ヲ根本ニ侵害スル要求ヲ為セリ右要求ノ第一ハ東支ニ屬スル船舶全部ヲ一方的ニ奪ハントスルナリ第二ハ東支學務課ヲ廢シ東支ノ學校全部ヲ東三省總司令教育部ニ引渡スヘシトノ要求ナリ

「ソ」連邦政府ハ支那政府及東三省自治政府ト友好的ニ相互ノ凡ユル繫争問題ヲ審議シテ東支ニ於ケル相互關係ヲ律センコトヲ屢々試ミタルモ「ソ」連邦政府ノ干与セサル理由ニ依リ凡テ失敗ニ歸セリ

「ソ」連邦政府ハ現在ニ於テモ「ソ」連邦支那間ノ前記諸協定ニ出発スル凡テノ繫争問題ヲ審議スルニ同意ナルモ北滿ニ於ケル「ソ」連邦ノ條約上ノ現存權利ヲ侵害スル支那

側ノ一方的行為ニ對シテハ断然抗議ス

「ソ」連邦政府ハ現存條約ニ反シ且協定ニ依リ保障セラレタル東支ニ對スル「ソ」連邦ノ權利ヲ奪ハントスル東三省自治政府ノ行為ヲ許容スルコト能ハサルコトヲ声明ス

「ソ」連邦政府ハ東支ニ對スル前記要求ヲ速ニ撤回セラルヘキヲ期待スルト共ニ是等問題ノ審議ヲ自國政府ノ通常外交機關ニ移スコトヲ要求ス

哈爾濱ニ転電シ奉天、北京ニ転電セシム英國へ転電シ在歐米各大使ニ転電セシム

四五七 九月五日 在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ノ東支鐵道庄迫問題ヲ中心トスルチ

エリントノ會談内容報告ノ件

第三八八号 (九月七日接受)

五日求ニ依リ「チチェリン」ヲ訪問先方ヨリ漁業會議ノ經過及感想ニ付意向ヲ聞キ然ルヘク挨拶セシ後「チ」ハ東支鐵道最近ノ事件ニ談及シ張ノ再度ノ横暴ヲ罵リ斯ノ如キハ日本ノ応援アルニ依ルヘシトノ意ヲ洩シタルニ依リ本使ハ事件ノ詳細ハ承知セサルモ本件ハ純然タル東支鐵道問題即

チ露支兩國ノ係争ニシテ松花江ノ船舶及鐵道沿線ノ學校ノ処分カ日本ニ直接利害アルヘシト考ヘラレス日本カ何ヲ苦シンテ斯ル問題ヲ利用シテ露國ニ當ラントスヘキヤ本使ノ觀ル所ニ依レハ貴國カ彼ノ敵トセル國民軍等ニ多大ノ援助ヲ与ヘタルヲ齒ミ給テノ機會ニ貴國ニ一撃ヲ加ヘントスルニアラサルカト述ヘタルニ「チ」ハ國民軍ハ既ニ潰走シ目下實力ナク之ヲ計算ニ入レル必要ナシト答ヘタルニ依リ本使ハ此ノ機會ヲ利用シ田中領事入蒙ノ件(本使ハ「チ」病氣ノ為メ曩ニ「コップ」ニ内話シ「チ」ニ取次方依頼シ置ケリ)ニ導ク為メ先ツ日本ノ言論界ハ貴國カ蒙古及國民軍ニ莫大ナル武器及多數ノ將校ヲ融通セリトノ報ニ憂慮ノ念深ク日本政府ハ此レカ為兩國間誤解ノ原因タルヘキヲ惧レ田中領事ヲ入蒙視察セシメントセリ然ルニ蒙古側ハ一旦承諾セシモ何等ノ理由ヲ示サス之ヲ拒絕シ在舊今日ニ及ヒ前後ノ成行ヨリ見テ貴方ノ干渉ニ依ルモノト察セラレ甚タ不快ニ感シ居レリ何トカ入蒙ノ方法ナキヤト聞キタルニ「チ」ハ蒙古ノ問題ハ全然國民軍トハ別ナリ露國ハ國防上蒙古カ露國ノ敵手ニ歸スル危險ヲ冒ス能ハス支那混乱ノ現狀ニ放任セハ或ハ如何ナル者カ蒙古ニ占拠シ露國ヲ脅威スルコト

ナキヲ保シ難シ故ニ先ツ同國ノ自主權ヲ認め蒙古トノ親善ニ銳意努力シ其ノ諒解ヲ經テ目下軍政改革ヲ実行中ニテ露國ヨリ軍器ヲ一部ハ讓与一部ハ売渡シ又軍人ノ教官ヲモ融通シ居レリ遠カラズ純粹ノ蒙古國民軍編成ヲ見ルヘシ然ルトモ露國軍隊トシテハ少シ許リノ公使館衛兵ヲ置クノミ其ノ他一切内政ニ干渉セス此ノ事態ハ露國カ自衛ノ必要上已ムヲ得ス採レル処置ニ出ツ田中領事ノ旅行ニ對シ露國トシテ何等異議ナシ只タ蒙古政府トシテ目下國民軍ノ敗北ニ伴ヒ張作霖側トノ紛糾ヲ惧レ一時入蒙ヲ欲セサルヤモ知レス兎ニ角露國トシテ助力シ得ヘキコトハ之ヲ為スヘシト述フ依テ本使ハ田中入蒙ノ件ハ日本政府ノ重キヲ置ク所ニシテ貴國トノ親善ヲ願慮シタルハ露國通タル同人ヲ派遣セントスルヨリ見ルモ明ナリ依テ何分ノ助力アリタシト述ヘ次テ國民軍ニ對シ現在尙統々武器ヲ供給セラルル由屢々伝聞甚タ敷キハ馮玉祥トノ間ニ密約成立セリトノコトニテ何ノ為メニ露國カ斯ク根強ク國民軍ヲ援助セラルルヤハ日本ノ諒解シ難キ所ナリト述ヘタルニ馮トノ密約云々ハ全然無根ニテ既ニ東京ニ於テ公表セシメタリ馮ハ曩ニ莫斯科ヲ去リ「ヴェルフネジンスク」迄行キタルモ其ノ後何処ニアリヤ

判明セズ庫倫ニ電照セルモ尚同地ニ到着セストノコトナリ尚政府ハ馮ノ行動ニ重キヲ置カス又武器供給ノ事ハ既ニ伊太利ハ羅馬ニニ仏國ハ波蘭ニ武器ヲ供給シ露國ニ脅威ヲ感セシメ居レトモ之ヲ正面ヨリ反対スヘキ理由ナシ露國ハ支那ニ於ケル武器禁輸協定ニ關係ナシ買手次第何レニ対シテモ売ルヘク一時ハ張作霖トモ売買交渉ヲ為シタルコトアリ其他ニ國民軍援助ヲ為サスト述ヘ更ニ話頭一転最初ノ東支問題ニ返リ張作霖ノ横暴モ困ツタモノナリ露國ハ經濟的復讐手段ヲ有セサルヲ以テ結局武力圧迫ノ外ナキモ日本ト戦ハサルヲ以テ之ヲ敢テセスト述ヘタルニ依リ本使ハ貴官ハ實際武力ヲ以テ脅懲セント思ハレタルコトアリヤ凡ソ一國カ他國ニ対シ武力ヲ用ユルハ單ニ斯ル簡單ナル理由ニ依ラサルヘシ貴國ノ場合特ニ然リ貴國カ張ニ武力圧迫ヲ加ヘ得サルハ日本カ邪魔スル為メナリトハ受取ラレス他ニ重大ナル理由ニ依リ武力干渉ヲ敢テシ難カルヘシト思考スト述ヘタルニ「チ」ハ然リ日本カ邪魔スルカ故ニ非ス只張ハ日本ノ勢力範圍ヲ恃ミ露國カ武力ヲ用ヒ得サルヲ見縊リ横暴ヲ逞フスルナリ露國カ張ヲ圧迫セハ張ハ何時ニテモ日本ノ庇護ノ下ニ隠レ日本ノ南滿ニ於ケル利益ヲ利用シテ露國ト

ノ争ニ捲キ込マントスルヲ以テ露國ハ輕々シク手ヲ下シ難キノミナラス露國カ滿州ニ出兵セハ日本ノ輿論ヲ刺激シ結局日露不和ノ原因ヲ造ルヲ以テ斯ルコトヲ為スヲ欲セス然リト雖モ現状ハ如何ニモ困ツタモノナリ張ハ日本ノ援護ヲ牽ニ被テ露國ヲ蔑視ス露國トシテハ何等無理ヲ云フニ非ス兩國間平和の交渉ヲ望ムノミ然ルニ張ハ曩ニ國民軍隆盛ノ時ハ交渉ニ応スル傾向アリタルモ目下再ヒ独断驕蹻ス露國トシテハ大國ノ面上常ニ泣キ寝入シ難ク去リトテ日本ノ感情ヲ顧慮セサルヲ得ス日本ニモ相当好戰的分子アリ露國ノ精弱ニ乘シ一撃ヲ加ヘントスル議論アリト聞ク若シ斯ル論者ニ機會ヲ与フルコトナラハ日露双方ノ不幸ナリ日本カ真露國トノ親善ヲ欲スルナラハ斯ル事態ヲ傍觀セス何トカ張ニ勸告スルノ途アルヘシトハ當國一般ノ意向ナリト述フ依テ本使ハ貴方ハ何時モナカラ張ハ日本ノ人形ナルカ如キ口吻ナルモ大部誤解アルカ如シトテ例ヲ挙ケ説明ヲ加ヘ張今回ノ行動ハ日本トハ没交渉ニテ貴國ニ対スル腹癢セト見ルノ外ナシ日本ノ勸告カ如何ナル効果アルヘキヤト述ヘタルニ「チ」ハ去ル一月ノ事件ノ際ニモ日本ノ勸告アリ為メニ張ノ態度ハ折レタリトハ日支双方ノ確カナル筋ヨリ

聞キ居レリ差シ当リ張ヲ緩和シ得ルモノハ日本アルノミト述フ依テ本使ハ兎ニ角貴意ノアル所ハ政府ニ報告スヘシ政府カ如何ニ取扱フヘキカ問題ノ詳細ヲ知ラサル本使トシテハ予想シ得ス兎ニ角我政府ノ考量ニ上シ置クヘシト述ヘテ次ニ支那問題ニ付多少談話ヲ交換シ其ノ際「チ」ハ張カ手ヲ滿州以外ニ拡ケルハ日本ノ為メニモ好マシカラサルヘシ現在ノ内閣ハ大ニ隱健ナルモ次テ田中大將ノ内閣トナラハ或ハ更ニ積極的行動ニ出テ遂ニ露國ト衝突ナキヲ保セス寒心ノ至リナリト述フ本使ハ張ノ中原進出ニ付テハ日本ニモ貴見ノ如キ説アリ又張ニ忠告ヲ試ミタル人アリト聞ク併シ張ハ野心滿々行ク所ニ行カサレハ止メサルヘシ日本カ斯ル冒險家ヲ支持シ之ト共ニ浮沈ヲ共ニスルカ如キハ到底アルヘカラサルコトナリ日本ハ滿州ニ於ケル我利益ハ一步モ譲リ難キモ張ヲ支持スヘキ理由モ驅逐スヘキ理由モナシ日本ハ支那ノ内部的紛糾ニ捲キ込マルルヲ大局上最モ不利トス此レハ内閣ノ更迭等ニ依リ容易ニ変スルコトナク一般ノ輿論ナリ徒ニ杞憂ヲ懷カレサルコトヲ望ムト説キ置キタリ

四五八 九月八日

在ソ連邦田中大使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

東支鐵道ニ対スル奉天側ノ要求ニツキソ連邦政府ヨリ重ネテ抗議ノ一トヲ送り越シタル件
第三九七号 (九月九日接受)

九月八日外務部公表ニ依レハ G. V. Chicherin ハ九月七日更ニ在當地支那代理公使鄭延禧ニ「ノート」ヲ送り八月三十一日付「ノート」ニ対シ支那政府ヨリ回答ニ接セサルノミナラス東三省官憲カ引続キ不法行為ヲ敢テシツツアリトテ哈爾濱發大臣宛第二〇六号記載ノ事實ヲ列挙シタル上右支那地方官憲ノ行為ハ「ソ」連邦支那間ノ條約上ノ關係ニ反スルノミナラス平常外交關係アル國家間ニ許容スヘカラサル心外ノ行為ニシテ支那政府ニシテ右行為ヲ許容スルトキハ「ソ」連邦支那間ノ外交關係ニ重大ナル困難ヲ生スルモノニシテ兩國關係ノ惡化ニ対スル全責任ハ支那政府ニアリ「ソ」連邦政府ハ兩國間ノ現存協定ニ発スル總テノ係争問題ヲ慎重審議スルノ用意アルコトヲ声明スルト共ニ支那カ前記「ソ」連邦ノ權利侵害行為ノ撤廢並ニ兩國今後ノ關係ニ不良ノ影響ヲ及ホスコトアルヘキ事態ノ中止ニ付急速措置セラルヘキヲ期待スル旨ヲ述ヘ右ニ対スル支那政府ノ回答ヲ要求セリ

尚往電第三八五号ノ抗議ハ張作霖ニモ伝達ヲ依頼ストアリタルカ今回ノ抗議ハ単ニ支那政府ニ伝達ヲ請フ旨記載シアリ

哈爾濱ニ転電シ北京、奉天ニ転電セシム英国ニ転電シ在歐米各大使ニ転電セシム

四五九 九月十七日(着) 在ハルビン天羽総領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

満鉄・東支鉄道間ノ運賃問題ニ関シ東支側ヨリ協議ヲ申出タル件

第二二三号

八月上旬「エムシャーノフ」東支管理局長本官及館員ヲ招宴ノ節近ク大連ヲ訪問シ度希望ヲ漏シ居タルカ九月五日「ジーキー」経済局長ヲ当地満鉄事務所ニ遣シ「エ」局長ノ大連訪問ハ時局ノ為延期スル事トナリタルモ東支ニ於テハ満鉄ト運賃問題ニ関シテ相談シタク代表者ヲ哈爾濱若シクハ奉天ニ派遣シ度旨申出タルニ付満鉄ニ於テハ先ツ哈爾濱事務所係員ヲシテ協議セシムル事トシ十四日其ノ趣旨ヲ以テ東支側ニ回答シ次テ十五日双方ノ間ニ二十日頃ヨリ協議ヲ開始スヘク従来ノ経験ニ鑑ミ今回ノ会合ハ絶対ニ秘密

尤モ満鉄側ニ於テハ新設鉄道問題ニハ一切触レサル方針ナルハ申迄モナシ

在露大使、在支公使へ転電セリ

四六〇 九月十八日 在ハルビン天羽総領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

于冲漢方劉尚清二代リ東支督弁ニ就任シタル旨報告ノ件

第二二七号

十五日劉尚清東支督弁免職シ于冲漢之二代ルコトニ決セル旨十七日奉天ヨリ行政長官公署及督弁公署来電アリ支那官辺ニ於テハ寧口督弁ト張煥相トノ關係ニ付懸念スルモノアルモ右更迭ハ張煥相一派ノ強硬政策ノ勝利ト觀測セラル在露大使、在支公使、奉天、齊齊哈爾、滿州里へ転電セリ

四六一 九月二十二日 在ハルビン天羽総領事ヨリ 幣原外務大臣宛

東支・満鉄両鉄道ノ協議ニ関シ報告ノ件

機密第七四一号

(九月三十日接受)

大正十五年九月二十二日

在哈爾濱

ニスル事ニ打合せタリ

日露ノ關係カ北滿ニ於ケル満鉄及東支ノ關係ニ支配セラルル事鮮カラス両鉄道ノ關係カ新設鉄道問題ト運賃問題トニ依リ刺戟セラレ居ル次第ハ本年一月拙電第三八号ノ通ナルニ付新設鉄道問題ハ暫時措キ現在東支ノ運賃改正セラレサル以上満鉄ト東支トノ關係ハ円満ヲ期スル事難カルヘク両鉄道ノ關係円満ナラサル以上日露ノ親善關係又影響ヲ受クヘク東支運賃問題ハ日露ノ關係ニ重大ナル影響ヲ及ホスモノアルカ故ニ本年六月下旬大蔵理事来哈ノ際東支運賃問題ニ付協議セン事ヲ期待セシモ勞農側ニ於テ新設鉄道問題ヲ持出シ其儘トナリ居ル次第ハ當時詳報ノ如シ今回東支ノ提議カ如何程迄本気ナリヤ將又徒ラニ前回ノ事例ヲ繰返スニ非ルヤハ俄カニ測知シ得サルモ勞農側ニ於テ滿州ニ於ケル我官憲及満鉄ニ対シ田中大使発閣下宛電報第三七七号及其ノ他ノ如キ笑止千万ナル邪推ヲ為シ居ル反面ニハ日本側ノ勢力ヲ過信シ居ル事実ヲモ推知シ得ヘキカ故ニ或ハ東支運賃ノ改正ニ依リ幾分カ日本側ノ態度ヲ緩和セントノ底意アルヤモ計ラレス從テ満鉄側ニ於テハ先ツ東支ノ申出ニ応シ其ノ提議ニ接シタル上徐ニ対策ヲ決セントスルモノノ如シ

総領事 天羽 英二(印)

外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

東支満鉄両鉄道協議ニ関スル件

二十日東支「ヂーキー」経済局長ト古沢満鉄事務所長会商ノ次第ハ往電第二二三二号ニテ御承知ノ処右ニ就キ当地満鉄報告要領左ノ如シ

二十日午後古沢私宅ニ於テ会见東支側ハ「エムシャーノフ」管理局長ハ「ウスリ」鉄道關係事項ニ関シテ同鉄道ヨリ相当範圍ノ権限ヲ委任セラレ居ルト言明ス東支側ハ最初本商議ヲ全ク非公式ノモノトスルモ其結果決定シタル事項ハ必ス各自両鉄道本社ノ承認ヲ得テ実施スルコトニシタシト提議シタルニ対シ満鉄側ハ本下打合せニテ大体ノ要領ヲ纏メ之ヲ両鉄道ノ正式全権ヨリ成ル會議ヲ付議シ度キ希望ヲ述ヘ結局本下打合せニ於テ完全ナル成案ヲ作成シ右全権會議ハ単ニ形式ニ止メ直チニ調印シ得ル程度ニテ開催スヘシトノコトニ纏マレリ

「ヂーキー」ハ「エ」局長ノ意向トシテ今回ノ会商ニヨリ従来三鉄道間ニ蟠ル一切ノ諸問題ヲ解決シ将来ノ禍根ヲ一掃シ親交關係ヲ確立シタシトノ希望ヲ伝ヘタリ東支側ハ本

会商ニ対シテ相当ノ誠意ヲ以テ何トカ纏メ度キ意向アルヤニ認メラル満鉄側トシテハ東支ノ意向ヲ十分確メタル上満鉄ノ希望ヲ述フル順序ニシ度シ

次ハ二十二日午後「エ」管理局長私邸ニテ会商ノ予定ナルカ其模様如何ニヨリテハ本社ヨリ適任者ヲ派遣セラルルカ或ハ哈爾濱事務所長ニ或ル程度ノ権限ヲ委任セラルルカ詮議ヲ乞フヘシ

本信写送付先

在露大使 在支公使 在奉天總領事

四六一 九月二十四日

在ハルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

滿鉄側ハ東支トノ会商ヲ運賃問題ニ局限スル

方針ナル旨等ニツキ報告ノ件

第二三八号

往電第二二三号ニ関シ

二十日(前電十九日トアルハ誤リ)ノ会合及其他ノ情報ニ依ルニ東支側ハ相当誠意ヲ以テ何トカ纏メタキ意向アルモノノ如キモ三鐵道間ニ蟠ル總テノ問題ノ解決ヲ希望スト云フ内ニハ自然新設鐵道問題ニモ及ホサントスル底意アルヤ

第二四二号

東支督弁ノ更迭ニ関連シテ東支諸懸案及于督弁ト張行政長官トノ關係ニ付種々ノ風評行ハルルカ二十五日于冲漢新任挨拶ノ為来訪ノ際左ノ如キ談話ヲ試ミタリ

今回ノ任命ハ甚タ突然ニシテ最初ハ辞退シタルモ周囲ノ懇請ニ依リ就任シタル訳ナリ船舶及教育權問題ニ付テハ勞農側ヨリ抗議出テタリトノコトナルモ船舶ハ既ニ回収シタル故問題ト成ラス教育權ハ東支學務課閉鎖ト教育費引渡問題未決ナル故何トカ纏メタシ自分(于)ハ第一露奉會議ヨリ

東支問題ニ關係セルカ最重要問題タル(一)東支預金ヲ露支兩銀行ニ取扱ハシムルコト(二)東支従業員ヲ露支均分トスルコト(三)管理局ノ権限ヲ縮小スルコトノ三点カ看過セラレ居ル故直ニ交渉ニ着手シタキ考ナリ張煥相ノ行政長官就任ハ元自分ノ推薦ニ依ルモノナルカ近来其ノ遣リ口ニ付テハ奉天ニ於テモ兎角ノ批評有ル故能ク実情視察ノ上公平ナル報告ヲ為シタキ積ナリ昨年自分カ行政長官タリシ時奉天ヨリ督弁兼任方ニ付相談シ来リタルコト有リシカ兼任ハ一利一害

有レハ辞退シタル次第ナルカ長官トノ關係モ慎重ニ考慮シタシ云々

モ量ラレサルカ滿鉄側ニ於テハ既定ノ方針ニ從ヒ主トシテ運賃問題ニ局限スル事トシ只今ハ先方ノ具體的提議ヲ待チ居ル次第ナリ十六日東支露支理事ノ大平滿鉄副社長歡迎(會)ニ於テ「モワラソフ」ハ挨拶ノ中ニ東支滿鉄商議成立ニ関シ希望ヲ述ヘ次テ日露出席者ヨリ支那側理事ニ右会商ノ事情ヲ説明シタル由ナリ「エムシャノフ」古沢ノ會見ハ故障ノ為メ延期セリ

于冲漢二十三日着任セリ

在支公使へ転電セリ

編註 滿鉄・東支兩鐵道ノ運賃問題ヲ繞ル古沢滿鉄事務所長ト「エムシャノフ」東支管理局長トノ打合會ハ九月二十八日第二回、続イテ十一月十五日第三回、十二月二十日第四回、何レモ「エムシャノフ」局長宅ニ於テ開催サレタ猶會議ニハ他ニ滿鉄側カラ軍司義男、山口十助、東支側カラハ「ジーキ」經濟局長、「ネズナイコ」等ガ出席シタ

四六三 九月二十六日(着)

在ハルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東支督弁就任挨拶ノタメ来訪セル于冲漢ノ談話報告ノ件

莫斯科、北京へ転電シ奉天へ暗送セリ

四六四 九月三十日

在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

東支鐵道船舶及ビ教育權回収ニ関スル張作霖ヨリ外交部宛電報報告ノ件

公第七五一号

(十月五日接受)

大正十五年九月三十日

在奉天

總領事 吉田 茂 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東支鐵道船舶及教育權回収ニ関シ張作霖ヨリ外交部ニ報告ノ件

東支鐵道船舶及教育權ノ回収ニ関シテハ予テ「チチエリ」ヨリ莫斯科駐在ノ鄭延禧ニ対シ抗議スル処アリシモ今猶ホ解決ヲ見サル模様ナルカ本件ニ関シ先日張作霖ヨリ外交部ニ対シ大略左記ノ通電報セシ由今回当地漢字新聞ニ内容一部掲載セラレタリ

右何等御参考迄ニ報告ス

本信写送付先 在支公使、在露大使、哈爾濱總領事

(別紙)

東支鐵道原契約ニハ航行ヲ許可ストノ条項ナシ該鐵路局ハ契約ニ違反シ航行權ヲ侵害セルカ右ハ去十三年一月航行ヲ禁止シアルモノナリ而シテ該船舶ハ東支鐵路收入金ヲ以テ購入セルカ久シク使用セサリシ為破損ヲ生セリ右船隻ハ平常ノ維持ニ巨費ヲ要シ又江水封凍ノ際ハ充分之ヲ保管セサルヘカラス且修繕費・材料費ハ頗ル巨額ヲ要ス故ニ茲ニ將來ノ損失ヲ防ク為「ソビエト」政府カ浦潮金角灣碼頭ヲ回收シ並曳船十一隻ヲ没収セシ先例ニ倣ヒ東北海軍艦隊沈没令ヲシテ哈爾濱ニ赴キ東支鐵道所有ノ大小各種船舶全部及其付屬船渠・工廠・家屋・江堤・碼頭・江灣倉庫・器械材料及其他ノ動産・不動産ヲ接受セシム本案ハ曩ニ東支鐵道理事會ヲ通過シ鐵道局長ヲシテ正式ニ事務引継ヲ了セシメ既ニ沈司令ヲシテ之ヲ点檢セシメタルカ其際鐵道局長ノ派遣員モ亦立會檢査セリ今後「ソビエト」政府ニ於テ金角灣碼頭及曳船ニ對シ其具體的弁法モアラハ当方トシテハ現在ノ所管物品ノ狀況並從前東支鐵道ノ營業狀態ヲ參照シ再ヒ相當ノ弁法ヲ協定スヘシ右ハ船舶接受ノ大略ナリ

東支鐵道沿線建設ノ學校ニ關シテハ近來過激思想ヲ宣伝シ

在支勞農代理大使「チヨルヌイフ」ハ赴任ノ途次本月九日ヨリ十一日迄当地ニ滞在張煥相及于冲漢等ヲ訪問シタルカ其ノ中于督弁ニ對シテ自分「(チヨ)」ハ露支交涉ニ關スル全權ヲ委任セラレ東支問題ニ付テモ近ク奉天ニ於テ交渉開始ノ管ナリト述ヘ同督弁ニ交渉参加方希望シタルニ于冲漢ハ自分「(于)」ハ奉天ヨリ東支問題ニ關スル全權ヲ委任セラレ又東支ニハ理事會ノ存在スル以上奉天ニ於テ交渉スル必要ナシト応酬シタル由尚東支職員折半問題、財政問題等ニ關スル于督弁ト「ソブラソフ」トノ協議ハ漸次進捗シツツアリトノコトナリ右于冲漢ノ古沢ニ對スル談話ニ依リ

在露大使、在支公使、奉天へ転電セリ

四六六 十月十九日 在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中国官憲ノ東支鐵道中央図書館等ノ臨檢及ビ

新聞雜誌書類等押収ニ關シ報告ノ件

第二六九号

当地支那警察官憲ハ昨十八日突如東支鐵道中央図書館ヲ臨檢シ露国内発刊ノ多数ノ新聞雜誌及圖書目錄ヲ押収シ更ニ赤系中学校ニ臨檢開催中ノ父兄會ヲ解散シ多数ノ書類ヲ押

赤化達成ヲ以テ唯一ノ趣旨トナセル為領事團ニ於テモ頗ル之ヲ問題ト成シ居レリ行政官庁ノ接到セシ各報告ニ拠ルニ右學校ノ視察ニ付テハ鐵路局ヨリ之ヲ拒絶セル模様ニテ各学生ハ広東ニ潜行シ主義者ニ投セムトス若シ該鐵道教育權ヲ回收セスンハ流弊甚大ナルモノアリ思フニ奉露協定第一条第一項ノ規定ニ於テ行政權ハ之ヲ支那官憲ニ掌握スヘキモノナリ教育ハ行政ノ一部タリ之ハ条約ニ照シ我方ニテ管理スヘク特別区張長官ヲシテ期限ヲ定メテ回收セシメ別ニ教育管理局ヲ設ケ特別区ノ學務ヲ整ヘ學務規定・教科書檢査ハ長官ヨリ同管理局ヲシテ督勵処理セシメ以テ我主權ヲ重シシ協定ニ適合セシム右ハ教育權回收ノ大略ナリ

以上二件ニ關シテハ既ニ露國領事館ヨリ來翰ノ次第アリ依テ当方ヨリハ右ニ對シ弁駁シ置ケルカ尚鄭代理ヨリモ理ニ拠リテ之ヲ反駁セシムル様致度云々

四六五 十月十六日 在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

于冲漢ノチヨールヌイフヲ連邦代理大使トノ

會談ニ關スル談話報告ノ件

第二六三号

(十月十七日接受)

取シタルカ十九日杉原カ同図書館副館長「チエプルコフスキー」(往電第二六一号)ヨリ聞込ミタル処ニ依レハ右ハ最近莫斯科ニ張作霖攻撃記事掲載セラレタル為ナル可シトノコトナリ去レト支那側ハ近ク更ニ他ノ勞農學校臨檢ノ噂アリ為ニ勞農側ニ於テハ非常ナル恐慌ヲ來シ居レリ

莫斯科、北京へ転電シ、奉天へ暗送セリ

四六七 十月十九日 在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

チヨールヌイフ代理大使ガ張作霖ニ面會ヲ拒

絶セラレタリトノ東方電ノ反響ニ關スル件

第二七〇号

(十月二十日接受)

「チヨールヌイフ」代理大使カ張作霖ニ面會ヲ拒絶セラレタリトノ十五日奉天発東方電報ハ当地ニ於テ鮮カラサル衝動ヲ与ヘ白系露字紙ハ特筆報道セルニ對シ赤系露字紙中「エーホ」紙ハ之ヲ掲載セス「ノウオスチ、ジーズニ」紙ハ掲載ノ後右東方電ハ誤報ナルヘシトノ註釈ヲ加ヘ更ニ論說ニ於テ本問題ニ言及シテ勞農代理大使カ他國代表者同様ノ特權ヲ行使シ得サル場合ハ露支兩國間ノ關係ニ一大亀裂ヲ生シ遂ニハ單ナル錯誤トシテ許シ難キ結果ヲ馴致スヘシ

ト論評セリ御参考迄

莫斯科、北京、奉天へ転電セリ

四六八 十一月二十一日 在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東支鉄道ノ新副理事長ヲシェーヴィチノ経歴

二関スルチチェリンノ談話報告ノ件

第四九二号 (十一月二十二日接受)

往電第四九一号ハ新聞記事ニ依リタルモノナル処二十一日「チチェリン」ト会見ノ節矢張前陸軍次官ナルコトヲ確メタリ「チ」ハ前任者ノ貧弱ナリシニ比シ新任者ハ頭腦明晰意志強固ニシテ嚮ニ芬蘭国境問題ニ関シ外交の手腕ヲ現ハシ有為ノ人物ナリ共產党内訶問題ハ既ニ過去ノ事実ナリト述ヘ奉天側トノ對抗上自信アルカ如キ口吻ヲ洩ラセリ
哈爾濱ニ転電シ北京、奉天ニ暗送セシム

四六九 十一月二十三日 在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奉ソ関係ノ緊張トソ紙論調ニ鑑ミ今後ノ局面

変化ニ考慮ヲ要スル旨具申ノ件

第二九七号

常ニ日本ニ対シ猜疑深キ労働側及将来モ排日宣伝ノ中心タルヘキ広東ニ対スル対策上ニ多少有利ナル効果ヲ齎シ得ヘク我方トシテハ今後局面ノ展開ニ対シ特ニ考慮ヲ払フ必要アルヤニ観測セラル
在露大使、在支公使ニ転電シ奉天ニ暗送セリ

四七〇 十二月六日 在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛

東支鉄道問題ヲ纏ル奉ソ間ノ交渉経緯報告ノ

件

機密第九三〇号 (十二月十五日接受)

大正十五年十二月六日

在哈爾濱

総領事 天羽英二(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

露支ノ東支問題交渉ニ関スル件

労働側東支新副理事長「ラシェーヴィッチ」ハ本月九日当地ニ来着ス可キ旨東支側ニ於テ発表シタルカ同副理事長着任ノ上ハ露支交渉再開セラレ多少ノ紛糾ヲ見ル可キカト察セラルルカ故ニ此機会ニ於テ幾分重複ヲ厭ハス今日迄ノ経

近来当方面露支ノ関係ニ付注意ヲ要スルハ一ハ支那側ノ露国人ニ対スル取締リ益々峻厳トナリタルト東支問題ニ関スル露支幹部間ニ衝突アリタル為露支ノ関係再ヒ緊張ヲ来タセル事ニシテ支那側ハ露国側副理事長ノ更迭ニ拘ハラヌ依然強硬ナル態度ニ出ントスルニ対シ「クラコベツキー」「ソブラソフ」等穩健派ノ離任ハ労働対支政策ノ硬化ヲ意味スルモノト見受ケラルル節モアリ結局露支間ニ一紛糾ヲ免カレサルヘクニハ從來張作霖ノ背後ニハ日本アリトテ日本ノミ攻撃シタリシ赤系露字新聞カ近頃屢英國モ張作霖ヲ煽動ストカ或ハ英國カ日露支ノ紛争ヲ策ストカ英國ヲ引合ニ出ス事ニシテ右ハ吳佩孚失敗後事英英國カ張作霖ニ接近スルカ如キ印象ヲ与ヘタルト張作霖顧問「サットン」(当地英國領事ノ談ニ依レハ英國官憲ハ同人ノ行動ニ何等關係ナキノミナラス之カ為メ却テ迷惑シ居レリト云フ)其他英國人中公然張作霖援助ヲ高調スルモノアリ在支英國系新聞ノ張作霖ニ対スル論評モ漸次好転シタルト最近奉天票及新設鉄道問題其他ニ関シテ滿州ノ本邦諸新聞カ奉天官憲ヲ攻撃シタルトニ基因スルモノナル可キカ之等形勢モ變化ヲ利用スル時ハ近頃益々増長スル奉天派ニ対スル交渉並ニ

緯左ニ概報ス可シ

奉天側ハ曩ニ于東支督弁ニ東支問題交渉ニ対スル全權ヲ与ヘ于冲漢ハ九月二十三日着任以来「ソブラソフ」前副理事長ト東支諸問題ニ就キ非公式ニ談合ヲ遂ケシモ東支以外ノ問題ニ触ルルコトヲ好マサルニ反シ労働側ハ東支問題ニ於テハ失フ処多クシテ得ル所少キカ故ニ其以外ノ問題例ヘハ在滿労働国籍者ノ地位、通商代表各「シンジケート」代表等ニ対スル特權承認、職業同盟公認等ノ諸外交問題ニ言及セントシ殊ニ支那南部、中央及西北部形勢ノ發展ヲ予想シテ成ル可ク交渉ヲ遷延セントスルモノノ如シ
于「ソ」ノ協議ハ既報ノ如ク先ツ東支職員折半問題及東支収益金保管問題ニ始マリ大体順調ニ進捗シ次テ管理局長權限問題ニ及ハントスルモノナルカ

一、職員折半問題ニ就テハ支那側ハ既報ノ如ク管理局、理事会及監事会内二十一ノ部、課中支那人ヨリ十一ノ課長ヲ出タシ且其内成ル可ク重要ナル課ヲ占メントスルモノニシテ客月十六日于督弁ノ談話ニ抛レハ商業部ヲ除ク外大体協議纏リタル由ナリ(客月十七日付機密第八八四号拙信参照)

二、東支収益金保管問題ニ就テハ目下「ダリバンク」ニ於ケル東支預金二千七百万留中其半額ヲ支那銀行ニ移スコトニ決定シ目下張行政長官ニ於テ同銀行ノ財産及預金状態等調査中ナルカ支那側ハ今後毎日ノ鐵道収入ヲ理事會ニ於テ管理シ管理局長ノ自由支出ヲ三万留位ノ限度ニ留メント欲スルモノノ如シ

管理局長権限問題ニ就テハ未タ談合ヲ遂ケサルモ支那側ハ主トシテ局長ノ発令權及經費支出權ヲ縮小セントシ学務課問題ハ純然タル行政問題トシテ張行政長官ノ管掌ニ属スルモノト看做スモ張長官ハ東支管理局ニ学校經費ノ支出ヲ要求シ居ル關係上于督弁自身ハ該問題ノ解決ニ對シ斡旋ノ勞ヲ執ラントシ東支船舶沒收問題ニ至テハ最早問題決定ト看做シテ討議スルコトヲ欲セサルモノノ如シ

于「ソ」ノ協議進行中十一月初旬「チヨールヌイフ」代理大使再ヒ奉天ヨリ來哈シ于督弁ニ對シテ再度現在交渉ノ東支問題以外ノ懸案ニ就キ會談センコトヲ提議シタル為東支問題ノ協議ハ一時停頓シタル氣味アリ於是于督弁ハ十一月十三日滿州日々新聞其他本邦新聞記者トノ會見談ニ於テ手厳シク同代理大使ヲ扱キ下シ十八日理事會ヲ召集シテ支

後「ラ」新副理事長ノ來哈ヲ待ツ可キ事ヲ德憑スルト同時ニ于沖漢ノ天津行ヲ中止セシメ他方二十三日天津張上將軍ニ對シテ「ラ」新副理事長ハ勞農中央官憲ニ反抗セシ為國外ニ左遷セラレタルモノニシテ其政策ハ勞農政府ノ支持ヲ受クルモノニ非サルカ故ニ強硬ナル政策ヲ実行シ得ヘキ筈ナシテ支那側ハ從來ノ態度ヲ變更スルコトナク斷乎タル政策ヲ持續ス可シ」ト電報シタリト伝ヘラル此張煥相ノ意見ニハ支那側東支副理事長呂榮寶、護路軍代理司令趙金麟等ノ贊成アリタルモノ于督弁ハ二十日會參贊ヲ天津ニ派シ張上將軍ノ訓令ヲ仰クコトトシタリトテ之ヲ贊認セス

勞農側ハ二十二日「ゲツケル」理事ヲシテ支那側ニ「ラ」新副理事長ハ十日以内ニ着任ス可キ旨ヲ通告セシメ他方赤系諸新聞ハ二十一日莫斯科ニ於ケル「ラ」新副理事長ノ「タツス」記者會見談ヲ掲載スルト同時ニ同理事長ハ二十九日頃來着ス可シト報道シタルカ右「ラ」ノ會見談ハ鈔カラス支那側ノ感触ヲ害シタル而巳ナラス「ラ」ハ予告ノ通りニ來着セサリシカ故ニ支那諸新聞ハ勞農側ノ不誠意ヲ罵リテ之カ攻撃ヲ始メタリ他方張行政長官ハ十一月三十日更ニ東支管理局長ニ對シテ学校經費ノ引渡ヲ要求シ諸学校校

那側ハ東支諸懸案ニ對シ自由行動ヲ執リ奉露協定ニ基キテ單獨ニ決定スヘキ旨ヲ聲明セント公雷セリ勞農側ハ于督弁ノ「チヨ」代理大使攻撃ニ對シテ憤慨スルト同時二十八日理事會ノ成立ヲ妨ケムカ為同日勞農側諸理事ハ「チヨ」代理大使ト共ニ南下シタリ斯クテ十八日ノ理事會ハ遂ニ成立セス

次テ支那側ハ二十二日ニ理事會ヲ召集セントシタルカ二十日及二十一日勞農側副理事長ノ更迭アリタル為勞農側ハ「ラ」新副理事長ノ着任迄理事會開會延期ヲ申出テ二十一日ノ理事會モ遂ニ成立セス「ソ」ノ辭職ハ其立場困難トナリタルト理事會ノ成立ヲ妨ケンカ為ナリト察セラレ

于沖漢ハ右勞農側ノ理事會延期要求ニ応シタルノミナラス最初東支本社庶務課長「リヤザノフスキイ」ニ二十二日理事會ノ議題作成方ヲ命ジ「リ」課長カ之ニ從ハサリシ為直ニ免職シタリシモ間モナク有耶無耶ノ間ニ復職ヲ默認シ自ラハ二十三日奉天及天津ニ向ハンカ為列車ノ用意ヲ命スル等其鋒先稍々鈍リタル氣味アリサレト之ニ反シ張煥相ハ于督弁ニ對シテ勞農側ノ出方如何ニ拘ラス二十二日理事會ヲ召集シテ單獨決定ノ聲明ヲ為シ予定ノ行動ヲ斷行シタ其

長ニ對シテハ教職員ノ俸給ハ東支ヨリノ支給ヲ受クルコトナク支那側教育管理局ヨリ給与ヲ受ク可ク之ニ反スル者ハ免職ス可キ旨ヲ命令シ同時ニ東北艦隊代表者ハ同日東支松花江埠頭駅ニ於テ同駅倉庫及事務所ノ回收ヲ企テタリ

「ラ」副理事長カ今後如何ナル態度ニ出ツ可キカハ頗ル興味アル問題ナルカ世上一部ニ於テハ最近「セレブリアコフ」「クラコベツスキイ」「ソブラソフ」等所謂交通系統穩健派カ統々離任シ之ニ更フルニ「ラシエーヴィツチ」「ゲツツケル」等ノ如キ軍人ヲ以テシタルハ勞農政策ノ硬化ヲ意味スルモノナリト解スルニ反シ一部ハ勞農現在ノ状態ノ下ニ於テハ強硬ナル政策ニ出ツルコト困難ナルノミナラス「ラ」ハ政府反對派ニ属スルカ故ニ斷乎タル政策ヲ実行シ能ハサル可シト觀測ス十一月二十三日ノ赤系「モルワ」紙（「エホ」及「ノーヴオスチ・ジーズニ」兩紙ハ尚發行停止中）ハ勞農政府カ「ラ」ノ如キ從來國政上重要ナル地位ニ在リ且ツ平和愛好ノ主義ヲ表明セル大立物ヲ任命シタルハ平和的解決ヲ欲スルト同時ニ其多年ノ經驗ト勢力トニ依リ圓滿ニ解決センコトヲ期待センカ為ナリト論評セリ

右ノ如キ錯綜セル霧困氣ノ裡ニ「ラ」新副理事長ハ來任

セントスルモノナルカ今後形勢ノ推移ハ渺ラサル注意ヲ必要トスルヤニ認メラル

本信写送付先 在露大使、在支公使、在奉天、浦潮総領事、在長春、齊齊哈爾、滿州里各領事

四七一 十二月八日 在獨國長岡大使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

チチエリンガ記者会見ニ於テ国民党躍進ノ意 義ヲ強調シ東支鉄道ノ權利固守ヲ言明シタル 旨報告ノ件

第二九号 (十二月九日接受)

目下当地ニ滞在中ノ「チチエリン」ハ新聞記者トノ会見ニ於テ極メテ不遠慮ニ露國ト各國トノ關係ニ付意見ヲ述ヘ殊ニ英國ノ對露政策ヲロフ極メテ罵倒シ居ル処支那トノ關係ニ付テハ次ノ如ク述ヘタル趣ナリ
南支国民党ノ驚クヘキ急速ナル成功ハ世界史上重大ナル意義ヲ有ス此ノ支那ノ自由運動ハ今後共多少ノ消長ハ有ルヘキモ今日ノ南支カ即チ明日ノ支那共和国タルヘキ事ハ疑ナク「ソヴィエト」政府ハ支那ノ内政ニ干渉スルモノニ非サルモノ国民党政府トハ友好ノ關係ニアリ其ノ成功ハ吾人ノ歛

迎スル処ナリ張作霖ハ東支鉄道ニ對スル露國ノ權利ヲ奪ハントスルモ支那ニ於ケル此ノ歴史的發展ヲ阻止スルヲ得サルヘク吾人又容易ク吾人ノ權利ヲ拋棄スルモノニ非ス云々 在露大使へ暗送セリ

四七二 十二月十四日 在ハルビン天羽総領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

東支鉄道問題ヲ纏ル奉ソ交渉ハ中国南方戦局 二急激ナル變化ナキ限り平穩裡ニ終止スルト 予測セラレル旨報告ノ件

第三一三号 (十二月十五日接受)

勞農側ハ「ラシエーウィッチ」ノ来哈ト共ニ国境方面ニ増兵シタル為不穩ノ風説起リタルモ支那側主要官憲ノ南下ニ依リ形勢聊カ緩和セラレタリ勞農側今後ノ態度ニ付テハ「サウラソフ」一派カ去リテ「ラシエーウィッチ」「ゲツケル」等ノ軍人カ代リタルコト「ラ」カ東支問題ノ交渉ヲ引受ケタルニハ充分成算有リシニ依ルヘク是カ為ニ從來「サ」一派ノ穩和政策ヲ變更スルノ必要アルコト「ラ」ハ来哈ノ途次數日間齊多ニ滞在秘密軍事會議ヲ開催シタル形跡アルコト等ノ為ニ今回ハ強力手段ニ出スヘシト予測ス

四七三 十二月二十二日 在ハルビン天羽総領事ヨリ 幣原外務大臣宛

中国官憲ニ依ル東支中央圖書館臨檢ト職員拘引ニ関シ報告ノ件 機密第九六三号 (昭和二年一月四日接受)

大正十五年十二月二十二日 在哈爾濱

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿 総領事 天羽 英二(印)

支那警察官憲ノ東支中央圖書館臨檢ニ関スル件 本件ニ関シテハ十月十九日発往電第二六九号ヲ以テ當時報告致シ置キタル処支那警察官憲ハ本月二十日夜再ヒ突然同圖書館ヲ襲ヒ多数ノ赤化宣伝文(支那官憲ノ言ニ依ル)ヲ押収シ且館長「トリフォーノフ」博士外多数ノ職員ヲ拘引シ嚴重ナル取調ヘニ移リタルカ勞農官憲ノ歎願ニヨリ二十二日一応其ノ保釈ヲ許シタリ尚支那官憲ハ今後此方面ニ於テハ一層峻嚴ナル取締ヲ続行スルコトニ決定セリト伝ヘラル 右何等御参考迄

本信写送付先 在露大使、在支公使、在奉天総領事